

はじめに

昭和 63 年に 3 月に「緑と水の森林基金」が創設されてから、37 年余の歳月が経過しました。平成 23 年 7 月には、機構の組織が社団法人から公益社団法人に変更となったことに伴い「緑と水の森林基金」は「緑の水の森林ファンド」に名称を変更し、ファンドの運用収入を活用して森林資源の整備や水源かん養等の課題を中心に、「国民参加の森林づくり運動」推進のため幅広い事業を展開してまいりました。

2015 年（平成 27 年）9 月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）の達成や、人生 100 年時代におけるライフステージに応じた健康・教育・観光等への森林空間利用の促進を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森のようちえんなど新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け、今なお森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中で、当事業は、「国民参加の森林づくり」の一層の推進のための普及啓発、森林ボランティア活動への支援、森林環境教育を通じた次世代の育成などの課題を重点に、実施主体により中央事業、都道府県事業、公募事業の 3 つに区分し実施してまいりました。

本報告書は、このうち都道府県事業（令和 5 年度）（令和 4 年度・事業期間延長分）の成果を報告集として取りまとめたもので、事業内容は多種多様な課題にわたっております。ご高覧いただき皆様の活動の一助としてご活用いただければ幸いです。

終わりに、本冊子のとりまとめに当たりまして、ご協力いただきました皆様方に心から御礼申しあげます。

令和 7 年 3 月

公益社団法人国土緑化推進機構

緑と水の森林基金・ファンド 刊行物一覧

「緑と水の森林基金」事業事例集	21世紀へ引き継ぐ森林づくり	平成2年版	(1992.4)
「緑と水の森林基金」事業事例集	21世紀へ引き継ぐ森林づくり	平成3・4年版	(1994.8)
「緑と水の森林基金」事業事例集	21世紀へ引き継ぐ森林づくり	平成5・6年版	(1996.3)

緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL1	緑と水のサイエンス	(1996.8)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL2	緑と水のサイエンス	(2001.7)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL3	緑と水のサイエンス	(2004.6)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL4	緑と水のサイエンス	(2007.8)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL5	緑と水のサイエンス	(2009.5)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL6	緑と水のサイエンス	(2010.4)

緑と水の森林基金	緑と水の森林基金公募事業報告集	VOL1	(2011.3)
緑と水の森林基金	緑と水の森林基金公募事業報告集	VOL2	(2012.3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL3	(2012.12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL4	(2013.12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL5	(2015.3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL6	(2016.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL7	(2017.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL8	(2018.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL9	(2019.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL10	(2020.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL11	(2021.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL12	(2022.3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL13	(2023.6)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL14	(2024.3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL15	(2025.3)

緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL1	(2013.3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL2	(2013.12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL3	(2014.12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL4	(2016.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL5	(2017.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL6	(2018.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL7	(2019.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL8	(2020.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL9	(2021.2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL10	(2022.3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL11	(2023.6)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL12	(2024.3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL13	(2025.3)

目次

北海道森と緑の会

「美遊の森」体験活動事業 (A-1)	9
青少年育成事業 (A-2)	9
野幌自然休養林再生事業 (A-3)	10
お魚殖やす植樹運動推進事業 (A-4)	10
家族きのご観察会事業 (A-5)	11
北海道指導林家社会貢献緑化推進事業 (A-6)	11
次世代に引き継ぐ森林づくり事業 (A-7)	12
「羊蹄里山の森」における森づくり・森林空間利用事業 (A-8)	12
森林ボランティア活動推進事業 (A-9)	13
旭山希少種調査・保護生物多様性保全事業 (A-10)	13
野幌森林公園観察会 (A-11)	14
札幌市定山溪自然の村定山溪遊々の森を活用したプログラム (A-12)	14
木になるフェスティバル (A-13)	15
普及啓発事業「森林（もり）の市（いち）」(A-14)	15
日曜大工事業 (A-15)	16
枝幸町民植樹祭 (A-16)	16
生物多様性の保全を目指したオホーツクの森づくり事業 (A-17)	17
森林及び木製遊具体験事業 (A-18)	17
森林環境教育推進事業 (A-19)	18
木育ひろば in チ・カ・ホ (A-20)	19
北海道木育フェスタ推進事業 (A-21)	19
馬追自然の森整備事業 (C-1)	20
コンサ百年の森づくり事業 (C-2)	20
野幌の森再生事業と親子による植樹祭 (C-3)	21
旧豊平川河岸に原始の森を創る 150 年プロジェクト (C-4)	21
森林整備で地球環境の一助となる！ (C-5)	22
札幌市連携：さっぽろふるさとの森づくり事業 (C-6)	23
恵庭かわまちづくり植栽事業 (C-7)	23
令和 5 年度里見緑地内植樹・環境整備保全事業 (C-8)	24
こころねの森 整備・活用事業 (C-9)	24
五稜郭保安林清掃事業 (C-10)	25
「おさかなの森づくり運動」(C-11)	25
第 29 回サケの上る森づくり植樹祭 (C-12)	26
「ユネスコの森づくり」(C-13)	26
帯広の森第 7 および第 8 ブロック森づくり事業 (C-14)	27
森は海の恋人植樹事業 (C-15)	27
野付湾の流域河川の河畔林づくり事業 (C-16)	28

青森県緑化推進委員会

「未来の青い森県民植樹祭」実施事業 (A-22)	29
木と人とのふれあい事業 (A-23)	29

岩手県緑化推進委員会

令和 6 年度遠野市緑化祭『里山フェスタ 2024』(A-24)	30
一関地方育樹祭 (A-25)	30
緑の少年団育成事業 (A-26)	31
木工工作キット配布事業 (A-27)	31
ふるさとの巨樹・名木観察会 (A-28)	32

第 54 回岩手県緑の少年団大会 (A-29)	32
宮城県緑化推進委員会	
宮城県みどりの少年団大会開催事業 (C-17)	33
秋田県緑化推進委員会	
緑と水のキャンペーン事業 (A-30)	34
市民グループ森林づくり事業 (A-31)	34
緑の少年団育成事業 (C-18)	35
森林活動指導者支援事業 (C-19)	35
やまがた森林と緑の推進機構	
山形県林業まつり開催事業 (A-32)	36
庄内森とみどりのフェスティバル開催事業 (A-33)	37
緑の環境づくり啓発事業 (A-34)	37
山形県緑の少年団連盟交流研修支援事業 (A-35)	38
緑化普及啓発事業 (第 32 回緑の提言・作文コンクール) (A-36)	39
福島県森林・林業・緑化協会	
普及啓発事業 (第 48 回福島県林業祭) (A-37)	40
ファミリー緑の教室の開催事業 (A-38)	40
ふくしま緑の醸成事業 (A-39)	41
茨城県森林・林業協会	
青少年に対する林業普及啓発資材の配布事業 (A-40)	42
緑の体験教室開催事業 (A-41)	42
グリーンフェスティバル開催事業 (A-42)	43
森林ボランティア育成事業 (C-21)	43
山村地域づくり活動助成事業 (C-22)	44
緑化樹木等苗木無償配布事業 (C-23)	44
とちぎ環境・みどり推進機構	
森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発事業 (A-43)	45
青少年の教育の場としての森林の活用促進事業 (C-24)	45
群馬県緑化推進委員会	
群馬県植樹祭開催 (A-44)	46
「木育」活動促進事業 (A-45)	46
巨樹・古木巡りツアー事業 (A-46)	47
森と木のまつり (A-47)	47
埼玉県緑化推進委員会	
さいたま森林フォトコンテスト事業 (A-48)	48
緑の少年団活動支援事業 (A-49)	48
緑化普及啓発事業 (A-50)	49
千葉県緑化推進委員会	
令和 5 年度国土緑化運動ポスター原画コンクール (A-51)	50
東京都農林水産振興財団	
ふるさとの杜活力調査事業 (B-1)	51
にいがた緑の百年物語緑化推進委員会	
普及啓発 卒寿の森づくり事業 (A-52)	52
「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業 (秋期) (A-53)	52
「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業 (春期) (A-54)	53
スガ池周辺整備設計・植生調査委託事業 (A-55)	53
とやま緑化推進機構	
森林・木材等普及啓発事業 (A-56)	54
花とみどりの少年団活動支援事業 (C-25)	55

石川県緑化推進委員会

緑化思想の普及啓発事業 (A-57)	56
県内産緑化苗木無償配布事業 (C-26)	56
森づくりボランティア・キャンペーン事業 (C-27)	57

福井県緑化推進委員会

もりとふれあい推進事業 (普及啓発事業) (A-58)	58
ふくいの森林づくり推進事業 (活動基盤の整備) (C-28)	58

山梨県緑化推進機構

普及啓発事業 教職員森林・林業研修 (A-59)	59
普及啓発事業 緑の少年隊活動発表会大会開催事業 (A-60)	59
普及啓発事業 緑化ポスターコンクール等開催 (A-61)	60
普及啓発事業 子ども樹木博士認定事業 (A-62)	60
普及啓発事業 親子緑の集い (A-63)	61
普及啓発事業 親子森林・林業体験教室開催事業 (A-64)	61
普及啓発事業 森林環境教育・木育支援事業 (A-65)	62

長野県緑の基金

緑・森林の感謝祭等開催事業及び児童啓発事業 (A-66)	63
------------------------------------	----

岐阜県緑化推進委員会

緑化推進キャンペーンと資材供給事業 (A-67)	64
恵みの森づくり事業 (C-29)	64

静岡県グリーンバンク

森づくり県民大作戦支援事業 (A-68)	65
森林ESD推進事業 (C-30)	66

愛知県緑化推進委員会

普及啓発 みどりのに親しむ集い事業 (A-69)	67
みどりフェスティバル 23 秋・24 春 事業 (A-70)	68
苗木の育成と配布事業 (愛知県植樹祭) (A-71)	68
調査研究 ふるさと樹木診断事業 (B-2)	69
活動基盤整備 森林ボランティア養成事業 (C-31)	69

三重県緑化推進協会

みどりの少年隊活動推進 (A-72)	70
森林教室開催 (A-73)	70
森林ボランティア活動促進 (A-74)	71
県民参加の森林づくり運動推進 (巨樹・古木見学会、クマノザクラ観察会) (A-75)	71
海・山連携植樹活動実施 (A-76)	72
苗木配布、緑化相談 (A-76-1)	72

滋賀県緑化推進会

活動基盤整備・緑の少年団育成強化事業 (C-32)	73
---------------------------------	----

京都モデルフォレスト協会

京都モデルフォレスト運動連携強化事業 (A-77)	74
---------------------------------	----

大阪みどりのトラスト協会

自然環境保全団体ネットワーク事業 (A-78)	75
府民参加の森林づくり事業 (A-79)	75

兵庫県緑化推進協会

地域緑化イベント開催事業 (A-80)	76
地域緑化イベント開催事業 (A-81)	76
森林整備・緑化活動支援事業 (C-33)	77

奈良県緑化推進協会

森の文化活動事業 (A-82)	78
-----------------------	----

ボランティア緑化活動事業 (C-34)	78
和歌山県緑化推進会	
普及啓発事業 (A-83)	79
活動基盤の整備 (C-35)	79
鳥取県緑化推進委員会	
活動基盤整備事業「樹名板設置事業」(A-84)	80
活動基盤整備事業「木工工作キット配布事業」(A-85)	80
活動基盤整備事業「青少年・民間活動グループ育成事業」(C-36)	81
島根県緑化推進委員会	
「森の誕生日」2024 事業 (A-86)	82
緑の少年団育成強化事業 (C-37)	83
森林を考える岡山県民のつどい実行委員会	
第 22 回森林を考える岡山県民のつどい (A-87)	84
岡山県木材組合連合会	
県産木材フェア開催事業 (A-88)	84
くらしき都市緑化フェア実行委員会	
第 39 回くらしき都市緑化フェア (A-89)	85
岡山県緑化推進協会	
緑化普及推進事業 (C-38)	85
広島県みどり推進機構	
みどりの集い開催事業 (A-90)	86
広島県木材組合連合会	
ひろもくデザインアワード (A-91)	86
広島県みどり推進機構	
緑の少年団交流集会開催事業 (C-39)	87
やまぐち農林振興公社	
都市と山村ふれあい交流促進事業 (A-92)	88
森林体験学習支援事業 (C-40)	88
記念の森造成事業 (C-41)	89
徳島森林づくり推進機構	
企業の森づくり普及啓発イベント (C-42)	90
かがわ水と緑の財団	
緑化普及活動事業 (A-93)	91
愛媛の森林基金	
木工作品製作キット配布事業 (A-94)	92
愛媛の森林友の会育成及び現地研修会開催事業 (A-95)	92
高知県森と緑の会	
土佐の名所の樹木活性化事業 (A-96)	93
森のようちえん推進事業 (A-97)	93
高知県森林インストラクター養成講座 (A-98)	94
地域の森林整備事業 (C-43)	94
活動基盤整備推進事業 (C-44)	95
福岡県水源の森基金	
森林ふれあい交流 (A-99)	96
グリーンフェスティバル 2024 (A-100)	97
第 33 回世界子ども愛樹祭コンクール (A-101)	97
第 11 回もりもりひろがる森林づくり (A-102)	98
花立山の里山保全作業 (A-103)	98
里まちサイクルプロジェクト (A-104)	99

森を五感で感じよう（森林体験活動）（A-105）	100
さが緑の基金	
森川海人っフェス！（A-106）	101
緑の探検学習会（C-45）	101
長崎県緑化推進協会	
森林のつどい事業（A-107）	102
緑の少年団活動活性化事業（C-46）	102
森のめぐみいきいき活用促進事業（C-47）	103
熊本県緑化推進委員会	
くまもと森づくり普及・啓発事業（A-108）	104
緑の少年団活動育成事業（C-48）	104
シンボル森林の活用促進事業（C-49）	105
シンボル森林の活用促進事業（C-49）	106
森林ネットおおいた	
ふれあい森林教室（A-109）	107
大分県農林水産祭林業部門（木と暮らしのフェア）（A-110）	108
大分県みどりの少年団のつどい（A-111）	108
名木保全事業（B-3）	109
森林ボランティアリーダー養成研修（C-50）	109
宮崎県緑化推進機構	
緑と花のふれあい推進事業（A-112）	110
森林浴癒しの集い事業（A-113）	110
かごしまみどりの基金	
かごしまの緑・元気な森林体験事業（A-114）	111
かごしまの名木古木樹勢診断事業（B-4）	111
活力のある緑の少年団活動促進事業（C-51）	112
森林ボランティア活動促進事業（C-52）	112
沖縄県緑化推進委員会	
令和5年度 緑の育樹祭開催事業（A-115）	113
令和4年度・事業期間延長分	
北海道森と緑の会	
木になるフェスティバル（A-14）	116
京都モデルフォレスト協会	
京都モデルフォレスト運動連携強化事業（A-80）	116
高知県森と緑の会	
森の魅力普及啓発事業（A-101）	117

「美遊の森」体験活動事業（A-1）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

美瑛市立中央小学校にて、子供達に木や森との関わりについて学習する体験学習会を実施した。体験学習会の内容は、防風林の機能と役割についての講義と、林内の植物を使用したしおり作りを行い、自然に触れる体験を通して、森林の大切さや自然への理解を深めてもらい、子供達の豊かな心を育むことを目的とした活動。

2. 活動の成果

今回の学習会では、子供達が木育マイスターの講義を熱心に聞き入り、座学や林内植物を使用した創作活動を通じて木や森の役割を学ぶ機会を提供することができた。

3. 参加者の声

- ・防風林は風除け以外にも様々な機能があること知れて勉強になった。
- ・林内植物を使用したしおり作りでは色々な植物を使って綺麗に作ることができてよかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月10日	合計
事業量	体験学習会	
参加者数	53人	53人
実施場所	美瑛市立中央小学校	

青少年育成事業（A-2）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

（緑の体験学習）

市内小学生を対象に、道民の森において緑の体験学習を実施した。

体験学習の内容は、森の緑について学び、自然にある木の枝や実を使っての工作活動や、自然の植物の仕組みを模した遊びを行う中で、植物を身近に感じ、自然に対する意識の向上を図ったもの。

（学校緑化）

地域の核ともいえる市内小・中学校の環境緑化を実施し、児童生徒が校庭林など、緑への理解と愛情を深めたもの。

（青空園芸教室）

市内小学生を対象に、北海道深川東高等学校において青空園芸教室を実施した。

園芸教室の内容は、高校生を講師として緑に関する知識を学び、自分で選んだ花苗と野菜苗で寄せ植えを作成し、緑への理解と愛情を深めたもの。

2. 活動の成果

（緑の体験学習）

体験学習を通して、森の緑と触れ合いながら、自然の仕組みや、人間と自然との正しい関係について理解を深め、自然に対する愛情とモラルの高揚となり、緑化思想の普及活動の一環となった。

（学校緑化）

校庭林等を植えて育てることによって、身近な緑を慈しむ心と自然の恵みに感謝する心を育て、これからの街づくりを担う子供たちへの緑化思想の普及となり、花と緑あふれる美しい環境づくりを推進できた。

（青空園芸教室）

今回の園芸教室を通して、花や野菜、木についての知識を身につけ、自ら植えて育てることによって、身近な緑を慈しむ心と自然の恵みに感謝する心を育て、これからの街づくりを担う子供たちへの緑化思想の普及となり、花と緑あふれる美しい環境づくりの推進に貢献した。

3. 参加者の声

（緑の体験学習）

参加者は、自然との触れ合いを楽しんでおり、自然との関わりの中楽しさをみつけて、緑への興味を深めたようであった。

（学校緑化）

校庭等の緑化を行う中で緑の大切さを学び、緑への関心を高めたようであった。

（青空園芸教室）

参加者は、緑の大切さを学び、緑の知識をより多く得たいと思ってくれたようであった。高校生との交流の中で、緑を育てる喜びを知り、緑の街づくりへの意欲を感じられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2023/8/3	2024/5/1	6/7・18・20	合計
事業量	みどりの体験学習	学校緑化	青空園芸教室	
参加者数	28人	*	119人	147人
実施場所	道民の森 神居尻地区 森林学習センター	深川小学校	北海道深川東 高等学校	

野幌自然休養林再生事業（A-3）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

野幌森林再生事業（社会貢献の森での下草刈り、
道民の森での下草刈り
札幌市水源の森づくりプロジェクトに参加
森林教室の開催

2. 活動の成果

道民の森での下草刈り、野幌自然休養林内に熊出没情報があり、下草刈り1回と自然ふれあい交流館での森林教室の開催でした。
活動場所内に会員の寄付により看板設置を行なった事により、遊歩道を通る一般の人達に我々の活動を知らせる事ができました。

3. 参加者の声

野幌自然休養林内には遊歩道があり、一般の人達が憩いの場としています。その一部に私達の活動の場があることが、会員の誇りです。

今年は熊出没情報があり、活動の一部が制限され計画通りに活動が出来なかったのが、残念です。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2024/9/20~2024/9/27	合計
事業量	1箇所	
参加者数	5名	5名
実施場所	NPO法人シーズネット事務所内	

お魚殖やす植樹運動推進事業（A-4）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

当別町「道民の森」において、北海道女性連をはじめ、全道各地より水産関係者や農業・林業関係者、消費者団体等73名が参加し、ミズナラ・ハルニレを計500本を植樹した。

2. 活動の成果

植樹を通じて、水産関係者だけでなく、農業・林業関係者や消費者団体等にも、植樹の大切さや森-川-海の繋がりについて理解を深めてもらえ、海洋環境の保護について様々な分野において認識を広められた。

水産関係者とこれ以外の業界団体との協力によって植樹事業の継続ができ、今後の森づくり活動に繋げられる実績を残すことができた。

3. 参加者の声

植樹地に岩が多い場所もあり、例年になく苦労した。

天気が心配されたが、無事植樹が実施でき、何よりだった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月14日	5月28日	合計
事業量	地拵え	植樹	
参加者数		73人	73人
実施場所	道民の森神威尻地区「水源の森」	同左	

家族きのご観察会事業（A-5）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

イベント家族きのご観察会、実施目的。

森林を大切にすることを心を持っていただきたく、ゴミ拾いをしながらのキノコ観察。

また、秋の実りであるキノコを安心、安全に食していただきたいので、毒キノコによる食中毒防止の目的もある。

9月24日に札幌市民を対象に旭山記念公園と旭山都市環境林においてきのご観察会を実施した。

一般参加者と当団体の家族会員も含めて親子70名ほどが森林に入り、発生きのこを手に取り、楽しく学んだ。

森林内での観察終了後は小川貴由樹先生と小林孝人先生によるきのこの生態説明に参加者皆さんが熱心に耳を傾けていました。

尚、今年はコロナが5類になったのできのこの汁を参加者全員に無料で食べていただいた。

2. 活動の成果

きのご観察会を通して、キノコをとりまく自然環境とキノコの形態と食・毒の見分け方などを学んだので、きのこを食しての中毒防止につながったと思います。

また、森林を育て守ることの大切さを知り、森づくりに参加していただくきっかけとなったと思われます。森づくりへの普及効果が考えられます。

3. 参加者の声

1. 100種類以上のきのこが発生していたのに驚いた。
2. 色々な食のきのこの説明が分かりやすかった。
3. 来て学べて良かった。
4. 美味しいボルチーニ（ヤマドリタケ）とタマゴタケが観察出来。参加してよかった。
5. きこのこは奥深くてなかなか難しい、名前が無い不明種が多いことを初めて知った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月24日	合計
事業量	当日きのご採集77種類 持込30種類。	
参加者数	一般21名 会員50名	71名
実施場所	北海道札幌市旭山記念公園、旭山都市環境林	

北海道指導林家社会貢献緑化推進事業（A-6）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・木工体験教室の実施（第19回芦別林産フェスティバル「元気森森祭り」内でブースを出して実施）
- ・ウッドバーニングペン（電熱ペンで木のコースタ等に模様を描く）体験
- ・木の見本を活用し、樹種の違い（色味・重さ）を体感

2. 活動の成果

- ・木工教室などの木育体験を実施することにより、木材利用に係る理解の促進など、地域における緑化思想の普及推進が図られた。
- ・木の暖かさを感じてもらい、作品を作ることで愛着をもってもらった。
- ・樹種や年輪等によって加工のしやすさが違うなど、木の性質について知ってもらえた。

3. 参加者の声

- ・木に絵を描くのは楽しいですね
- ・できた！楽しかった
- ・線を書くのが難しいですね（点で描く方が描きやすい）
- ・木のこげる香りがいいですね
- ・白くてきれいな木ですね（コブシの輪切りを多く活用したため）

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年5月19日		合計
事業量	木工工作（バーニングペン体験）	1回	
参加者数	61人	61人	幼児10名、小学生28名、 中学生5名、地域住民10名、 関係者8名
実施場所	道の駅スターライト芦別		

次世代に引き継ぐ森林づくり事業（A-7）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 音更町において、地域住民（児童・生徒・親子）を対象に木工教室を開催し、森林・林業、木材利用に関する体験活動を実施した。
- 置戸町において、地元中学生を対象とした植樹作業・間伐現場体験学習を開催し、森林づくりの体験活動を開催した。
- 足寄町において、林地残材を活用したツリーイルミネーション、ウッドキャンドルで「小さな森」を演出し、パレットストーブの上で焼き芋を行った。
- 森町において、きのこの植菌体験を開催し、植菌のほか「森林の役割」や「木の種類と特徴」等も解説し、森林・林業、木材の活用について普及啓発を行った。

2. 活動の成果

- 木工教室を通じて、地域の木材に触れ親しむことで、森林・林業、木材利用について、理解促進を図ることができた。
- 児童・生徒等が体験学習を通じて、森林の働きや森林づくりの方法等を学び、森林への関心を持つとともに森林の大切さや森林整備の重要性を理解してもらうことができた。
- ウッドキャンドルナイトを通じて、地域の基幹産業である林業や森林について理解してもらい、自然環境の重要性を身近に感じてもらうことができた。
- きのこの植菌体験を通じて、森林の恵みに対する理解や林業・特産林産物への関心が高まると共に、林産物の供給など森林の公益的機能についての理解が深まった。

3. 参加者の声

- 丸太切り、薪割りとすごくいい体験をさせることが出来た。（保護者）
- 植樹作業で「作業は大変だが楽しかった」「森林整備の重要性が理解できた」
- 林地残材の有効利用について理解でき、木のぬくもりが感じられ、癒やされた。
- 「キノコ栽培体験を通して森林や木への興味を増すことが出来た。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月6日	11月13日	1月27日	4月21日	計
事業量	木工教室・薪割り・丸太切り体験	植栽面積 0.67ha	林地未利用材を活用したツリーやウッドキャンドル等の展示等	しいたけ植菌の植菌体験	
参加者数	32人	49人	2,000人	20人	2,101人
実施場所	音更町 (十勝エコロジーパーク)	置戸町字置戸 9林班45小班	足寄町 (あしよろ銀河ホール)	森町字白川	

「羊蹄里山の森」における森づくり・森林空間利用事業（A-8）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

1 森カフェ&コンサート

持続可能な森林経営に向け新たな森林利用の方法を検討・実施し、その普及を図りながら森林の公益的機能が発揮できるように努めることを目的とし、京極町字錦にある「ようてい木育倶楽部所有林」において、次のことを実施した。

- ①森林散策&森林整備体験
- ②森林整備で切った木を使いトンカチづくりなどの木育体験
- ③森に触れよう（森の素材を使ったマリオネット制作&ワークショップ体験）
- ④シラカバ樹液紅茶&おやつ付き「森のカフェ」の開店
- ⑤手作り楽器を使い演奏する「森のコンサート」の開催

2 森カフェアフター事業

森カフェ事業を一過性のものにならないため、森カフェ参加者等に呼びかけをし、森林整備体験&木育体験等を実施した。

2. 活動の成果

昨年実施した森カフェ事業ですが、今年は口コミなどから地元後志管内からの参加者が増え、地域に根ざせる事業へと発展できる可能性を実感しました。また、森カフェアフター事業においても、森カフェ参加者等に森林整備体験を行ってもらうなど森と人が近づいて来た実感することが出来ました。

様々なメニューを提供した結果、私有林においても木材生産だけが森林の利用方法でないことは参加された皆さんに理解していただいたと思います。

3. 参加者の声

- ・1日この森で過ごせて良かった。プライベートでも来てみたい
- ・ワークショップなどの体験メニューが増えて楽しく過ごせた
- ・来年も絶対参加します！
- ・（参加できなかった人から）地元のイベントが重なってしまって参加できなかったのは残念
出演者もスタッフも参加者も楽しめるイベントになりつつあり、さらにアフター事業でも「ここは居心地がいい」という意見があり、森林の利用方法をさらに広げ、来年はメインやアフター事業だけでなくプレ事業も加えて実施したいと考えています

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月3日	9月6日～11月25日	合計
事業量	森カフェ&コンサート	所有林整備木育事業	
参加者数	47名	24名	71名
実施場所	ようてい木育倶楽部所有林	ようてい木育倶楽部所有林	

森林ボランティア活動推進事業（A-9）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

令和5年度の活動は、①新型コロナウイルス感染症が鎮静後も続く外出自粛②更に自動車燃料や貸切バス借上げ料の高騰による遠出の敬遠③猛暑による熱中症をおそれての山中歩行観察の回避などにより来園者が回復しない中、道民の森の指定管理者から要請のあった森の観察会、植樹指導、「キノコの日」、「親子でキャンプ」などの催事支援及び会員相互のスキルアップを図る研修事業を、感染防止を徹底して取り組んだ。

なお、学校観察会の参加者減により児童に配布していた「森の観察ガイド」が想定外の在庫が生じたため、当面は在庫で対応可能なので印刷は見合わせることにし、その費用を研修事業に充てた。

2. 活動の成果

道民の森において「森の観察」及び小学校児童の森林環境学習時に森林の生い立ちとその大切さ、及び人と森との関わり合いについて解説し、理解を深めることができた。また、水源の森ではトドマツ、ミズナラ等の郷土樹種の植樹指導を実施し、森林整備の大切さを実感していただいた。

さらに、道民の森の各種催事に参加し、森と触れ合うことによるやすらぎと楽しさ、森が人に与えてくれる役割の大切さを感じてもらったための支援活動を実施した。

3. 参加者の声

森の観察会の参加者からは森林に立ち入ることにより、森の中での生物間の生き残るための闘い、弱肉強食と食物連鎖、子孫を残すための知恵比べ、共存共栄の様子を観察し、森林の懐の深さと大きさを再認識していただいた。樹木への愛情が育まれ、森林造成が地球温暖化の防止に役立つことを理解してもらったことができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年5月1日～令和6年5月31日	合計
事業量	213人	213人
参加者数	1,798人	1,798人
実施場所	道民の森神居居地区	

旭山希少種調査・保護生物多様性保全事業（A-10）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

集水域の水辺の環境や里山的環境の保全を行い生物多様性や希少種の保護を行いました。水辺の環境保全では、昨年に引き続き都市環境林にある「ふしぎ池」の池底改良を行いました。今年度新たに土砂の流入を防ぐため土留を設置しました。都市環境林や園内の調査していない沢で生き物調査を行いました。また、里山的環境保全では、植樹した樹の管理や外来種の除去、雑草取りを行いました。生き物のすみか（エコスタック）の保守点検や啓発看板のかけかえを行いました。7月から翌年6月まで体験型自然観察会「森のたんけん隊」を主催しました。7月翌年6月には啓発活動として近隣小学区への環境教育支援を行いました。

2. 活動の成果

水辺の環境保全では土留めを設置したことで土砂の流入を防ぐことができ、「ふしぎ池」の面積の減少や水位の減少を食い止めることが期待できます。生き物調査では新たなポイントで「日本ザリガニ」の生息を確認しました。里山的環境の保全では、昨年に引き続き「オオムラサキ」の幼虫が植樹した樹に卵を生みました。残念なことに幼虫と植樹した樹の盗難事件が occurred。対策を検討し来年に向けた話し合いをおこないました。更なる啓発活動を目的に「旭山緑のサポーター」の募集をおこなうこととしました。近隣小学校への環境教育支援や一般参加者を募る「森のたんけん隊」も大変盛況でした。札幌市子ども環境コンテストでは最優秀賞を頂き「旭山自然調査隊」の活動が評価された一年でした。

3. 参加者の声

- ・近隣小学校への環境教育支援「旭山ウォーカー」参加者：遠足で訪れたことは何度もあるが、ガイドをしてもらい魅力を教えてもらいながらの散策は全然違いました。自分たちだけでは気が付かない、見つけられない、発見ばかりでした。
- ・「森のたんけん隊」取材：子供たちの真剣なキラキラしたまなざしが印象的でした。情操教育といった点でも本活動は素晴らしいと思いました。
- ・参加者：生き物がいっぱい見れて楽しかったです。
- ・調査隊活動参加者：この自然を守るのは日々先輩たちから引き継がれているので今後も守っていきたくです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～6月	7月～6月	7月～6月	7月・翌6月	合計
事業量	生き物調査	保全活動	観察会	近隣小学校への環境教育支援	
参加者数	120人	180人	361人	459人	1,120人
実施場所	旭山記念公園・都市環境林	旭山記念公園・都市環境林	旭山記念公園・都市環境林	旭山記念公園・都市環境林・緑丘小学校	

野幌森林公園観察会（A-11）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

札幌近郊の市民を対象に利根別自然休養林（ヒグマが出没する野幌森林公園から変更）において、生物多様性の保持機能と森林の有する諸機能について普及啓蒙を目的とした森林観察会を実施した。実施に当たってアクセスについては、乗車者（当会ガイド13名、参加者16名、計39名）を札幌テレビ塔下から現地往復の借上げバスを用意（往：出発午前9時、復：現地出発午後1時半）した。ガイドに当たっては、借上げバスの中で、当会から現地での注意事項、利根別自然休養林の概要、事前に調査し、作成した「利根別自然休養林の樹木ガイドブック」を参加者に配布、事前に説明した。利根別自然休養林集合場所に借上げバス到着後、現地参加者（ガイド1名、参加者2名）を合わせ3班に編成、10時半から12時半までの約2時間、森林観察を行った。森林観察にあたっては、胸高直径60cm以上のミズナラ、ハルニレ、ハリギリ等の原生林をガイドの資料に基づいて樹木の名の由来、歴史、文化などについて説明し、樹木の葉については、絨毯のように敷き詰められた落葉の中から探し出して説明した。

2. 活動の成果

活動当日は、紅葉時期の終わりに近づきつつあったが、参加者の多くは、原生林の大木と紅葉、歩道に絨毯のように敷き詰められた落葉、日常経験できない大自然の環境に感動し、自然環境や生物多様性の保全の重要性について普及啓蒙に成果があったものと認識している。夏では経験できない高木の葉の同定を落葉で行った。経験であったが、一般参加者に生物多様性について理解を深めさせることに貢献したものと認識している。今後も今回の経験を生かして活動していきたいと考えている。

3. 参加者の声

- ◇原生林のたたずまい、大正池等北海道開拓時の面影を忍ぶ貴重な体験となった。
- ◇落葉の絨毯の上を歩いて感動した。
- ◇何の樹木の葉っぱか色鮮やかな落葉の中から選び、ガイドに聞くなど貴重な体験となった。
- ◇説明資料の内容は分かりやすく理解できた。ガイドの説明も親切で分かりやすかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月4日	合計
事業量	森林観察会	
参加者数	42人	42人
実施場所	北海道岩見沢市・利根別自然休養林	当初の実施場所、野幌森林公園から利根別自然休養林に変更して実施した。（ヒグマ）

札幌市定山溪自然の村定山溪遊々の森を活用したプログラム（A-12）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

昆虫博士キャンプ中・高生については中学生・高校生を対象に北海道大学総合博物館教授の大原昌宏氏を招き、昆虫の種類や生態について学ぶ事業を実施した。2日程での実施とし、1日目は定山溪自然の村「昆虫の広場」、「定山溪遊々の森」をフィールドに昆虫観察、採集を行った。2日目は北海道大学総合博物館にて1日目に採集した昆虫を展翅展足し、標本を製作した。「昆虫大発見！」は管理センターに昆虫マップを作成し、自主的に生物多様性を学んだり、環境保全について考えることができるように工夫を凝らした。

2. 活動の成果

昆虫博士キャンプ中・高校生については、昆虫（生物）を通して、生物多様性について学び、かつ自然環境の保全をテーマとし実施をしていた。自然環境が守られているから見られていることを再認識するとともに、今後我々にはどのような行動が必要なのかを活動の中で学ぶことができた。次世代の研究者を発掘し、より生物多様性の重要性を広めていくように展開していきたい。「昆虫大発見！」では、数多くの参加者が自ら生物多様性について学びを深めていく様子が伺えたため、今後も継続していきたいプログラムであると感じた。

3. 参加者の声

参加者からは、「昆虫による生息域の違いについて学ぶことができた」、「標本を製作することが昆虫の生態を知ること、また周辺の自然環境を知ることにつながることを学んだ」、「将来研究者（生物・環境）を目指しているが、教授に直接話を聞ける機会は貴重でとてもよかった」という声があった。保護者からは、「昆虫について専門的に学べる機会が少なかったのがよかった」という声があり、参加を喜ぶ声が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月30日	8月6日	合計
事業量	【昆虫採集】 定山溪遊々の森 7月 昆虫大発見！	【標本製作】 北海道大学総合博物館 8月 昆虫大発見！	2日程
参加者数	8人：昆虫中・高生 100人：昆虫大発見	6人：昆虫中・高生 100人：昆虫大発見	14人 200人 214人
実施場所	北海道札幌市南区定山溪・北海道大学総合博物館		

木になるフェスティバル (A-13)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

1) 活動の目的

道産材を用いた木工を通じ、北海道の森林や樹木に対する親しみと理解を深める。

2) 活動の内容

①木材を用いる6種類*の工作・実験を実施した。

*: ダビンチ橋を渡ってみよう、旭川を木のまちにしよう、もくもこもこ、木製スマホスピーカーをつくろう、北森カレッジでコースターづくり、10分でできる木のマグネットづくり

②木になるフェスティバルの延長として「10分でできる木のマグネットづくり」を、7月15日～7月30日、実施した。

2. 活動の成果

参加者アンケートには、「3.参加者の声」に示す感想が記載されており、参加者が木の可能性や工作のおもしろさを実感し、木材に対する親しみを深めたことが推察される。このような機会を積み重ねていくことで、森林の適正な活用への理解、道産木材の利用推進が期待される。

3. 参加者の声

「木のことをくわしく知ることができた」、「木を使っていろいろなことができることがわかった」、「木についての説明を聞いた、身をもって体験することができて勉強になった」、「林業について考える機会となりました」、「どこもかしこも木材のいい香りでステキでした」、「木について子どもと一緒に学びました」、「テレビで見たことだったので、実際に体験できて良かった」、「創作意欲が育てられると思った」、「環境に良い素材を学べた」、「木を伐る体験ができた」

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月22日	7月15日～7月30日	合計
事業量	木になるフェスティバル	10分でできる木のマグネットづくり	
参加者数	51人	60人	111人
実施場所	木と暮らしの情報館、林産試験場構内	木と暮らしの情報館	

普及啓発事業「森林（もり）の市（いち）」(A-14)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

私たちの日常生活と深い関わりを持つ森林から生産される木材の良さを広く市民に理解を深めたく、関係団体・木育マイスターと共に「木に触れ、木と遊びながら木の持つ優しさ・暖かさが実感できる参加型・体験型のイベント、道産材・間伐材の使用・紹介・パネル展示、木材・木製品等の展示・販売等」を通じて、森林や木の持つ素晴らしさ及び利用への理解を促し、併せて森林の持つ多面的機能及び地球温暖化対策の理解、さらに林業・林産業の振興を目指し開催した。

2. 活動の成果

現在・未来の世代のため、全てのタイプの森林の持続可能な森林経営、保全、開発を強化することについて、あらゆるレベルでの認識を高めるよう努力すべきとされている。

子供から大人まで市民の方に環境エネルギー資源の問題解決に木材が中核的な役割を果たすことを期待し暮らしに直結する身近な生活の中に木を取り入れてこそ癒されると、木材・木製品等の展示・販売、そして木工工作体験を通し関心を持っていただけた。

また、ポスターを各所へ掲示、チラシの配布、ホームページに掲載、ネット配信、タウン情報紙掲載等、広くPRに努めた結果、参加体験者が増えたことは森林・林業の重要性についての普及啓発の一翼を担ったと思う。さらに木育マイスターの普及宣伝にも効果があったと思われる。

今後も、森林・林業の普及啓発活動を展開していきたいと考えている。

3. 参加者の声

①木の扇子づくりをしました。可愛い扇子ができたのでうれしかった。

②親子トンカチで植木を置く台を作った。暑かったけど木材の香りがする会場で親子で楽しめたので良かった。来年も参加したい。

③銘木でひつじをつくろう！を体験しました。出来上がったひつじは家の玄関に飾ろうと思います。無料でとても楽しめました、今後も続けて欲しい。

④販売コーナーの木工品をはじめシイタケのほだ木・カブトムシ・スウェーデントーチに興味があったので、それを目当てにイベントに来ました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月30日	合計
参加者数	約700人	約700人
実施場所	北海道旭川市	

日曜大工事業（A-15）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

日曜大工を通じて地域材（カラマツ材）を活用したことで、森林や材料に対する関心を深めるとともに、家族や地域・グループ等のコミュニケーション形成の場所を提供を目的とする。

当地区内の一般家庭（子育て世帯等）に対し、新聞にチラシ折り込みにて周知し募集を募る。多数の場合は抽選し、対象者を決める。当日はてっぽう虫の会会員の敷地内にて日曜大工を行う。

2. 活動の成果

8月6日に開催し、10組・24名の参加となった。親子での参加やシルバー世代等幅広く参加してもらい、家族間及び世帯間でのコミュニケーションが取れた。また、地域材を使った製品として説明し、作成過程や完成品の保存方法等を説明する事で、材木に対する興味・関心を持った。

3. 参加者の声

- ・友達との参加だったが、無事完成できてとても良かった。スタッフがお手伝いしてくれたし、違うグループと同じ物を作るときに作り方の相談をしながら出来て楽しかった。
- ・家族で参加しました。小学3年生と1年生なので作るのには難しいかなと思いましたが、子供たちが一生懸命最後まで頑張ったので出来ました。一つの物を家族みんなで作れる機会はありませんので、とても良かったです。
- ・一人で参加しましたが、お手伝いの人と一緒に作れました。久しぶりに大工工事したので夢中になりとても楽しかったです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月6日	合計
参加者数	24人	24人
実施場所	美瑛町森林組合	

枝幸町民植樹祭（A-16）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

町民を対象に枝幸町間牧地区町有林（北の魚つきの森）において町民植樹祭を予定していましたが、当日、荒天のため中止となり、後日、関係者のみで植樹を実施した。

植樹は、トドマツ及びケヤマハンノキ各200本、計400本を植栽した後、記念標柱を設置し、全日程を終了した。

2. 活動の成果

荒天により中止となったため、関係者のみの開催となりましたが、今後も地域の森林、林業への理解の促進を図るため、これまで以上に活発な「森林を守り育てる取り組み」を行い、さらに多くの町民に森林、林業への理解を深めてもらうための事業を展開していきたいと考えている。

3. 参加者の声

荒天により中止となったため、関係者のみの開催となりましたが、今後も地域の森林、林業への理解の促進を図るため、これまで以上に活発な「森林を守り育てる取り組み」を行い、さらに多くの町民に森林、林業への理解を深めてもらうための事業を展開していきたいと考えている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月13日	10月17日	10月24日	合計
事業量	下刈作業【委託】 (前年度植栽箇所等約2ha)	下刈作業 (植栽箇所等約1ha)	植樹活動 (トドマツ他、計400本)	
参加者数	6人	3人	31人	40人
実施場所	枝幸町間牧地区 町有林 (北の魚つきの森)			

生物多様性の保全を目指したオホーツクの森づくり事業（A-17）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

ボランティア活動による森林づくりを通じて、森林に対する理解を深め、その仲間の輪を広げることを目的として活動しています。

具体的には、森林管理署との「ふれあいの森」協定に基づく活動、遊歩道等の整備、森林散策会などを行っています。

また、常呂川森林ふれあい推進センター等が行っている針広混交林をめざす自然再生事業等への参加・森林教室等での協力活動を行っています。

2. 活動の成果

ボランティア活動を通じて、森林・林業、自然、環境等に関心が高まり、知識が深まるとともに積極的な一般市民への働きかけ（啓蒙・普及）が行われるようになっていきます。

3. 参加者の声

- ・コロナ対策等の工夫に感謝
- ・初めて参加したが多くの植物を知ることができた（散策会）
- ・初のスノーシュー、寒いけど楽しい（冬の自然観察会）

実績報告とりまとめ表

実施時期	5～10月	7・10・2月	7月	10月	9月	合計
事業量	森づくり活動7回	森林散策会3回	こども探検隊	炭づくり体験	パネル展	
参加者数	68名	80名	20名	22名	264名（来場者）	190名
実施場所	オホーツクの森	チミケップ湖畔 阿寒湖畔 和琴半島	オホーツクの森	オホーツクの森	北見市緑のセンター	

森林及び木製遊具体験事業（A-18）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林を散策することで、森林の役割・大切さを知ってもらい、参加者の木への関心を高めるとともに、木製遊具を外で遊ぶ体験をしてもらうことにより、木材の利用拡大を身近なところから推進していく。

- ・森林散策（森林のお話と森の端材集め）
- ・育樹活動
- ・木工体験事業
- ・ゆらゆらボード
- ・オケクラフトセンター森林工芸館の視察

2. 活動の成果

日時 令和5年9月24日（日）置戸町・置戸町

参加人数11名、森林散策、森林の説明、クイズ等を行い森の仕組みを理解することができた。また、専門家からの育樹体験を行い樹木の役割を理解することができた。地域材で製作した「ゆらゆらボード」により木材の利用拡大を理解することができた。オケクラフトセンター森林工芸館の視察と、箸づくり制作体験も行い木工体験もできた。

3. 参加者の声

とても楽しく森の仕組みがわかることができた。

箸作り体験が楽しかった。

ゆらゆらボードが楽しかった。

オケクラフトセンター森林工芸館の器が綺麗だった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月24日	合計
参加者数	11名	11名
実施場所	置戸町	

森林環境教育推進事業（A-19）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

札幌市立幌南小学校、札幌市立藤の沢小学校、江別市立野幌小学校、江別市立上江別小学校、江別市立文京台小学校の5校から森林環境教育（総合学習）の要請を受け、総合学習の支援として実施するもの。
（5校中の藤の沢小学校・野幌小学校は緑の少年団活動に取り組んでいる。）

2. 活動の成果

各校共通して、生徒が自然（樹木・植物、小鳥、昆虫など）に、直接目で見て、手で触れて、香りを嗅ぐなど五感を通してその不思議さや多様性に感動し、体験することを目的とする。この目的の達成に向けて、活動日に散策するフィールドの樹木や動植物を事前に調査し、これらを踏まえてガイド用及び生徒用の配布資料を作成し、森林環境教育推進事業を実施した。しかし、札幌近郊の森林において、ヒグマの出没が相次ぎ、現地での思うような活動が出来なかった。

3. 参加者の声

- ・木の名前がついた理由がわかったので森に対する興味がわいた。
- ・森には、有害な植物があることをはじめて知った。
- ・私たちの近くの森では、ヒグマが出没していることがニュースでやっていた。ヒグマのことも教えてくれたので良かった。

実績報告とりまとめ表

令和5年10月実施

市町村	学校名	事業量	環境教育実施場所	事前調査 (下見)	開催日	参加者数	備考
江別市	野幌小学校	総合学習支援	野幌小学校周辺	令和5年 10月8日	令和5年 10月17日	108人	ヒグマ出没のため 開催場所を変更 野幌森林公園→ 野幌小
江別市	文京台小学校	総合学習支援	文京台小教室等	令和5年 10月9日	令和5年 10月11日	47人	ヒグマ出没のため 開催場所を変更 野幌森林公園→ 文京大小
札幌市	幌南小学校	総合学習支援	幌南小体育館、事前 調査は、森林にて木 の葉収集を実施	令和5年 10月10日	令和5年 10月12日	109人	
札幌市	藤の沢小学校	総合学習支援	藤の沢小学校林	令和5年 10月21日	令和5年 10月26日	41人	
						合計	305人

令和6年5月～6月実施

市町村	学校名	事業量	環境教育実施場所	事前調査 (下見)	開催日	参加者	備考
江別市	野幌小学校	総合学習支援	野幌森林公園→ 学校周辺森林	令和6年 5月12日	令和6年 5月14日	107人	ヒグマ出没のため 開催場所を変更
江別市	上江別小学校	総合学習支援	野幌森林公園	令和6年 6月6日	令和6年 6月11日	130人	
札幌市	藤の沢小学校	総合学習支援	藤の沢小学校林	令和6年 6月9日	令和6年 6月13日	41人	
						合計	278人

木育ひろばinチ・カ・ホ（A-20）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

「木育ひろばinチ・カ・ホ2023」は、平成30年度に全国に先駆けて制定した「北海道植樹の日・育樹の日条例」を広くPRするとともに、森や木にふれ合うきっかけとなる場を提供することを通じて、北海道の木育を広く道民に知っていただくことを目的として開催した。会場では、各団体の活動紹介や木工ワークショップ、緑の募金活動のブースを設置するなど、木育マイスターや企業等の多様な主体と連携した木育活動を展開したところ。また、当初「緑の募金」/「復旧支援使途限定募金（地震災害）」として活動予定だったが、1月1日に能登半島地震が発生した直後のため、募金者の方々から「被災してつらい思いをしている人たちにこの募金を今すぐ直接届けて欲しい。」という声が多くあり、急速「能登半島災害復興支援募金」として募金活動を実施した。

2. 活動の成果

普段は森や木にふれる事の少ない都市の子どもたちに、木とふれあう事の出来る機会を提供することにより、木の暖かみや柔らかさを実感していただくとともに、森の動きなどの理解を促進できた。

さらに、様々なワークショップを実施するため、道内各地で活動している木育マイスターが、講師として集まってきた事により、それぞれの地域や活動状況などの情報交換も進められ、今後の活動の糧となった。

また、今回初めて「ガチャ」による募金活動を行ったが、子供の好奇心をつかみ多くの方に募金を頂いたことから、引き続き、「ガチャ」による活動を実施していく。加えて、募金者に配布した「花のタネ」がついたしおりは、誰一人「いらぬ」という方はおらず、今後、緑の羽に変わるものと待もてる。

3. 参加者の声

- ・身近な木枝の活用方法を考えておもしろかったです。子供と一緒にクラフト体験をしたい。
- ・実際に木に触れる機会がないので、とても貴重な経験ができ良かった。
- ・木にふれあえ、子どもたちの想像力をかきたてられよいイベント。
- ・木と親しむ機会があると森を大切にしようという意識が育つと感じた。
- ・この募金を、今すぐに能登半島の地震で被災した人たちに直接届けて欲しい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	1月20日	1月21日	合計
事業量	活動紹介パネル展示、PR動画の放映等		
参加者数	1,359人	1,465人	2,824人
実施場所	札幌駅前通地下歩行空間北3条交差点広場（西）		

北海道木育フェスタ推進事業（A-21）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林づくりを初めとする緑化活動を道民全体で支えていくという意識の醸成を図るため、普及啓発誌の作成・配布、キックオフイベントや北海道植樹祭の開催など普及啓発事業を総合的に展開する。

2. 活動の成果

- イベントの実施
 - ・緑の募金出発式
 - ・北海道植樹祭
- 普及啓発の取り組み
 - ・北海道産トドマツの木製ストロー
 - ・北海道森と緑の会広報誌「Gift」
 - ・募金者へのノベルティー（木製のしまえなが、木の家、木のチャーム）

上記の取り組みを行い、森林の大切さや二酸化炭素排出抑制などの意識啓発が出来た。

3. 参加者の声

- ・植樹は初めての経験で担当者の方の説明を聞き、木が大きければ二酸化炭素もたくさん吸収するのかなと思っていたが違った。若い木の方が吸収するとのこと。
- ・木製ストローが世の中にたくさん普及したら、海もきれいになる。
- ・募金して「しまえなが」などの木で出来たノベルティーをいただいたが、これが風で倒れた木や朽ちた木が原料になっていると聞き、木の有効活用が図られていると感じた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月11日	5月19日	合計
事業量	木育フェスタ開会式・「緑の募金」出発式	北海道植樹祭	
参加者数	150人	1,000人	1,150人
実施場所	北海道庁・JR札幌駅	苫小牧市・和みの森	

馬追自然の森整備事業（C-1）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

長沼馬追山自然の森環境保護整備と自然愛護精神の高揚。

自然の森遊歩道の笹や草刈り作業、又、清掃作業と風倒木の処理及び登山口（6か所）の粗大ゴミ清掃処理、教育委員会主催「生涯学習」登山事業協力など、年数回実行して環境保護と整備に努めている。

2. 活動の成果

遊歩道の整備をする事で、山野草が増え季節ごとに可憐な花を咲かせてくれ、登山者を和やかな気持ちにさせて頂き喜んでおります。

毎年実施している登山口の清掃も、2か所が道々に接しているため、モラルの無い人が捨てる粗大ごみは無くなりません。しかし減少はしてきていますが油断成りません。

看板などで不法投棄を呼びかけるなど今後の課題です。

3. 参加者の声

「滞台」に設置してある登山記帳簿に、遊歩道整備への感謝の言葉や、安全に楽しく歩けたとか、綺麗な花が沢山咲いていた…などの感想を見て、皆、作業した甲斐があったと喜んでます。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月2日	4月27日	5月18日	6月8日	6月15日	合計
事業量	遊歩道草刈り	登山口清掃	清掃登山	遊歩道草刈り	遊歩道草刈り	
参加者数	15人	18人	14人	16人	13人	76人
実施場所	馬追山遊歩道	馬追山各登山口	馬追山遊歩道	馬追山遊歩道	馬追山遊歩道	

コンサ百年の森づくり事業（C-2）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森の復興活動を通して、森の機能や環境について普及啓発並びに青少年育成を行う

2. 活動の成果

高台小学校の特別支援学級の児童を対象に、現地に石狩森林管理署の方を講師にお迎えして、コンサドーレバドミントンチーム選手とドーレくん（後述）参加の下、開催。初めに当事業地の状況と森の仕組みについてのお話を聞き、森林を取り巻く自然環境について学びました。その後、全員でカミネッコン作りを行い、思い思いのデザインやメッセージを記入。さらにカミネッコンの苗木を自ら設置しました。

植樹は初体験の児童ばかりで「植えた苗は大人になったらどのくらいになるの？」など質問も多く、それぞれにさまざまな思いを持ったようです。

特別支援学級生を対象に行ったのは初めてでしたが、関係各所のご協力により子供たちが楽しみにしていた「森の教室」を無事行うことができました。これからもSDGsにつながる「森の教室」を通して、北海道の子供たちへ森林や自然環境についての理解を深める取り組みを実施していきます。

3. 参加者の声

貴重な体験をクラブと行うことが出来て子供たちにとっては良い経験となった

初めて植樹体験をしたが、少し難しかったものの楽しみながら行うことが出来た

豊かな自然に触れつつ、環境に関する学習を体験させることが出来て良い時間となった

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月4日	合計
事業量	植樹の実施	
参加者数	18人	18人
実施場所	コンサ百年の森（千歳市水明地区（国有林5460は・に・と林小班））	

野幌の森再生事業と親子による植樹祭（C-3）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

2018年の台風で被災した野幌森林公園園道有林の森の再生事業4年目である。今年度は既植栽地の保育（下草刈り）と新たな区画の植樹を行った。下草刈りは、2020～2022年度に植樹した169林班85小班1.33haを、事業実施期間外（2023年6月19日）を含めて2回行った。植樹は新たに87小班の一部（0.35ha）で行った。当初は9月10日に当協会が主催する親子森林教室参加者による植樹祭を予定し、協会員による下準備として自生稚樹の優先保育と草刈り、地拵え、防草シートの敷設を行ったが、8月下旬以降公園内にヒグマの出没が相次いだため子どもたちが参加する植樹祭は断念し、協会員により10月25日および11月11日の2回に分けて125本の針・広葉樹の苗木を植え、広葉樹には食害防止措置を講じた。

2. 活動の成果

既植栽地は概ね順調に生育しており、特にハイトシェルターの防獣・保育効果が特筆される。子どもたちによる植樹祭が出来なかったことは残念であるが、新たに0.35haに植樹され、これまで裸地であったところが確実に緑を回復している。

3. 参加者の声

今年度は猛暑の中での作業となり参加者も消耗したようである。また、ヒグマとの共生のあり方にも考えさせられた年であった。それだけに地球温暖化防止と生態系保全の一助となる育林活動に力を入れなければとの気持ちが強くなったとの参加者の声。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2023/7/4	2023/7/24	2023/8/11	2023/9/5	2023/9/10
事業量	昨年、一昨年植栽地の下草刈り	今年度植樹予定地0.35haの笹・草刈り	今年度植樹予定地0.35haに3m角の植樹場所13箇所を設置し、地拵えをして防草シートを敷設	植樹祭の準備として、資材搬入、仮設トイレ設置、会場周辺草刈り	植樹祭当日であったが、ヒグマ注意報が発令されていて10月に延期（結局10月も改善されず中止）
参加者数	協会員11名	協会員7名	協会員8名	協会員9名	
実施場所	北海道江別市野幌森林公園園道有林（169林班85、87小班）				

実施時期	2023/10/25	2023/11/11	計
事業量	協会員だけで3m角13箇所にて65本植樹して防獣ネットを設置。13箇所以外で1本植える60箇所にて竹棒設置	協会員だけで3m角13箇所にて65本植樹して防獣ネットを設置。13箇所以外で1本植える60箇所にて竹棒設置	・既植栽地0.83haの下草刈り
参加者数	協会員11名	協会員7名	55名
実施場所	北海道江別市野幌森林公園園道有林（169林班85、87小班）		

旧豊平川河岸に原始の森を創る150年プロジェクト（C-4）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

野幌森林公園と札幌・白旗山の自然林より実生株を採取、育成し、バイオブロック工法で旧豊平川河岸に植樹し原始の森を再生。（全区間10km、40000本の内）この定植地の駐車場を整備する

2. 活動の成果

整備事業の実行の作業により植樹作業の効果的、かつ参加者の安全な作業が可能となった。また、植樹成果を他団体（北海道環境財団等）の視察を受ける等に円滑に実施できた。ただし、植樹地の土壌がコンクリート破砕屑混じりの搬入土であることが事前調査で判明し、専門家の指導を受けることとなり、助成金の運用に変更を行った。

3. 参加者の声

クラブ会員からの声1「何年かかるかわからない壮大なプロジェクトですが、皆でワイワイと楽しくやっています。原始の森の再生、楽しみです。」

クラブ会員からの声2「緑と水の森林ファンドの助成を得て、札幌市、北海道環境財団等の評価が高まり、今後の活動に力を得たと思う。」

クラブの会員家族からの声「植樹に参加して、私たちの生活に森や木の役割の大切さを感じました。そして、植樹をすることで次の世代にもこの自然を繋いでいくことの必要性を考えるきっかけとなりました。」

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月5日	7月19日	8月2日	8月30日	9月30日	合計
事業量	実生株採取	駐車場整備	バイオブロック160個作成	バイオブロック100個作成	バイオブロック260個定植	
参加者数	7人	9人	23人	13人+小学生90人	14人	66人+小学生90人
実施場所	札幌市白旗山	札幌市東区東雁来旧豊平川	会員施設	協力小学校（札幌市・富丘小学校）	札幌市東区東雁来旧豊平川	

森林整備で地球環境の一助となる！（C-5）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

例年通り、札幌市、当別町、小樽市、千歳市、恵庭市など、7か所の森林フィールドにおいて下草刈、間伐等の作業を行った。

市町村の防風林（恵庭、江別、新篠津）では間伐作業により、防風林の荒廃を防ぎ、畑の作物生育や近隣住宅地の風による土の被害など、防風林の役目を保全する。また住宅地近くの森林（小樽市高川山林）では、道づくりをして、作業道の確保、散策道となり、近くの園児・学童の憩い・生育などの助けになったり、近年問題となっている、熊出没の防止につながる。

2. 活動の成果

概要の通り年間計画を実施することで、各地域の問題を解消する役割を果たした。小樽・高川山林では、笹刈り、道づくりの成果として、クマ出没の情報が聞かれなくなった。山を整備することにより、クマが潜む場所を減らすことが出来た成果と考えられる。山は近隣住民の憩いの場として機能している。千歳・北山山林では、森林組合では手が回らないアカエゾマツの枝打ち・自然林の間伐を行い、支笏湖周辺の水源涵養林の整備の一助となる。新篠津村では、手入れがされていない防風林の間伐を行い、風倒木を防ぎ、農作物の育成に役立つ。

3. 参加者の声

- ・自然の中で汗を流して作業することが楽しい。
- ・チェーンソー、刈り払機、ウィンチ等今まで使った事のない道具や工具に興味があり、実際に使う事が出来て嬉しい。
- ・間伐をする意味や水源涵養林等、今まで知らない大切な事を知る機会が出来てとても勉強になる。
- ・職場、学校、家庭以外での良い仲間が出来、一緒に活動することが生きがいとなっている。

2023年度活動報告と2024年度の予定実績

札幌ウッディーズ

施業場所	目的	進捗状況	2023年度			2024年度			
			回数	月日	人数	施業内容	回数	月日	人数
高川山林 (小樽市)	会員所有林であり、整備することにより近隣住民の憩いの場とする。また、子供たちの遊び場として心身の生育に寄与するとともに、森林に対する興味を醸成する。	2021年度より作業道作設に取り掛かった。 ゾーン3（正面右側）の作業道は2022年度で完了。 引き続きゾーン2の遊歩道づくりに取り掛かる。 笹刈りは山頂付近から始まって各所少しづつ進行中。	0回			遊歩道作り 山頂遊具付近の笹刈り 間伐・薪作り	4回	4/15 4/21 5/26 6/23	25 24 22 25
北山山林 (千歳市)	森林組合が施業しない場所の作業を担うことで、健全な山林の保全を行う。	エリアが広いため目標は設けていない。 枝打ちは徐々に進めているが、天然林はほぼ手付かず。 2018年度の台風で相当数の倒木及び根返りが有る。 2023年度は薪材採集と一部枝打作業を行った。	0回			アカエゾマツ林の枝打 天然林の間伐、 薪材収集	2回	5/11 5/26	31 20
柴原山林 (札幌市)	2004年の台風18号による被害復旧を目指す。また、幼木保全や笹刈等により、多様性のある森を目指す。	当初目的は達成されつつある。 2023年度は笹刈りを一部と間伐を行った。 エゾマツ林の地盤崩壊が進行している。	1回	7/23	25	林内の片付け・整理	回		
22世紀の森 (支援・当別町)	「新山川草木を育てる集い」の支援活動として、どろ亀先生の遺志が継がれた森林造成に寄与する。	植樹後の保育を目的とした草刈及び作業道の草刈を継続している。	1回	7/8	23	作業道及び植栽木周辺の草刈	回		
江別市防風林	江別市依頼による防風林の間伐 (石狩振興局森林室のマッチング事業)	2021年度は「えみくる」内の部分皆伐と枯損木処理 2022年度は東野幌の防風林で除伐 2023年度は三原エリアの白樺林の皆伐・薪材搬出	3回	9/9 9/24 10/14	24 21 23	江別市所有林を間伐予定 2025年度以降も関与	回		
恵庭市防風林	恵庭市依頼による防風林の間伐 (石狩振興局森林室のマッチング事業)	2018年度より活動を始める（列状間伐） 2021年度は耕地防風林の灌木処理（臨時活動） 2022年度は2019年度に施業したエリアの列状間伐	1回	8/27	23	恵庭市の希望による 施業場所・規模共に未定	回		
新篠津村防風林	新篠津村依頼による施業 (石狩振興局森林室のマッチング事業)	2021年度は防風林の白樺伐採 2022年度は防風林のヤチダモ伐採25本程度 2023年度は防風林のヤチダモ伐採100本程度	2回	10/29 11/11	23 19	前年に続き防風林で伐採 100本以上有り	回		
合 計 （1回活動平均参加人数 23.4人）			8回		181		6回		147

札幌市連携：さっぽろふるさとの森づくり事業（C-6）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・ネットと建設工事で使用している保護カバーという安価でホームセンターで購入できる材料を使った「シカの食害」を防ぐ方策が確認できた。

2. 活動の成果

- ・今回の方策でシカの食害を防ぐことが確認できた。以降、これを継続し、幼木の健全な成長に寄与していく。
- ・2024年度になって、新たに動物による食害防止剤を入手できたので、残りのお金で購入し、今秋に塗布して効果を検証する予定である。

3. 参加者の声

- ・特別の技術力が無くとも作業を重ねることで、作業効率を上げることができることが解った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2023.04.15	2023.06.03	2023.08.26	2023.11.03 2023.11.04	2024.05.04	合計
事業量 (現地作業時間)	1	3	3	5	3	15
参加者数	3人	6人	5人	10人	6人	30人
実施場所	札幌市北区 あいの里・福移の森緑地					

恵庭かわまちづくり植栽事業（C-7）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

恵庭市緑化推進委員会が植樹活動を支援する「恵庭一万本桜植樹市民の会」は、「花のまち」に相応しい桜並木を作り、恵庭市を北海道一の桜の名所にすることを目標とし、平成27年に設立された。植樹場所については、恵庭市が漁川を始めとする多くの河川があり、河川とともにまち並みが形成されてきた地理・歴史的経緯から、河川敷地を優先的に植樹していき、中でも漁川河川敷地への植樹が最も効果があると考え、漁川から植樹を行っていき、漁川が完了した後は他の河川及び公園敷地等へ植樹場所を移行していく予定としている。

さらに長期的に植樹活動を継続していくため、同市民の会は、行政、町内会並びに各種団体等に協力を積極的に呼び掛け、市民活動としての基盤を確立することが必要と考えており、最終的には河川敷地等の桜と「花のまち」を併せ、他の自治体が進めている花のまちづくりとは重複しないオンリーワンの「花のまち恵庭」とすることを目指している。

※過去の活動実績

- ・令和2年10月10日に「恵庭市市制施行50周年記念事業」で行った事業で、かわまちエリア（南島松835番地6外、A=約1.7ha）において、アーコレド15本の記念植樹活動を実施した。
- ・令和3年10月4日、令和4年10月19日において恵庭市緑化推進委員会と「恵庭一万本桜植樹市民の会」が協力して行った事業で、かわまちエリアにおいて、八重桜（関山）各年15本、計30本の植樹活動を実施した。

2. 活動の成果

令和3年度から恵庭市緑化推進委員会（恵庭市経済部花と緑・観光課事務局）と恵庭一万本桜植樹市民の会が協力して桜の植樹活動を行っており、令和5年11月1日に八重桜（関山）8本の植樹を実施した。※当初植樹予定地が地盤改良が必要な土地と判明したため、位置および本数を変更した。

3. 参加者の声

- 令和5年11月1日の桜植樹の参加者数は8名（恵庭一万本桜植樹市民の会7名及び恵庭市緑化推進委員会事務局1名）。
- 同桜植樹市民の会の事務局長は、「会長が所用で来れなかったが、今年度も実践・研修を兼ねた植樹としたい」と語っていた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月11日	9月26日	11月1日	合計
事業量	現地下見	現地下見	桜植樹	
参加者数	7名	5名	8名	20名
実施場所	花の拠点（はなふる）かわまちエリア			

令和5年度里見緑地内植樹・環境整備保全事業（C-8）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

(1) 植樹・育樹事業

北広島市里見町7丁目51-1の里見緑地（第3周辺緑地）の傾斜地約920㎡に、9種126本の苗木を植樹した。また、里見緑地内の植樹地と育樹地の草刈りを2回実施した。

(2) 管理用通路の延長事業と草刈事業

里見町7丁目51-1地先の管理用通路（排水溝管理路兼作業用通路：通称「カラマツ林通路」）を約210m延長し、延長区間内に木橋1橋を設置して既設の里見町7丁目51-1地先の排水路管理用通路（通称「サクラ並木通路」）と連結した。

また、カラマツ林通路とサクラ並木通路を3回草刈りした。なお、9月中に桜並木通路の脇に丸太ベンチ1脚を設置する予定である。

2. 活動の成果

(1) 植樹・育樹事業

① 前年度植樹地の隣接地に広葉樹の苗木8種58本とカラマツ林通路の南側にニオイヒバの苗木68本を植樹して、ススキの草原から針葉樹・広葉樹混交の森づくりが進められたこと。

② 植樹・育樹事業により、将来、傾斜地地盤の安定化、春先に南側から吹き込む季節風の防風効果、生物多様性と緑地景観の向上などが見込まれること。

(2) 管理用通路の延長事業と草刈事業

① カラマツ林通路を延長し、木橋を設置して、既設のサクラ並木通路と連結することにより、緑地内の植樹・育樹作業や風倒木・支障木の除伐・運搬作業、通路の草刈り作業等が安全かつ効率的に実施することが

② カラマツ林通路の延長とサクラ並木通路への連結により、散策路としての用途が高まり、かつ、通路の草刈回数が増えることによって路面の安全性・快適性、美観等が向上して、利用者が増加することが見込まれること。

3. 参加者の声

(1) 植樹・育樹事業

会員のみで行っているため、市民からの声はない。

(2) 管理用通路の延長事業と草刈事業

サクラ並木通路からカラマツ林通路に繋がりが、周回コースができたこと、カラマツ林通路から隣接地の達磨寺（曹洞宗）に行けるようになったこと、通路の草刈りが行われて安全、安心に散策できること等、通行者の声は大変好評である。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月1日～7月5日	4月21日～7月26日	合計
事業量	植樹・育樹と草刈り	管理用通路の延長事業	
参加者数	5名	4名	9名
実施場所	里見町7丁目51-1	里見町7丁目51-1	

こころねの森 整備・活用事業（C-9）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

事前に「チェーンソーの伐木等特別教育」を受講した有志やその家族、子供たちが中心となって、2023年9月から月に1～2日のペースでNPOの所有する苫小牧市内の森に集まり活動を行った。

その際、フォレストリーダー有資格者で現在も個人事業主として樹上伐採を主に行っている者を講師に招き、チェーンソーや器具の使い方をはじめ、ロープワーク、木の伐採や玉切り、かかり木の処理、運搬方法、枯損木等の危険な木の見分け方やその対処方法などを学び、技術や知識の習得に努めた。

子供たちものこぎりの使い方などを積極的に学び、枝の片付けや薪割りなどの手伝いにも参加した。

また、参加者全員で林内を歩き、枯損木の有無を調査して枯れた木や枝などを見つけ、高枝のこぎりなどで処理を行い、届かない部分や危険木に関しては外部に樹上での処理を委託した。

2. 活動の成果

参加者のほぼ全員が森づくり初心者ということもあり、活動の大半はチェーンソーやロープ等器具の使い方や基本的な伐採方法の習得に終始したが、回数を重ねていくにつれ伐倒や玉切りといった作業も安全に行えるようになった。

また、活動前にはあまり気にしていなかった林内の木々の状態にも目が行くようになり、枯損木などの状態も見えるようになって各自危険予知もできるようになってきた。

最大の懸案事項だった枯損木等の危険性のある木は伐木・処理することができた。

3. 参加者の声

- ・枯損木が処理できたので、子どもの遊べる場所が増えた。
- ・思うように伐倒ができないので、もっと練習したい。
- ・ロープワークがわかってきた。
- ・活動に参加してチェーンソーに興味を持ったので、ぜひ特別教育を受講してチェーンソーで伐倒してみたい。
- ・森づくりの作業を実際に行うことで、林内に入ってまず木を観察するようになり、枯損木などの危険性に気付くようになった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2023.9～10	2023.11～12	2024.1～2	2024.3～4	2024.5～6	合計
事業量	10時間	15時間	10時間	10時間	10時間	55時間
参加者数	18人	14人	18人	12人	7人	69人
実施場所	こころねの森	こころねの森	こころねの森	こころねの森	こころねの森	

五稜郭保安林清掃事業（C-10）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

五稜郭風致・保健保安林の草刈りや木堀の修理、植木の剪定、巣箱の付け替え及び利用状況の調査、保安林周辺のゴミの収集等を地域の方々と実施することにより緑化事業の普及啓発及び環境美化意識の向上を図る。

2. 活動の成果

函館市の中心に存在し、市民に親しまれている貴重な五稜郭風致・保健保安林の保全意識の向上と緑化事業の普及啓発及び環境美化意識の向上が図られた。

3. 参加者の声

- ・昨年も参加したが今年が天候もよくとても有意義な時間を過ごせた。
- ・日頃から買い物や散歩で通り身近な存在である保安林がキレイになって嬉しい。
- ・今年、初めて参加したが来年も参加したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R5年7月14日	合計
事業量	保安林周辺の草刈り、植木の剪定、木堀の補修、巣箱の付け替え等の清掃活動。	
参加者数	45名	45名
実施場所	函館市柳町 〃 本通 五稜郭風致・保健保安林	

「おさかなの森づくり運動」(C-11)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

八雲町遊楽部川は、全国でも有数の清流としてサケ・マスの遡上河川であり、又、アユ等多数の魚類が生息している。近年、遊楽部川を含む管内河川の自然災害等により、河川の底棲動植物並びに水資源に対する影響が危惧される中、海を育む森づくり計画を策定し、海と河川に係わる森林整備を図るため、一般町民等の尊家を募り緑の豊かな自然環境と普及啓蒙を図ることを目的とし、地域の関係者と連携のもとに植樹（トチノキ苗木200本）を実施した。

2. 活動の成果

平成6年度より毎年実施している本事業については、植樹による森づくりの効果のみならず、本事業を今後も継続していくことにより、漁業者のみならず関係者間における森林整備が海と河川を育むという意識の維持・向上につながっている。

3. 参加者の声

- 毎年植樹に参加することで本事業の海への好影響を感じられる。
- 森林整備を継続していくことで河川からの流木や濁水の流出が抑制されることを願う。
- さけ資源の維持・保護のため欠かせない事業である。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月14日	合計
事業量	0.2ha トチノキ 200本	
参加者数	12人	12人
実施場所	北海道二世郡八雲町富咲地区	

第29回サケの上る森づくり植樹祭 (C-12)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林と海との密接な関わりに着目し、魚の成育環境・自然回帰を図り、豊かな海づくりに繋がる植樹活動を行うことを目的とする。

2. 活動の成果

豊かな森作りは豊かな海づくりにつながるとの観点から、魚の生息環境への自然回帰等を図り、「山・川・海」の緑化思想の普及啓蒙が図られた。

3. 参加者の声

町内の緑の少年団3団体が参加しており、植樹指導及び植樹作業について、真剣に学ぶ姿が伺えたり、楽しく行えた等の声が聞かれた。また、児童からは「植樹した木が成長し、たくさんお魚が増えてほしい、山くずれ等から町を守ってほしい」との声もあった。

この他、各企業・団体の参加もあり、子ども達をサポートしながら苗木が大きく育つように心を込めて植樹している様子だった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月18日	10月19日	計	備考
事業量	地拵え	植樹祭		
参加者数		98人	98人	
実施場所	せたな町	せたな町		植樹祭
	北檜山区徳島町有林	北檜山区徳島町有林		開催地

「ユネスコの森づくり」(C-13)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

従来の大雪山国有林植樹は熊対策のため断念し、活動場所を旭川市西神楽ホテルの里に移して、事業の継続・発展を工夫した。

- (1) 「ユネスコの森」の活動区域作成。
- (2) ホテルの会と下草刈り等で協働。
- (3) 今後コロナ収束後に、児童生徒の体験学習計画の立案予定。

2. 活動の成果

新しい実習場所の「ホテルの里」は自然環境保護の目標が当会と一致しているため、次の成果が生じている。

- (1) 協働できる学校・地域団体の増加。
- (2) 近郊なので、成育状況の観察や森林保護の実習がしやすい。

3. 参加者の声

- (1) 旭川ユネスコ協会会員「近郊なので参加しやすい」
- (2) ホテルの会役員「相互にメリットのある協働なので、年間計画に位置付けて協力し合いたい。」
- (3) 地域住民「また孫を連れて参加したい。地元の小中学校とも連携してほしい。」
- (4) 例年参加の学童クラブ員「森と水・ホテル等を総合的に実習できるので楽しみ。」

実績報告とりまとめ表

実施時期	2023/6/1～ 6/30	2023/7/1～ 7/31	2023/10/1～ 10/31	10月28日	合計
事業量	下草狩り・間伐	下草狩り	穴掘り・資材買 い物・運搬	植樹 (ミズナラ20本)	
参加者数	6名	6名	5名	17名	34名
実施場所	西神楽ホテルの 里	西神楽ホテルの 里	西神楽ホテルの 里	西神楽ホテルの 里	

帯広の森第7および第8ブロック森づくり事業（C-14）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

帯広の森サポーターの会（以下、当会）は、帯広市の承認を受けた森づくり団体であり、帯広の森を拠点として、自然豊かな郷土の森を育て後世に残す活動を行っている。

当会の担当するエリアは植樹後20年以上経過の広葉樹区域、および約40年経過の針葉樹区域で構成されているが、植樹後殆ど人の手が入っていなかったことから、本来残すべき樹種が健全に育たなかったり、逆に十勝地方には無い樹種が育ちすぎたりするなど、不健全な状態が目立っている。

その為当会では、下草刈り、枝打ち、不良木の除去や除間伐、外来種の除去等の保育活動を徹底して行っている。

また市民を対象として、森の恵みと利活用に対する理解を深める研修会なども開催している。

2. 活動の成果

1. 当会活動エリアの拡大

- ・近年、順次活動面積を拡げている。昨年4月には新たに13haが市の承認を受け、合計32haとなった。
- ・当会の活動エリア拡大は、帯広の森の中で人手が入らず放置されている面積が減少することである。

2. 市民の認知度が向上

- ・当会の活動で森の整備が進んだエリアを、昨年秋に始めて一般市民に開放するイベントを実施した。
- ・当会の活動が活発になることにより、帯広の森の認知度が上がり、市民に利活用されやすくなる。

3. 森づくりや、自然を大切にす人材の増加

- ・当会の会員数が増加し活動量が増え、また森を訪れる市民の数が増えることは森づくりや自然を大切にす人材の増加に直結する。

3. 参加者の声

森の工作体験会

- ・間伐材の枝や樹皮だけでなく、種や根っ子などあらゆるものを使って楽しめた。
- ・森から発生した様々な自然の部材が、色々な手間をかけて工作の素材になることが理解できた。

白樺樹液採取体験会

- ・貴重な白樺の樹液を採るところから経験できて楽しかった。木によって味が違うことが分かった。
- ・春の森を散策出来て楽しかった。また来てみたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R6年1月13日	R6年4月21日	R5年7月～R6年6月	合計
事業量	森の工作体験会	白樺樹液採取体験会	年間を通した森づくり活動	
参加者数	15人	58人	483人	556人
実施場所	帯広の森 はぐくむ 帯広市南町南9線49番地1	「帯広の森」 第8ブロック 帯広市西25条南6丁目	「帯広の森」 第7-8ブロック 帯広市西25条南5～6丁目	

森は海の恋人植樹事業（C-15）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

昆布森地域の住民や関係機関を対象に昆布森漁港近隣において植樹事業を実施した。植樹事業の内容はサクラ苗木の植樹を実施し、漁業資源の確保と水資源の環境を守ることの重要性和普及啓蒙活動を実施した。

2. 活動の成果

今回の植樹事業を通して、地域住民や関係団体に対し水環境の保全や漁業活動への植樹の重要性について普及啓蒙の一翼を担ったものと思う。今後も植樹と水、漁業との関連を知ってもらうために今回のような植樹活動における林業等の普及活動を展開していきたいと考えている。

3. 参加者の声

近年新型コロナウイルス感染症により規模を縮小していたが今年から今までどおりの植樹ができ参加人数も多くたくさんの方に植樹事業を通して自然に触れ、身近な海の環境が守られていることの素晴らしさや、植樹した樹木が大きくなり花が咲くことを楽しみとし、来年も植樹を実施したい思いを募らせていた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月17日	5月25日	合計
事業量	植樹実施	鹿柵修理委託	
参加者数	120人	5人	125人
実施場所	釧路町昆布森	釧路町昆布森	

野付湾の流域河川の河畔林づくり事業（C-16）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

野付湾に流入する主な4河川（当幌川・茶志骨川・飛雁川・春別川）の河畔林を健全に育成する目的で、昨年度に引き続き今年度も当幌川水系の河畔林に植樹を行った。

その植樹活動には、野付湾を主とする野付漁業協同組合と当幌川沿いの酪農家を管理する計根別農業協同組合、その2団体を繋ぐ役割の特定非営利活動法人野付・エコ・ネットワークの三者による協働事業で植樹活動を行うことが出来たのは、野付湾とその流域の「森林保全活動の啓発」と「自然環境保全への意識向上」に大きく寄与することができたと考えている。

また今後の継続的で科学的な植樹活動事業に役立つ貴重な資料とする為に、野付湾に流入する4河川（茶志骨川・当幌川・飛雁川・春別川）の河口部で8月から11月まで水質検査（累計32回実施）を行った。その結果をもとに今後の河畔林育成計画を考えていきたい。

2. 活動の成果

今年度は、野付湾に流入する4河川のうちの当幌川水系に植樹を実施した。その植樹の成果には以下のものがあると考えています。

- ①最終的な流入先である野付湾を主な生産活動の場として活動している野付漁協と上流・中流域を主な生産活動の場として活動している計根別農協という二大基幹産業とが連携して森づくりを行うことで自然環境保全に関する活動を協働して行うことができたのは大変価値がある。
- ②漁業協同組合と農業協同組合とのつなぎ役として、地域の環境保全を推進する目的で設立された特定非営利活動法人がその役割を果たせたのは、今後の環境保全活動の活性化に繋がる活動となった。
- ③今回の植樹を行った当幌川水系の河畔林は、単年度の植樹活動ではなく何年かの継続した森づくりを計画的に進めることが可能な地域であることから、地域住民に植樹活動によって森づくりの大切さを啓発できる場になると考える。
- ④植樹活動と合わせて今回実施した水質調査で、野付湾に流入する4河川のデータをもとに、重点的に河畔林の植樹活動に取り組むべき河川を明らかにできた。

3. 参加者の声

- * 2年続けて植樹活動を行うことができてとても良かった。
- * 昨年度植えた苗木の多くが枯れていなかったので安心した。
- * 漁業者として、上流の環境保全についての関心はあった。最近では道東でも赤潮などの被害が出ている地域もあるので、植樹活動を通して水質の浄化に繋がってくれば良いと思う。
- * 道東の基幹産業は水産業と酪農業であるが、この二つの産業は密接に関わっている。今後も持続的に漁業と酪農が発展していくためには、今回のようにお互いが協力して植樹することは大変意義が高いことだと思う。
- * 国内最大級のアマモ場である野付湾を守ることは、上流に広がる国内有数の酪農地帯の各河川の水質を良くすることが大切。河畔林の植樹を行うことは水質浄化にも大きく役立つと思う。
- * 少しずつでも、植樹活動をおこなって森をつくることはとても良いこと。
- * 漁業者と農業者、一般市民が協力して植樹活動を行うのはとても良い活動だった。
- * まだまだ植える場所があるので、何年か続けてやった方が良いと思います。
- * 今後はシマフクロウの生息している河川の植樹もできたら良いと思う。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月23日	8～12月	合計
事業量	植樹活動120本 (ハルニレ・ヤチダモ・ミズナラ) 100平方メートル	水質検査 32回	植樹100本 水質検査32回
参加者数	21人	調査員 のべ64人	参加者 のべ87人
実施場所	中標津町 計根別地区の当幌川水系	標津町 別海町	

「未来の青い森県民植樹祭」実施事業（A-22）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

開会式、オリエンテーション、地元少年団による「誓いの言葉」の宣言、青森県にちなんだ樹種（青森ヒバ）の植樹体験活動、チェーンソーアート制作実演及び作品のオークションの実施（オークションで落札された落札金は全額緑の基金に寄付）。体験教室は森林・緑に関する①青森県産材（青森ヒバ）を使用した木工教室、②森林インストラクターによる森林教室の2教室を実施した。県民に郷土の森づくりのほか、県土の保全や多様な生態系等に資する森林の役割や林業の重要性について学習・体験する機会の提供により公益的機能や多様な生態系など森林の重要性を再認識して頂くことを目的に体験会を実施した。

2. 活動の成果

植樹体験では、青森ヒバを植樹することにより地元地域の特性や環境、生態系や森林機能の重要性について再認識していただくことが出来た。

木工教室では、青森ヒバ材を使用することにより、青森ヒバの木材としての特性や利用価値、林業の重要性について普及啓発することが出来た。

森林教室では、植樹会場付近を散策し、森林インストラクターから森林機能などについて説明を受け、参加者に森林や緑化・水資源の重要性等について普及啓発することが出来た。

3. 参加者の声

- ・植樹活動は大変だったが、木を植え、育てることが重要なことがわかった。
- ・青森ヒバで家を建てると虫が寄らないことやカビが生えないことがびっくりしました。
- ・植樹活動で気持ちのいい汗をかくことが出来ました。また参加したいです。
- ・チェーンソーアートは時間がかかって大変ですね。
- ・野木和公園に植えてある木の種類の多さに驚きました。
- ・今年の猛暑の影響で湖の水量が少ないことにびっくりしました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月16日	計
事業量	未来の青い森県民植樹祭2023 in 青森	
参加者数	140人	140人
実施場所	青森県 青森市	

木と人とのふれあい事業（A-23）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 県内6地区19箇所木工教室や森林教室を開催した。
- 県産スギ材を使った卓上カレンダーの入替え用カレンダーを製作・配布した。

2. 活動の成果

- 木工教室や森林教室の中で、森林の持つ多目的機能の重要性や木材利用の必要性について理解を深めていただくことが出来た。
- 協力団体や企業等に県産スギカレンダーを使用していただくことにより、森林・林業の普及啓発を図ることが出来た。
- イラストや絵本、木材見本や松ぼっくり等の展示を充実させることでより理解を深めることができ、外部スタッフからも好評を得た。
- 低学年の参加者が多く、釘を打つ作業があったことから、絵本読み聞かせによる導入や分かりやすい説明、スタッフの数を増やす等の配慮をしたことにより、全員が作品を完成させることができた。

3. 参加者の声

- ・今日作った多目的ミニラックをはじめ、木材で作られたものを長く大事に使いたいと思った。
- ・釘を打つのが大変だったけど、友達と協力して作ることができて楽しかった。
- ・木材を使うことで、健康な森林を作るお手伝いになることがわかった。
- ・すべすべできれいなトレイが出来て嬉しかった。
- ・とても長い時間をかけて木材が生産されることがわかり、トレイを大切に使いたい。
- ・木材になる前の山のスギを探してみたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7/9～12/21	計
事業量	森林環境教室での県産材を使用した木工教室 県内6地区19箇所	
参加者数	785名	785名
実施場所	青森市、今別町、弘前市、西目屋村、鱒ヶ沢町、八戸市、新郷村、 五戸町、七戸町、六ヶ所村、十和田市、むつ市、東通村	

令和6年度遠野市緑化祭『里山フェスタ2024』（A-24）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

私達の生活に重要な役割を果たしている森林の多面的な機能とその大切さについて、森林整備の体験を通じて理解を深めることを目的とする。

2. 活動の成果

今年度は、遠野市宮守町下宮守にある笠平市有林において開催した。

遠野市内の森林愛護少年団員や企業、市民や林業関係団体からも参加頂き、協力し合いながら、約2,000本のカラマツの植栽を行った。

開会式中の「緑の誓い」では、地元の宮守森林愛護少年団代表5年生3名が発表を行った。

その他、高性能林業機械による伐採及び造材の実演やドローンによる作業効率の向上を説明し作業の様子を撮影した。

3. 参加者の声

森林愛護少年団の参加者は親子での参加者が多かった。

少年団員からは、「森林や林業のことを学ぶことができて楽しかった。」「いっぱい植えるのを頑張りました。楽しかったからまたやりたい。」等の声が聞かれ、森林の大切さや森林整備を学ぶ機会を作ることができたと感じた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月15日	計	備考
事業量	・カラマツの植栽 ・高性能林業機械の見学等		
参加者数	343人	343人	事務局による公式発表人数は約360名
実施場所	岩手県遠野市		

一関地方育樹祭（A-25）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

住民一人一人が、それぞれの立場で森林づくりに参加する気持ちを育み、人と森林が共生する心豊かな社会を構築することを目指して令和5年度一関地方育樹祭を開催した。

2. 活動の成果

「石蔵山林間広場」を会場に、ヤマザクラの記念植樹及び記念標柱建立のほか、3年生以下の参加児童は、木工工作体験（バードコール作り）、4年生以上の児童は、育樹に関する指導を受けながらつる切りや間引きといった育樹体験をそれぞれ体験した。

体験後は、開催地域の伝統芸能である布佐神楽を鑑賞し、児童だけでなく、開催場所である「石蔵山」に関係する多くの住民が参加した。

記念植樹や育樹体験を通じて、森林整備の重要性や森林づくりに対する意識の向上とともに、地元の児童や生徒が参加したことで森林環境教育の推進が図られた。

3. 参加者の声

- ・もっと木が増えて自然が豊かになればいい
- ・動物たちがちゃんと住める環境になってほしい
- ・おばあちゃんの家で切ったことはあるけど、こういう山でやったことはなかった。つるとかを切るのは楽しい

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年9月30日	計	備考
事業量	・記念植樹 ・木工工作体験 ・育樹体験		
参加者数	106人	106人	
実施場所	石蔵山林間広場（一関市川崎町門崎字石蔵地内）		

緑の少年団育成事業（A-26）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年団の結成及び活動を支援し、育成する。

2. 活動の成果

岩手県緑の少年団大会参加経費等、緑の少年団活動に要する経費の助成を行い、陸前高田市において令和5年に開催された全国植樹祭によって高まった緑化推進に対する意識の継続に努めた。

3. 参加者の声

- ・今後も緑豊かな学校・地域にするため、自分たちができることを考えながら、全校児童で取り組んでいきたいです。
- ・植樹は木を立つように植えるのが難しかった。
- ・山に登り、葉の観察をする活動で葉についてたくさん知ることができました。（米崎緑の少年団）

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年7月28日	令和5年10月2日	令和6年6月13日	計
事業量	岩手県緑の少年団大会 (米崎緑の少年団)	ボランティア活動 (米崎緑の少年団)	ボランティア活動 (横田自然愛護少年団)	
参加者数	6人	95人	25人	のべ126人
実施場所	陸前高田市内ほか			

木工工作キット配布事業（A-27）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

木材の利活用を促進するため、次代を担う小学生を対象に、町、県産材を使用した木工作品製作キットを提供し、木の良さを啓発することで、町、県産木材の利用拡大を図る。

2. 活動の成果

体験を行うことにより、木材の良さ、町産材及び町内の森林の役割をPRでき、町産材等の需要拡大が図られ、それに伴い森林の整備促進が期待される。

3. 参加者の声

参加した小学生からは、「釘を打つところや色塗りが楽しかった。」「次は別の木工キットも作ってみたいです。」「あまり木材を触ったことが無かったので、触れて良かったです。」といった感想が見られました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年8月1日	令和5年8月3日、4日	計	備考
事業量	木工教室	木工教室		
参加者数	小学生28人、主催者等10人	小学生22人、主催者等10人	のべ70人	
実施場所	大槌町吉里吉里公民館	大津町こども教育センター（OLAI）		

ふるさとの巨樹・名木観察会（A-28）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地域における巨樹・名木を観察するとともに、居住地における歴史や自然環境を理解することにより、自然の恩恵に感謝する心を育むことを目的に奥州地区で観察会を開催した。

2. 活動の成果

参加者は、定員20名に対し、16名の参加があり、観察地は、奥州地内の5ヶ所、5種類の巨樹・名木を講師の岩手大学名誉教授橋本良二氏の解説により観察会を行った。

講師の巨樹・名木に係る幅広い知識と経験を交えて、現地の観察樹木を見ながら樹木の優環境、生態、病害虫の分野まで具体的に分かりやすい説明と歴史にも造詣が深く、巨樹から歴史を学び伝える言葉は意味が深く、講師の解説は参加者からも分かり易くとても良かったと好評であった。

毎年、県内各地で実施しているが、参加者から好評で継続要望も多く、今後も継続して実施することとしている。

3. 参加者の声

- ・名木は歴史をも語ると知りました。橋本教授の説明がとても良かったです。
- ・近隣にある巨樹・名木について知識が無かったので、もっと知りたいと思った。
- ・これまでただ見ていたものがとてもよくわかる。
- ・とても面白いのでぜひまた観察会に参加したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年11月4日（土）
事業量	巨樹・名木5種類 JR水沢江刺駅⇒奥州地内（5ヶ所）⇒JR水沢江刺駅
参加者数	16名
実施場所	奥州地内

第54回岩手県緑の少年団大会（A-29）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

本県の緑の少年団や森林（自然）愛護少年団が一堂に会し、森林を中心とする自然の中で、体験学習等を通して相互に交流し、仲間の連携と理解を深めると共に、緑を愛し育てる豊かな心を育むことを目的に、第54回岩手県緑の少年団大会を開催した。

さらに、秋田県・福島県からの参加を得て、県外少年団とも交流することができた。

2. 活動の成果

今年度は、植樹体験や木工工作及び森林体験学習等の活動を通して、他の少年団員との交流が促され仲間との連携と理解が深まった。

活動を通して人や動植物は豊かな自然環境によって生かされていることや、生活に欠かせない木材の大切さなど、森林や自然を守る重要性の理解と緑化意識の醸成が図られた。

3. 参加者の声

- ・普段自然と触れ合うことがないので、緑の少年団に行って、木を植えたことが楽しかったです。
- ・クイズに正解出来て良かったです。形が似ている葉っぱが森の中にたくさんあるとわかりました。一番最初に入場するのが緊張しました。
- ・森林体験中に、ミミズやいろんな虫がいて驚きました。
- ・木工の貯金箱は、釘をまっすぐ打つのが難しかったけど楽しかったです。
- ・スタッフの人とたくさん話をするのが出来てうれしかった。早く植えた木が大きくなってほしい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年7月28日（金）
事業量	(1) 開会式 ①周年記念表彰 ②活動事例発表 ③緑の誓い (2) 全体交流会 ①植樹会 ②森林体験学習 ③木工工作
参加者数	314名（緑の少年団14団143名、育成会62名 その他関係者）
実施場所	岩手県八幡平市「岩手県民の森」

宮城県みどりの少年団大会開催事業（C-17）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

少年団共通の認識と連携を深め、少年団活動の一層の発展と健全な育成を図るため、第48回（令和5年）宮城県みどりの少年団大会を開催した。

令和元、2年の大会でクロマツやアオダモを植栽した海岸防災林において、森林ボランティア団体の指導を受けながら、下草の抜き取りやツル切りなどの保育活動を行ったほか、震災後の自然環境の回復状況や外来植物の侵入状況等の自然観察、ネイチャークラフトなどのレクリエーションに興じた。併せて大会会場にて第46回全国育樹祭（大分開催）のビデオダイジェストを放映。令和7年第48回全国育樹祭のチラシを配布し機運を盛り上げた。また、式典では新たに設立した少年団に団旗とスカーフの贈呈が行われた。

2. 活動の成果

震災を知らない年齢の団員が増える中、同海岸において開催し体験することに意義があり、参加者は1日をかけて様々な活動を行うことが出来た。少年団員のみならず、育成会の保護者も含めて、海岸防災林の役割や保育を行うことで緑を育てていくことの大切さを実感していた。また、年に一度の大会では交流を通して普段会えない団員相互の親睦を図ることが出来たほか、新たに設立した少年団に対して、皆で祝福を分かち合うことが出来た。また、全国育樹祭における少年団活動発表会に向けた機運の向上が図れ、大会の実施は有意義であった。

3. 参加者の声

- ・東日本大震災からの復興のためにも必要な場所で行うことは大切。
- ・児童が大きくなってこの場所に来たときに活動の意義の大きさがわかると良い。
- ・作業体験は丁寧な説明でわかりやすく、たくさんのことを教えてもらった。
- ・自然にふれあう貴重な体験をして、植物を知る良い機会となった。
- ・普段、交流出来ない世代の人との交流や普段体験出来ないことが体験できた。
- ・令和7年全国育樹祭で少年団活動発表できる様にしたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月30日	計	備考
事業量	海岸防災林の保育活動 下刈り作業0.2ha 式典 自然観察 ネイチャークラフト		
参加者数	302人	302人	
実施場所	宮城県 東松島市矢本板取地内（大曲浜海岸）・ 東松島市大曲市民センター		

緑と水のキャンペーン事業（A-30）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県土の豊かな水と緑を育み、県民の緑に対する関心をより一層向上させるため、県内各地で緑の募金街頭キャンペーンを実施した。また、みどりの月間である4月15日～5月15日に秋田市のJR秋田駅東西連絡自由通路へ普及啓発用プラントを設置し、緑の募金の普及宣伝を強化した。

2. 活動の成果

普及宣伝を行うことにより、厳しい状況の中でも緑の大切さを県民に呼びかける良い機会となった。

3. 参加者の声

・募金活動を通して、緑化の呼びかけをしながら多くの人と触れ合うことができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	事業内容	実施場所
令和6年4月20日	緑の募金街頭キャンペーン 街頭募金 ○花苗プレゼント 648本、苗木プレゼント 200本、花の種 1,200袋 ○木製プラント 12基設置（4月15日～5月15日） 材質：木製 寸法：L=120cm W=55cm H=150cm （植栽された花、樹木の高さを含む）	秋田市 JR秋田駅東西連絡 自由通路
令和6年4月14日・27日	緑の募金街頭キャンペーン 街頭募金 苗木プレゼント 150本	五城目町
令和6年4月27日	緑の募金街頭キャンペーン 街頭募金 花苗プレゼント 300個	大館市
令和6年5月5日	緑の募金街頭キャンペーン 街頭募金 花苗プレゼント 300個	にかほ市
令和6年5月28日	緑の募金街頭キャンペーン 街頭募金 苗木プレゼント 150本	鹿角市

市民グループ森林づくり事業（A-31）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森づくりや環境緑化に対する県民参加の促進と緑化思想の普及啓発を図るため、市民グループ等が行う植樹、育樹及び環境緑化活動に助成する。

2. 活動の成果

植樹をすることで地域住民の憩いの場として蘇るとともに、緑豊かな郷土づくりを推進することができた。

3. 参加者の声

・親子で植樹体験ができてよかった。花が咲くようになったらまた家族で来たい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	事業内容	参加者数	実施場所
11月5日	サクラの植樹 （環境林の造成）	25人	大仙市内小友余目地内 内小友地域森林愛護推進協議会
11月16日	サクラの植樹 （並木の造成）	40人	湯沢市稲庭町下川原地内 令和共生の里プロジェクト
11月30日	被害木伐採と炭やき （防風林の整備）	332人	秋田市下新城字街道端西地内 炭やきで夕日の松原まもり隊
12月26日	山桜、ブナ等の植樹 （環境林の造成）	50人	北秋田市上杉字長根下地内 トープ・木こりっこ

緑の少年団育成事業（C-18）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

次代を担う児童生徒の組織基盤の強化と地域における少年団活動の一層の活性化を図るため緑の少年団交流集会を開催した。児童生徒の緑化への関心を高めるため、児童生徒が行う植樹活動に対して助成した。また、地域単位の緑の少年団が行う森づくりや森林学習などの活動を支援した。

2. 活動の成果

部活動や学校行事などに様々な制限がある中で、児童生徒にとっても有意義な取り組みとなった。植樹体験や校庭を生徒の手で整備し完成させるなど、将来に繋がる環境教育となった。

3. 参加者の声

- ・これからも自然や樹木の様子によく気をつけて、いつまでも花を咲かせられるように大切にしていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	事業内容	参加者数	実施主体
7月28日	岩手県緑の少年団大会参加交流	16人	MV 東北秋田緑の少年団
7月6日	地域貢献活動～プランター寄贈～	95人	秋田市立将軍野中学校
7月3日	花苗プランターの緑化活動	80人	秋田市立河辺中学校
10月2日	植樹活動	40人	大仙市立協和中学校
7月5日	学校前庭花壇の緑化活動及び 大植学園緑化支援交流活動	178人	大仙市立太田中学校
11月27日	樹木の整枝・剪定体験活動	50人	大仙市立中仙中学校

森林活動指導者支援事業（C-19）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民が森林、林業体験活動や森林をフィールドとした保健休養、文化教育等の多様な活動を行う際に支援する指導的人材を育成するため、森林ボランティアを各種研修に派遣した。
また、森林ボランティア個人登録者約620名への情報提供を行った。

2. 活動の成果

各種研修に森林ボランティアを派遣することにより、森林ボランティアの資質の向上を図った。また、他県や他団体の取り組みに触れることにより、新たなボランティア活動への刺激となった。

3. 参加者の声

- ・子どもたちが元気に安心して緑化活動が出来るよう、今後もお手伝いしていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	事業内容	参加者数	備考
R5.7～R5.6	森林ボランティア指導者等養成研修	約620人	県内森林ボランティア登録者

山形県林業まつり開催事業（A-32）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

【村山地域林業振興協議会】

- ・体験教室を通じた木の良さの普及啓発、地域材のPRを通じた木の良さの啓発（マイ箸づくり教室、西山杉PRコーナーの設置）

【最上地域林業振興協議会】

- ・体験コーナーを通じた木や森の良さの理解の醸成（木質燃料重さあてゲーム）

【置賜林業推進協議会】

- ・体験コーナーを通じた木の良さの普及啓発、地域材のPRを通じた森の良さの啓発（広葉樹製品の販売・体験（けん玉体験）、置賜地域の広葉樹紹介パネルの展示）

【庄内地方林業振興協議会】

- ・木工クラフト体験を通じた木や森の良さの理解の醸成（寄木細工の小物づくり）

【山形県林業まつり実行委員会】

- ・県産広葉樹製品の展示による木の良さ森の良さの理解の醸成（広葉樹JAS材等の展示、広葉樹フローリングアンケート、イベントボックス（軽トラ）による県産木材PR）

2. 活動の成果

- ・箸の材料に地元の木材を利用したことで、地域材の良さの普及に繋がるとともに、地域の森林や林業に関心を持つ動機付けになった。
- ・様々な体験コーナーを通じ、木や森への理解の醸成や木材利用の意義、地域材の利用促進に対する意欲を高めることができた。
- ・樹種や部位による色や質感の違いを体感し、木の良さ森の良さの理解を醸成することができた。
- ・県内にある様々な広葉樹を活用した製品を展示することで、広葉樹に対する関心や利用に対する関心を高めることができた。

3. 参加者の声

- ・森林の価値を大事にしたい。地域の木を大切にしたい。
- ・自分で作った手作りの箸を大事に使いたい。
- ・木質チップの重さを充てるのは思ったより難しかった。
- ・地元こんなに広葉樹が多いとは知らなかった。勉強になった。
- ・硬い木と柔らかい木があるのが分かった。
- ・年輪を組み合わせで模様を作っているのが面白かった。
- ・樹の種類によって柔らかさや色にこんなに違いがるとは。びっくり。
- ・広葉樹の色と肌触りがとても良い。ホンモノの広葉樹はいい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月21日	10月22日	計	備考
事業量	木製品等の展示・体験コーナー		2日間	
参加者数	280人	500人	780人	体験者数 会場来場者数14千人
実施場所	山形県天童市 「山形県総合運動公園」特設駐車場			

庄内森とみどりのフェスティバル開催事業（A-33）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

庄内地域における森林の適正な管理を推進するとともに、再生可能な地域産木材の利用拡大を図るため、地域住民による森林保全活動や木材等林産物と触れ合う機会を提供し、森林・林業の役割やみどり豊かな自然環境の重要性について広く県民にPRすることを目的として開催した。

主な事業内容として、木製品等林産物や特用林産物の展示・販売、参加者が直接木に触れながらその手触りや香りなどを体感できる木工クラフト、木のおもちゃに触れる木育コーナー、その他森林・林業・木材に親しむイベントを実施した。

2. 活動の成果

地域住民が木製品等に直接触れ、その良さを感じる機会を幅広い世代に提供でき、地域産木材及び木製品の認知度向上等による需要拡大や森づくり活動の契機となることが期待できる。また、森林・林業の重要性についても広く周知できた。

今後も同様のフェスティバルを開催し、地域住民による森林保全活動や木材等林産物と触れ合う機会を提供し、森林・林業の役割やみどり豊かな自然環境の重要性について広く県民にPRしていく。

3. 参加者の声

- ・様々な体験と食べ物があり、大人も子どもも楽しめた。
- ・子どもに気を使った遊びに触れさせることができて良かった。
- ・木に関することを知れた。
- ・この時期に開催するのは良い。子どもの遊びスペースがあるのが良かった。
- ・森の大事さを積極的にPRしていく。
- ・規模が大きくて良い。
- ・毎年楽しみにしている。続けていってほしい。
- ・木と触れ合うことがなかなかないので、子どもたちにはいい経験だった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月14・15日 (鶴岡会場)	10月22日 (酒田会場)	計	備考
事業量	・木工品などの展示 ・体験コーナー			
参加者数 (内クラフト村等)	25,000人 (344人)	3,000人 (117人)	28,000人 (461人)	
実施場所	鶴岡会場：鶴岡市小真木原公園内 酒田会場：酒田市八幡体育館前			

緑の環境づくり啓発事業（A-34）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑豊かな自然環境の恩恵に感謝すると共に、森をはじめとする自然環境を守り、育て、生かすことの重要性を広く訴え、県民各層の参加・連携・協働による県民みんなで支える森づくりを推進しその取り組みを広報するため、①森林やまがた発刊、②やまがた森の感謝祭2024を実施した。

①森林やまがた発刊（令和6年度）

対象者：県内の林業関係団体及び企業等

内容：県内の森林・林業に関する普及啓発を行う。

②やまがた森の感謝祭2024（令和6年6月1日開催）

対象者：主催・共催者、やまがた絆の森企画企業、緑の少年団等

内容：（1）式典

（2）植樹活動（アカマツ450本、モミジ29本）

（3）森林散策（緑の少年団のみ）

2. 活動の成果

県民参加型の連携・協働による、県民みんなで支える森づくりを推進し、次世代に豊かな自然を引き継ぐための活動を多くの県民に普及啓発することができた。

また、森をはじめとする自然環境を守り、育て、活かすことの重要性を広報することができた。

3. 参加者の声

- ・森林やまがたを通じて森林・林業の理解が深められた。
- ・やまがた森の感謝祭を通じて森林整備を進められた。
- ・やまがた森の感謝祭での森林散策が面白かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月20日	6月1日	計	備考
事業量	森林やまがた	やまがた森の感謝祭2024		
参加者数	2,200人	350人	2,550人	
実施場所	①森林やまがた：県内全域、②やまがた森の感謝祭2024：川西町			

山形県緑の少年団連盟交流研修支援事業（A-35）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年団が相集い、自然の中で体験活動を通じて、相互の交流や資質の向上を図ることを目的に、交流研修事業を行った。山形県緑の少年団交流研修大会（月山弓張平サマージャンボリー）は西川町志津月山弓張平公園・県立自然博物館を会場に開催し、県内12少年団90名が参加した。当日は班ごとに分かれて、県立自然博物館でのブナ林散策を必修プログラムとし、月山弓張平公園では、ツリークライミング・ネイチャーゲーム、ソーセージ作り、昆虫調査を場所を分けて活動を行った。山形県緑の少年団地区交流研修会は、県内4地区4会場で開催し、森林体験や木工クラフトなどを体験した。

- ・村山地区：8/2 県立自然博物館（県大会と併催）
- ・最上地区：9/2 鮭川村 鮭川村エコパーク 75名参加
- ・置賜地区：7/28 米沢市 田沢コミュニティセンター 12名参加
- 8/3 飯豊町 源流の森 32名参加
- 9/30 小国町大宮地内 63名参加
- ・庄内地区：10/9 鶴岡市三瀬（林業士所有林、八森山レクリエーション広場） 26名参加

2. 活動の成果

郷土の自然の中での活動を通じて、緑と親しみ、緑を愛し、緑を未来につなぐ心を育むことに寄与した。また、他の少年団のメンバーとの班活動などを通じて、団員相互の交流につながった。

3. 参加者の声

- ・湧き水がおいしくて、自然の力はすごいと思った。
- ・自分で作ったハシを早く使いたい。
- ・色々な植物や実を発見できて楽しかった。
- ・巣箱づくりは楽しかったけど釘を打つのが少し大変でした。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月2日	8～10月	計	備考
事業量	山形県緑の少年団交流研修大会	山形県緑の少年団地区交流研修会		
参加者数	団員90人	団員196人	団員286人	
実施場所	山形県西川町、鮭川村、鶴岡市、米沢市、飯豊町、小国町			

緑化普及啓発事業（第32回緑の提言・作文コンクール）（A-36）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

本県は多くの湖沼や温泉資源、すぐれた景観・自然環境に恵まれ、人情味あふれる県民性ともあいまって全国の人々から愛され、親しまれてきました。

緑は本県のかげがえのない財産であり、これを守り育て次の世代に引き継ぐことが私たち県民に課せられた大きな使命です。

森林資源をとりまく諸情勢は厳しく、地球的な問題を抱えている現在、「緑の大切さ」「森林と自然の保全」を啓発することが急務となっています。このため、県民の「緑」に対する関心と意識を高めることを目的に、広く県内の児童・生徒から提言と作文を募集し、優れた作品を表彰・発表するものです。

2. 活動の成果

令和5年11月から作品の募集を開始し、令和6年1月15日まで募集を行い、小学校から157点、中学校から245点の計402点の応募がありました。

2月15日に福島民友新聞社で実施した審査会で、全部門合わせて33名の入賞者と学校賞6校を選び、翌日16日付けの福島民友本紙で結果を発表、3月中旬までに賞状・副賞を学校宛に発送しました。

また、5月4日付「みどりの日特集」で金賞・銀賞入賞作品を掲載し、榮譽をたたえるとともに、自然の大切さ・身近な環境問題意識の啓発をしました。

作品からは、子どもたちが日常生活での自然とのふれあいを通じて、緑豊かな福島への誇りと愛情を持ち、豊かな森林を守るために何をすべきかを真剣に考え具体的に行動しようとしている強い意志が伝わってきました。今後も、福島県の未来をどのように考えていくか、未来を担う小中学生の考え方を同コンクールを通して伝えていきたいと考えます。

3. 参加者の声

「作品に対する審査員の感想」

■低学年

身近な自然を子どもらしい着眼点で切り取り、生き活きと表現することができていた。身の回りの植物や生き物と関わる中で、食物連鎖や森林破壊、ごみ問題へと考えを深めていくことが出来ており、自然が好きということが伝わってくる作品が多かった。

■中学年

経験したことから興味を広げ、インターネットや家族に聞く等して調べることができていた。書き出しに会話文を書いたり、情景描写を書いたりするなど読者を引き付ける表現の工夫が見られた。

■高学年

書き出しに自然と関わるエピソードを書くことで、読者を引き付けることができていた。自然体験学習や総合的な学習の時間など、学校での学びを生かして書かれている作品が多く、自然の様子を表す語彙の多様さには驚かされた。

■中学校

学校での植樹活動や日常的に自然と触れ合う体験などから、自然や緑について素直な思いや考えを述べてた。SDGsやエコツアーリズムなど、ニュースや新聞等のメディアで見聞きする言葉を使い、多くの教科での学びから得られた知識を上手に活用しながら、身近な自然や緑について考えたことをきっかけに、世界的に起こっている事象に対する考察にまで及ぶなど、論理の展開に迫力を感じた作品が目立った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年11月1日	令和6年1月15日	令和6年2月15日	備考
事業量	作品募集開始	作品締め切り作品整理	本審査会	
参加者数		402人	9人	
実施場所	本審査会は、福島民友新聞社で実施（事前審査は、附属小・中で実施）			

普及啓発事業（第48回福島県林業祭）（A-37）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

林業関係者だけでなく林業を知らない世代、これから林業の担い手となる世代等へ森林・林業の役割やその重要性について、広くPRを図り、林業という仕事の魅力について関心を持っていただくことを目的に、令和5年10月21日に第48回福島県林業祭を開催した。

イベント内容としては、併催行事である林業コンクール等表彰式を開催するとともに、林業アカデミーふくしまのPR、高性能林業機械展示、ハーベスタシミュレーターの操作などの豊富な林業体験コーナーの設置や林業のチェーンソー技術を競う「第2回ふくしま伐木チャンピオンシップ2023」のほか、県の取組に関するパネル展示など県政PRや各林業関係団体PR、各種相談、木工体験コーナー、チェーンソーアート、きのこ品評会、森のオークション、木工品、農林産物の展示・販売などのイベントを実施し、県内外問わず、若年層から高齢層まで幅広い年齢層での参加があった。

2. 活動の成果

林業機械の体験や伐木造材技術を競う「第2回ふくしま伐木チャンピオンシップ2023」を開催したことにより、林業という仕事がイメージしやすいプログラムとなり、就業促進に向け効果的にPRを図ることができた。

また、イベントには1,200名の方が来場し、林業の魅力やその重要性が感じられる機会を提供したことで林業に対する意識の醸成、担い手確保の推進につながる。

3. 参加者の声

来場者に実施したアンケートでは「いろいろなイベントがあり楽しかった」、「県の取り組みや林業について学べるので勉強になる」などの感想が寄せられた。

また、イベント全体を通して、「楽しかった。林業という仕事に興味を持った。また来年も来たい」などの声があり、イベントの趣旨に合致するものとなった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年10月21日	計	備考
事業量	第48回福島県林業祭の開催		
参加者数	1,200人	1,200人	
実施場所	福島県郡山市安積町成田西島坂1（福島県林業研究センター）		

ファミリー緑の教室の開催事業（A-38）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

【目的】

家族が共通の課題をテーマに、一日一緒に自然に親しみながら地球温暖化防止等の緑の重要性を認識するため、森林・林業体験等を通じて、緑に対する愛護の心情と豊かな郷土を後世に引き継ぐ自覚を促進することを目的とする。

【内容】

休日を利用して親子での参加者を募集し、木工工作キット等による木工教室（とび箱ボックスづくり体験、木工イスづくり・棚づくり体験、カンナホイッスル・バードコールづくり体験）や森林学習を行った。

2. 活動の成果

森林に触れたり、木材を使って何かを作成する機会はあまりなく、家族と一緒に参加することで、普段の生活とは違ったコミュニケーションを図る機会を創出できた。

また、木工工作や森林学習を通して、親子で木のぬくもりに触れることで、地球温暖化防止等に対する緑の重要性を再認識するとともに、緑に対する愛護の心情と緑豊かな郷土を後世に引き継ぐ自覚を促進できた。

3. 参加者の声

- ・木を使った工作を楽しみながら森林のことを学ぶことができた。
- ・身近な木の種類を教わるので、公園などで調べてみたい。
- ・普段あまり森林について考えることがなかったので、今回参加してみて森林の大きさが実感できた。
- ・釘打ちが難しかったけど、楽しかった。
- ・子どもたちが、「木の香りがいい匂い」と喜んでいたので嬉しかった。
- ・イスづくりで子どもが大変喜んでいたので、イス以外にも制作してみたい。
- ・親子で工作することなどなかなかない機会なので、是非継続してもらいたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年9月30日	令和5年10月8日	令和6年1月27日	計	備考
事業量	木工教室 森林学習	木工教室	木工教室		
参加者数	25人	100人	30人	155人	
実施場所	南相馬市	いわき市	伊達郡国見町		

ふくしま緑の醸成事業（A-39）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

「緑の募金」における新型コロナウイルスの影響低減に向け、令和2年度より運用を開始したキャッシュレス決済によるカード利用者等へ、領収書発行時に「ふくしま緑の写真コンクール」優秀作品のポストカードを作製配布し、緑の醸成の拡大を図るものです。

2. 活動の成果

「第38回ふくしま緑の写真コンクール（令和5年度）」の特選1点、金賞5点、銀賞6点、計12枚のポストカードを作製しました。パッケージデザインは、シンプルな白地のものと写真をあしらったものの2種類を用意し、ポストカード本体は、森の香り付きで爽やかな香りを写真とともに楽しんでいただけるようにしました。また緑の募金キャッシュレス決済のQRコードもつけました。

作製したポストカードは、緑の募金寄付協力企業等へ領収書と併せて配布しました。

また、会議開催時等にも配布し、緑の醸成の拡大を図るためPRを行いました。

ポストカードのデザインは、「ふくしま緑の写真コンクール」の入賞作品を使用していることから、福島県内の美しい緑の風景や自然の力強さを感じさせる作品が多く、ポストカードの配布をとおして、県内の緑への親しみやすばらしさが再認識されるとともに、写真を楽しんでいただいた後、ポストカードとして使用することにより更なる波及効果も期待される。

3. 参加者の声

- ・緑がとても綺麗な写真。
- ・自然の中に出掛けたい。
- ・香り付きで面白い。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年12月～令和6年2月	計	備考
事業量	ポストカード 700組	700組	
実施場所	福島県全域		

青少年に対する林業普及啓発資材の配布事業（A-40）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林・林業に対する理解を深めるため、県内の教育・学校関係者を対象として、本県の林業普及誌である「林業いばらき」に緑化だより欄を設け、教材として配布した。

2. 活動の成果

林業体験学習の募集、実施状況、緑の少年団の指導者に対する情報提供活動などの広まりに効果があった。

3. 参加者の声

緑化だよりで森林整備についてボランティア団体の活動情報や緑化に関わるイベント等の開催について情報を得て参加することができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2,300部/月	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	R5.4 ～ R6.3 県内の教育・学校関係者に無償配布	毎月 867枚	10,404部	
参加者数	県内	867人	867人	10,404人
	県外	0人	0人	
	計	867人	867人	10,404人
実施場所	茨城県一円			

緑の体験教室開催事業（A-41）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

子供たちが自然と親しみ、豊かな自然環境を守る心を育成し、森林・緑化への理解を深めることを目的に緑の体験教室を開催した。

2. 活動の成果

自然観察会を通して、子供たちが自然環境を守る心を育むことができた。

3. 参加者の声

親子で参加して、貴重な体験をすることができた。講師のお話が分かりやすく、茨城県の自然について理解を深めた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～2月	7月～2月	計	備考
事業量 又は 事業内容	自然観察会開催 (4回/年) ・昆虫標本づくり ・秋の昆虫観察会 ・秋冬昆虫観察会	県内の森林や自然の観察、 木工工作、丸太切り等の 体験学習 (46回/年)	50回/年	
参加者数	県内	101人	2,138人	2,239人
	県外	0人	0人	0人
	計	101人	2,138人	2,239人
実施場所	茨城県県民の森・潮来市（水郷県民の森）、 那珂市（茨城県民の森）			

グリーンフェスティバル開催事業（A-42）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

適正な森林管理の重要性や、利用期を迎えた人工林を有効に活用することが森林の整備にもつながることなど、広く県民に森林や木材利用の大切さについて理解と関心を深めるため「グリーンフェスティバル2023」を開催した。

2. 活動の成果

多数の林業関係団体等が木工工作や重機の模擬運転、展示等を行い、広く県民に森林や木材利用の大切さについて理解と関心を深めてもらった。

3. 参加者の声

苗木無償配布で頂いた樹木を植えることで、緑化につながれば良い。子どもたちに、木材に触れ森林を守る心を育てるきっかけになれば良いと思い参加し有意義な体験ができた。

閉校する五霞東小学校のシンボル「のケヤキ鉛筆」を贈呈し、6年を過ごした学校生活で樹木の生長、大切さを知り身近なものとして実感できた。

実績報告とりまとめ表

実施期間	7月26日	3月10日	3月22日	計
事業内容	・森林・林業体験 ・研究・普及成果のパネル展示 ・緑の募金運動他	茨城県緑の少年団交流集会 ・桜地区緑の少年団 ・白方小緑の少年団 記念植樹・木工工作	・閉校する学校のシンボルのケヤキの枝条を利用して鉛筆を作成して贈呈	3回
参加者数	約180名	約50名	約170名	約400名
実施場所	茨城県立図書館及び三の丸広場 (水戸市)	茨城県水郷県民の森 (潮来市)	坂東市立五霞東小学校 (坂東市猿島町)	

森林ボランティア育成事業（C-21）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林ボランティア団体のスキルアップを図るため、公募により指導者養成講座等を開催し、ボランティア活動の意義と技術の習得を目的に、指導者の育成・確保の学習及び交流を行った。

2. 活動の成果

他団体の活動情報の交換を通じ、今後の活動に生かせることができ、参加ボランティア団体のスキルアップと活動意識の高揚が図れた。

3. 参加者の声

他団体の活動情報や、器具の整備技術、作業計画等、情報交換ができ有意義な事業だった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	3月10日	計	備考
事業量 又は 事業内容	除伐、間伐、植樹、記念植樹		
参加者数	県内	30人	30人
	県外	2人	2人
	計	32人	32人
実施場所	茨城県水戸市（水戸市森林公園）		

山村地域づくり活動助成事業 (C-22)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

山村地域の活性化を図るため、地域づくりを实践する森林整備グループ（団体）活動に対して支援を行うことを目的として、公募により助成金を交付する。

2. 活動の成果

県内一円の森林整備を行う団体等に助成金を交付した。

また助成金支援は、活動が定着する5年程度を目途に継続支援し、新たな地域・新たなグループ（団体）の掘り起こしを重点とし助成を決定した。

3. 参加者の声

活動を通じて地元の自然環境の理解と自然環境部員の情報交流を図ることができ、他地域のグループ結成の動機づけにつながった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月～3月	3月9日	計	備考
事業量 又は 事業内容	森林整備等の活動を行う団体へ 助成金交付	森林ボランティア養成講座 ・記念植樹苗木		公募
参加者数	県内 12団体	30人	12団体/30人	
	県外 計 12団体	2人 32人	/ 2人 12団体/32人	
実施場所	茨城県内一円・水戸市森林公園			

緑化樹木等苗木無償配布事業 (C-23)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民の緑化意識を向上するため、市町村が開催するイベント等の参加者に対し苗木や花苗等の無償配布を実施して、緑化思想の普及啓発を行った。

2. 活動の成果

無償配布したことにより、各家庭、地域の緑化意識の啓発、高揚を図ることができた。また、無料では申し訳ないと、緑の募金に協力していただいた。

3. 参加者の声

住居が賃貸マンション、アパートで、木を植える場所（庭）が無いので、無償であっても要らないという人もいたが、多くの参加者の方は「実のなる苗木はとてうれしい」「子供と一緒に大切に育てます」と感謝の言葉をもらうことができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月～3月	計	備考
事業量 又は 事業内容	苗木等の無償配布及び緑の募金運動		
参加者数	708人	708人	
	0人 計 708人	0人 708人	
実施場所	茨城県一円		

森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発事業（A-43）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

みどり豊かな環境を次の世代へ引継いでいくため、幅広い緑化運動を実施し、秋の緑化運動期間中に、県内23会場において苗木の配布会を行った。

また、苗木配布会で、緑化のPRのため任命したマロニエメイツも参加し、知事の県土緑化メッセージ伝達や幟旗を配置し、参加者への緑化の一層の推進を図った。

なお、緑化PRのCMを県域ラジオで放送して緑化の推進を図った。

さらに、国土緑化推進機構作成の国土緑化運動ポスターを、学校や関係機関に配布し、緑化の重要性についての普及啓発を行った。

2. 活動の成果

マロニエメイツの参加による苗木配布会はPR効果が高く、また、秋の緑化月間のラジオCM放送などで、県土緑化の推進及び県民の緑化意識の醸成に資した。

苗木配布会場においては、マロニエメイツによる緑の募金の声掛けや募金箱設置、チラシの配布等で、当機構の事業や緑の募金についてご理解をいただき、募金活動を実施して、多くの県民の方々が緑化募金に協力した。

今後より一層緑化の推進と機運醸成に努めていきたい。

3. 参加者の声

- ①苗木配布会を毎年楽しみに来ています。
- ②大切に育てます。いろいろな苗木で引き続き実施してほしい。
- ③実がなる苗木の配布は楽しみが増えてうれしいです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月1日～1月31日	計	備考
事業量	苗木 4,975本 ポスター配布 1,030枚 県域ラジオ放送 28回		
参加者数	5,000人 放送回数計 28回	5,000人 放送回数計 28回	
実施場所	苗木配布会：栃木県内23会場 ポスター：各学校、市町ほか関係機関		

青少年の教育の場としての森林の活用促進事業（C-24）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

目的：木工工作体験や自然観察会で木や自然に親しむことをとおし、子ども達に自然や森林環境に興味、関心をもってもらい、さらに森林や樹木が果たす役割についての学びにつなげる。

内容：令和5年10月7日（土）、とちぎわんぱく公園（壬生町）にて、来訪者（高校生以下とその保護者）に、木工工作体験（栃木県産材木製マルチラックまたは鹿沼組子のコースター製作）と自然観察会（公園内自然林をグリーンアドバイザーの説明を聞きながら観察）への参加を呼びかけ、71名の参加を得た。

森林環境教育資料をパネル展示及び配付し、治山や森林の機能についての普及啓発に努めた。

あわせて、クビアカツヤカミキリ等による樹木の被害について説明し、被害発見通報が自然保護につながることを広報した。

2. 活動の成果

自然観察や木工工作体験をとおして、参加者に森林環境が果たす役割や山地災害などを身近なものと捉えてもらえるよい機会をつくれた。

地元（栃木県）産の良質の木材や鹿沼組子などの伝統的な木工細工の存在や地域の木材産業への再認識の手助けになったのではないと思う。

3. 参加者の声

- ・釘打ちが、難しかった。
- ・自分ではがんで作ったので、大切に使おうと思う。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月7日	計	備考
参加者数	71人	71人	
実施場所	栃木県 下都賀郡 壬生町		

群馬県植樹祭開催（A-44）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

多くの県民の参加のもと、緑化思想の普及・啓発を図るため、群馬県、片品村及び林業関係団体等8者共催で、「第77回群馬県植樹祭」を開催。

参加者自らが苗木を植えることで、身近な環境緑化の運動推進と緑化思想の高揚を図ろうとするもの。

2. 活動の成果

・群馬県植樹祭は、緑豊かな住みよい郷土を作るために昭和21年から続いている郷土緑化運動の中心的行事であり、参加者による記念植樹を通じて、県民の森林に対する愛情と理解を培うことを目的に開催されている。伝統ある行事ではあるが、開催地選定や開催規模など効率的な方法を引き続き検討している。

3. 参加者の声

- ・大切な自然を守るために努力していきたい。
- ・苗木が成長して、地球の環境がよくなる事を願っています。
- ・村には木がたくさんありますが、植樹したのは初めて。自分で植えた木の成長が楽しみです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月29日	備考
事業量	第77回群馬県植樹祭	
参加者数	800人	
実施場所	群馬県利根郡片品村「武尊牧場」	

「木育」活動促進事業（A-45）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

群馬県植樹祭の開催に合わせて、将来を担う子どもたちに森林の大切さや木材利用の有用性を普及啓発するため、開催地の幼稚園、保育園に「木育」教材を提供し、「木育」活動を促進する。

2. 活動の成果

利根沼田森林組合の協力を得て、「木に触れる」「木で作る」「木で遊ぶ」をテーマとした「木育」セットを提供し、「木育」活動をととして子どもたちに木材の良さを体感してもらうとともに、保護者にも木材利用の大切さを普及啓発した。

- ①片品村立片品保育所【園児数74人】
- ②さんさん森のようちえん【園児数9人】

3. 参加者の声

- ・木製品の良さを実感しています。(保育士)
- ・木のおもちゃをとおして幼児の感性を豊にしたい。(所長)
- ・子どもたちは木のおもちゃが大好きです。(保育士)

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年6月26日	計	備考
事業量	木育セット 8セット		
参加人数	83人	83人	
実施場所	利根郡片品村大字大字鎌田4254ほか		

巨樹・古木巡りツアー事業（A-46）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内各地に点在する巨樹・古木の現状と治療状況を樹木医の解説を交えながら観察し、保全の必要性や重要性等の認識と理解を深め、緑化思想の高揚と啓発を行う事を目的として、毎年年2回春、秋に県内4コースにわかれて巡る日帰りバスツアー

2. 活動の成果

県内各地の代表的な巨樹・古木を樹木医の解説を交えながら観察し、直接木々に触れ、歴史を学び、自然を思いやる心、森林の重要性を伝えることが出来た。

毎回抽選するほどで、4月6日実施の応募状況は、定員100名のところ411名の応募があり、吾妻コースが172名と一番人気であった。

一度参加された方は、4コース巡りたいと、毎回楽しみにしている。

3. 参加者の声

- ・妙義神社の桜が満開でお花見も出来て一日楽しめた。
- ・萩原の笠松はみごとでした。自分では行けない場所を案内してもらい、近くにたくさん巨樹・古木があることを知った。これらの木を守り続け次世代につなげてほしい。
- ・同じクスノキでもそれぞれ環境が違くと姿が変わると思った。普段は気付かない事がたくさんあり、樹木医の説明が聞いて良かったです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月4日	4月6日	計	備考
事業量	巨樹・古木巡りツアー	巨樹・古木巡りツアー		
参加者数	96人	100人	196人	
実施場所	群馬県一円			

森と木のまつり（A-47）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

広く県民に森林の素晴らしさ、林業・木材産業の現状、山村の伝統文化・産業等を紹介し、森林・林業への理解の醸成を図るとともに、森林・林業に親しむ機会を提供している。

コロナ渦で中止していたが4年ぶりに、地元の市町村や森林組合、農業団体、地域活動団体などとも連携して開催する運びとなった。

2. 活動の成果

森林・林業に親しむ機会を提供する地域に密着したイベントとしている。

イベントの参加者からは、大変喜ばれており、今後も、内容を見直しながら、森林・林業のはたす役割をよりわかりやすく紹介できる事業として実施したい。

各種体験イベントには、多くの県民が訪れ、チェーンソーでの伐倒やロープを使ったツリーイングに真剣に取り組んでいた。

神流森の市・森と木のまつりは、当日あいにくの雨天となったが地元をはじめ多くの人で賑わい、わたらせ森と木のまつりでは、秋晴れの好日となり多くの家族連れで賑わった。

3. 参加者の声

- ・ツリーイングは、初めてで楽しかった。
- ・木工工作をしたのが楽しかった。
- ・丸い板にお絵かきが楽しかった
- ・きのこ汁がおいしかった。
- ・また、来年も来てみたい。
- ・森の恵みの作品作りなど貴重な体験ができた など

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年10月15日	令和5年11月5日	備考
事業量 又は 事業内容	神流森の市 森と木のまつり	わたらせ森と木のまつり	
参加者数	人 人 500人	人 人 2,500人	県内外の統計無し 合計3,000人
実施場所	群馬県多野郡神流町	群馬県桐生市	

さいたま森林フォトコンテスト事業（A-48）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林と緑と水の豊かさを再認識すると同時に、林業及び環境保全への理解を深めてもらうため、県内の森林と緑の再発見を目的に、第33回さいたま森林フォトコンテストを開催した。

作品テーマは「森林や緑などの自然風景、またそれらと人間との結びつきを感じさせるもの、または林業への理解を深めるもの。」として募集した。

2. 活動の成果

応募期間は令和6年3月から令和6年5月14日までとして実施し、応募作品は382点であった。同年5月に審査会を行い、特選（知事賞）1点、準特選（緑化推進委員会賞、埼玉新聞社賞）2点、優秀賞（埼玉りそな銀行賞、埼玉県治山林道協会賞、ガイドードリンコ賞、日本製紙賞、AGS賞）5点、佳作12点を選定し、6月21日に表彰式を行った。

表彰式会場での展示のほか、今後埼玉県庁で展示を行う予定である。また、6月19日の埼玉新聞紙上で全入選作品が紹介された。併せて、埼玉新聞社のホームページでも紹介されている。

3. 参加者の声

審査総評：

今年の応募点数は382点と昨年の応募点数を僅かに下回った。新型コロナウイルス感染症の行動制限は解除されたが、場所によっては以前の賑わいを取り戻せていない。こうした中、わずかな減少で済んだのは関係各位の努力のたまものであり、素晴らしい写真を撮影、投稿して下さった方々に感謝したい。

今年の作品傾向は、行動制限以前のように森の中で自然を楽しむ人々の様子を活写した作品が多く見られた。また、四季折々の美しい森林風景や森林などに生息する鳥や昆虫などの写真も多く寄せられた。しかしながら、本コンテストの重要なテーマの一つである森づくりや森を守り育てる場面を撮影した作品が減っていることから、次回以降の大切なテーマとして再認識されることを期待したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	3月10日～5月14日	5月22日	6月21日	備考
事業量	作品募集	審査会	授賞式・展示	
参加者数	382人	15人	40人	
実施場所	埼玉県内			

緑の少年団活動支援事業（A-49）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年団育成のため、指導者研修を実施した。

また、森林についての理解と相互の交流を深めるため、緑の少年団交流会を開催した。交流会では木工工作も実施し、木に対して親近感を持ってもらうとともに、全国植樹祭の紹介などを行い、森林の大切さについて理解を深めてもらった。

2. 活動の成果

次代の緑化運動の担い手である「緑の少年団」活動の推進が図られ、継続して森を守り育てることの大切さが普及啓発された。

3. 少年団の声

- ・研修会で、少年団の活動方法について参考になった。
- ・交流会での発表で、他の団の活動が参考になった。
- ・クイズで、埼玉の自然のことが勉強できた。
- ・木工工作が楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月27日	10月14日
事業量	研修会	交流会
参加者数	27人	47人
実施場所	埼玉県寄居町、埼玉県秩父市・小鹿野町（秩父ミュージアムパーク）	

緑化普及啓発事業（A-50）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民に対し緑化活動への参加促進を図るため、森林ボランティア団体の活動を情報提供するとともに、秋に開催される農林業イベントにおいて、ボランティアの活動状況等を展示した。

活動情報については、8月から4月の地元新聞に森林イベント情報を掲載し、森林ボランティア活動への参加を呼びかけるとともに、緑の募金についても協力の呼びかけを行った。

イベントについては、11月25日、26日に埼玉県熊谷市のくまがやドーム前広場で開催された彩の国食と農林業ドリームフェスタの会場において、森林ボランティアの活動状況の展示や緑の募金のPRを行って、緑化の大切さやボランティア活動参加を呼びかけた。

2. 活動の成果

新聞の情報を見て問い合わせがあり、新たに森林ボランティア活動に参加する方が増えた。

また、イベントにおいて、展示を見ていただいたり募金をしていただくことにより、緑の募金や緑化活動に関心を持ってもらうことができた。

3. 参加者の声

- ・新聞を見て、県内で森林ボランティア活動を実施していることを知り、活動に参加した。
- ・展示を見て、色々な緑化活動を行っていることを知った。可能であれば参加してみたい。
- ・緑の募金が県内の緑化などの取り組みをしていることがわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R5.8～R6.4	R5.11.25～26	備考
事業量	1月を除き、毎月1日にイベント情報掲載	イベント展示2日	
実施場所	埼玉県、埼玉県熊谷市		

令和5年度国土緑化運動ポスター原画コンクール（A-51）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

国土緑化運動・育樹運動ポスター原画募集に呼応した、県内コンクールを実施し、次代のみどりづくりを担う少年少女たちに、緑の重要性、自然の素晴らしさ等を絵に表現することを通じ、普及啓発する。

2. 活動の成果

当県のコンクール参加者は全国的にも群を抜いて参加者数が多く、子ども達の関心が極めて高い。作品集の作成、表彰式の実施、入賞作品の展示等、多様かつ一体的に行うことで、単なるコンクールとして一過性の行事に終わらせることなく、学校、保護者等をも巻き込みながら、みどり（森林）に一層親しみを寄せ、理解を深めることができた。

3. 参加者の声

表彰式参加者：毎年、家の庭に1本ずつ苗木を植え、緑を増やしています。

ポスター原画も毎年描いています。

学校教諭：美術部の生徒たちは皆、緑化運動ポスターが大好きで、作品作りに楽しみながら熱心に取り組んでいます。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月	11月	計	備考
事業量	応募者数	受賞者数		
参加者数	396校、8,021人	429人	396校、8,021人	
実施場所	県内全域			

ふるさとの杜活力調査事業（B-1）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

都内には小さな公園や寺社など、多くの「杜」が点在する。これらは、市街地における美観風致の維持に加え、地域住民の憩いの場や災害時の避難場所としても、古くから重要な役割を果たしてきた。

こうした公共的評価の高い「杜」のうち、区市町村が指定する保存樹や保存林などを中心とした樹林を対象に、樹勢診断と健全度評価等を実施し、その成果を樹林の整備に還元した。また、本事業を通じて過去に調査を行った「杜」についても、その後の保全や活用の状況を追跡調査して再評価し、地域の取組みの中で「杜」を有効に活用する方策等をまとめた。

2. 活動の成果

今回は、計4か所で調査を実施し、それぞれの報告書を作成した。

杜の活力調査では、南平丘陵公園（日野市）、荒川赤羽桜堤緑地（北区）、グリーンパーク遊歩道（武蔵野市）にて、樹木や植生の現況、活力度等の調査・評価を行い、今後の管理方法について提言等を行った。

追跡調査では、おとめ山公園（新宿区）にて、前回調査後のナラ枯れ被害の変化等を再調査し、より効果的な防除法や樹林の更新方法について提言等を行った。

上記4箇所の「杜」における樹木の腐朽や枯損等の問題点と課題を明らかにし、具体的な対策を提言としてまとめ、地元自治体へ還元した。今後、利用しやすい「杜」の環境整備と安全確保がいつそう進み、景観の維持や生物多様性の保全等が図られることが期待でき、都市緑化の推進に寄与した。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年10月1日～令和6年2月28日
事業量・参加者数	・樹勢調査、樹木点検：4ヶ所33人 ・報告書作成：4ヶ所8人 延41人
実施場所	・活力調査：南平丘陵公園（日野市）、荒川赤羽桜堤緑地（北区） グリーンパーク遊歩道（武蔵野市） ・追跡調査：おとめ山公園（新宿区）

普及啓発 卒寿の森づくり事業 (A-52)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

22世紀の県民に緑の遺産を贈る木を植える県民運動を広く普及啓発するため、県民一人ひとりが吐き出す二酸化炭素を自らの植樹活動によって相殺させることを目的とする、県民運動を象徴する森づくりを実施する。

2. 活動の成果

水害で荒廃した三条市大谷ダム周辺で、卒寿の森づくり実行委員会を立ち上げ、参加者を募り、ブナを植樹した。活動については会報誌やラジオ、新聞等を通して周知した。

3. 参加者の声

- ・来年もまた植樹したい。木を植える大切さを知った。もっとたくさん木を植えたい。(地元小学校3・4年生)

実績報告とりまとめ表

実施時期	R5年7月～R5年10月	計	備考
事業量	植樹ブナ100本		
参加者数	100人	100人	
実施場所	新潟県三条市		

「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業 (秋期) (A-53)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地球温暖化防止や持続的可能な社会の実現に向け、当委員会では、21世紀の百年をかけて県民みんなで木を植え、緑を守り育てる『にいがた「緑」の百年物語—木を植える県民運動』を展開している。この運動への県民の一層の参加促進を図るとともに、「国民参加の森林づくり」の具体的な行動を喚起するため、新発田地域での植樹祭開催、YouTubeでの情報掲載、森づくり活動情報パンフレットの作成を行った。

2. 活動の成果

ふるさとの環境について理解を促進するため、YouTubeで「当委員会の活動」を発信し、県民一人ひとりが身近な森林について考え、保護し活動を促し発信内容を通して、新潟の森林について考え、森林への理解を深めること、「緑の募金」協力を広く県民に呼びかけることができた。

また、活動が停滞していた新発田地域において植樹祭を開催し、植樹祭の参加を通して市民への緑化活動の普及を図った。

そのほか県内で実施される森づくりの活動情報が記載されたパンフレット(秋期版)等を作成して広く県民に配布し、ホームページにも掲載したことで、活動の参加促進を図ることができた。

どちらも新潟においては着実に浸透してきており、今後も広報活動を春期と秋期の2回に分けて継続していく。

3. 参加者の声

- ・自分たちだけで広報をするには限界があるので、パンフレット等での広告はとてありがたい。これからの新発田地域の緑化活動に期待でいっぱい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～12月	7月～12月	7月～9月	備考
事業量	YouTube 放送周知	植樹祭	パンフレット	
参加者数	人	100人	人	
実施場所	新潟県全域			

「にいがた緑の百年物語」普及啓発事業（春期）（A-54）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地球温暖化防止や持続的可能な社会の実現に向け、当委員会では、21世紀の百年をかけて県民みんなで木を植え、緑を守り育てる『にいがた「緑」の百年物語一木を植える県民運動』を展開している。この運動への県民の一層の参加促進を図るとともに、「国民参加の森林づくり」の具体的な行動を喚起するため、会報誌、事務局だより、森づくり活動情報パンフレットの作成を行った。

2. 活動の成果

にいがた「緑」の百年物語県民運動及び国民参加の森づくりへの一層の参加の促進を図るには森づくりや緑化の活動情報を県民に提供する必要がある。会報誌では、植樹した樹木の成長した姿、森からの恵み、活動するボランティア団体の紹介等を広く周知することができた。

また、事務局だよりでは、当委員会の運営を深く理解し、「緑の募金」を促すため、当年度の事業計画のほか、国土緑化運動・育樹運動のポスターや標語の入賞作品、褒賞の受賞者を広く周知することができた。

そのほか県内で実施される森づくりの活動情報が記載されたパンフレット（春期版）を作成し、広く県民に配布することにより、活動の参加促進を図ることができた。

会報誌と活動情報パンフレットにおいては着実に浸透してきており、今後も春期と秋期の2回に分けて継続していく。

3. 参加者の声

- ・自分たちだけで広報をするには限界があるので、パンフレット等で活動等の県民への周知はとてもありがたい。
- ・イベント情報の掲載期間の範囲が広まったため、年間を通した活動が周知できるようになって良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2月～4月	4月～5月	2月～4月	備考
事業量	会報誌	事務局だより	パンフレット	
実施場所	新潟県全域			

スガ池周辺整備設計・植生調査委託事業（A-55）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

上越市くわどり市民の森内のすが池の吐出口にオリフェスを設置することができた。スガ池を湛水させた前後の植生調査を実施したことを踏まえ、環境を生かしたビオトープを造成するために、設計委託する。委託する内容は、①現状植生調査と湛水後の想定遷移植生予測を踏まえたビオトープ環境の創出、②植生の配置、③木道等の配置及び導線計画とする。この業務を通じて、森づくりと一体となった水辺環境整備を促進し、市民の参加促進を図るとともに、「国民参加の森林づくり」の具体的な行動を喚起し、身近な森づくりの推進を図る。

2. 活動の成果

すが池の淡水化を促進し遷移植生を確認しつつ、ビオトープ観察サイトの整備を3箇所選定することができた。貴重なヤマネの生息を確認することができた。

3. 参加者の声

- ・すが池を中心とした豊かな森林を再生させることが着々とすすんでいる。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R5年7月～R5年12月	備考
事業量	スガ池湛水化計画	
実施場所	新潟県全域	

森林・木材等普及啓発事業（A-56）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

木工教室の開催

令和5年10月28～29日、フューチャーシティファボーレで開催された「とやま木育フェア2023」において、木工教室（①木のいす②バードコール③My竹はし④小枝のキーホルダー）を通じ、木のもつ柔らかさや温かさ、加工の容易さなど木の特徴を伝えることができた。

緑に親しむ集い

令和6年5月4日（みどりの日）、県民公園頼成の森において「緑に親しむ集い」を開催した。シイタケの植菌体験（150本）、林内散策、クイズラリーを通し、森からの恩恵について普及啓発を行った。

森林・緑普及広報

事業活動をホームページで紹介し、県民に森林・緑の大切さを普及啓発した。
学校への苗木配布、各種コンクールの募集、表彰を行い、県民の緑化思想の醸成を図った。

2. 活動の成果

木工教室やシイタケの植菌体験を通して、森の恵みについて楽しく学び、木のもつ柔らかさや温かさを知ってもらうことができた。

ホームページでの情報発信を通して、身近な森林や緑化に関するイベントへの参加や理解に繋がることが期待できる。

学校への苗木配布、各種コンクールの募集、表彰を行うことで、未来を担う青少年に森林のはたらしきについて理解を深める機会となった。

3. 参加者の声

（木工教室）木のぬくもりを感じられるイスが完成し嬉しい。大切に使いたいと思う。

（シイタケ植菌体験）どのように大きくなるのか観察するのが楽しみ。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年10月28日～29日	令和6年5月4日	計
事業量	木工教室の開催（とやま木育フェア2023）	緑に親しむ集い	
参加者数	888人	62人	950人
実施場所	富山県富山市	富山県砺波市	

花とみどりの少年団活動支援事業（C-25）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

次代を担う子供たちが「緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる」活動を通じて、「ふるさとを愛し、そして人を愛する」心豊かな人間に育っていく一助となるよう、各少年団に運営費及び事業費の助成をした。また、サマーキャンプ参加団に交通費の助成をした。

今後の活動の一助となるよう各団の活動状況をまとめた「活動集（DVD）」を配布した。

2. 活動の成果

新型コロナウイルスの5類移行に伴い、少年団を対象とした体験学習（サマーキャンプ）を再開したところ、実際に目で見て触れることで、森林のしくみや大切さなどについての理解が深まったが、コロナ禍以前より参加者が大幅に減ったことから、引率する市町村職員や教員の負担、近年の猛暑なども考慮し、参加者のニーズに合った実施方法の検討が必要。

3. 参加者の声

講師の先生の話聞いてわかったこと

- ・森林があることで、私たちの生活に安らぎを与えることがわかった。
- ・森林は手入れを必要としていることがわかった。
- ・少年団で学んだことを家族にも教えてあげたいと思う。

実績報告とりまとめ表

①運営費・事業費の助成

実施時期	通年	計
事業量	運営費・事業費の助成	32団
参加者数	32団	
実施場所	少年団設置校	

②サマーキャンプ

実施時期	7月31日～8月1日	計
事業量	交通費の助成	3団 30人
参加者数	3団 30人	
実施場所	国立立山青少年自然の家	

③DVDの配布

実施時期	7月25日	計
事業量	DVDの配布	100枚
参加者数	34団47校ほか	
実施場所	少年団設置校、県・市町村担当課	

緑化思想の普及啓発事業（A-57）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

幅広い県民の緑化意識の高揚を図るため、緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクールの県審査における入選作品の表彰を行うとともに、「県民みどりの祭典」やショッピングモールにおいて、入選作品の展示を行った。

作品の表彰

次のとおり各入選作品には賞状及び記念品を交付した。なお、各部の上位作品は、中央審査に推薦した。

小学校の部：10点、中学校の部：10点、高等学校の部：10点

作品の展示及び広報誌の配布

「県民みどりの祭典」において、ポスター展示コーナーを設け、入選作品を展示するとともに緑化推進ブースでの広報誌配布を行った。

また、県立図書館及び県内のショッピングモールで4月から5月にかけて展示を行った。

2. 活動の成果

緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクールの優秀作品の表彰及びイベントやショッピングモールにおける入選作品の展示、広報誌の配布を通じて、幅広い県民の緑化意識の高揚が図られた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年4月	令和6年4月～5月
事業量	作品の表彰	作品の展示及び広報誌の配布
参加者数	28人	1,000人
実施場所	河北郡津幡町	河北郡津幡町ほか4市町

県内産緑化苗木無償配布事業（C-26）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

幅広い県民の緑化意識の高揚を図るため、県・市町、関係団体等の緑化イベントに合わせ、緑の募金や緑化の普及啓発活動とセットで県内産緑化苗木の無償配布を実施した。

2. 活動の成果

緑化苗木の無償配布を通じて、広く緑の募金運動や緑化の大切さに対する意識の高揚が図られ、県内における緑化苗木生産部門の振興に寄与した。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年4月	令和6年4月
事業量	・緑の募金出発式金沢市会場：100本	・県民みどりの祭典 河北郡津幡町会場：400本
参加者数	200人	2,000人
実施場所	金沢市	河北郡津幡町

森づくりボランティア・キャンペーン事業（C-27）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林に対する国民の期待が多様化、高度化する中で、国民参加の森づくり運動推進の中核的役割を担う人材養成を目的に、県内各地で森づくりボランティア・キャンペーンを展開し、活動基盤の整備及び森林ボランティアリーダーの養成、資質の向上を図った。

一般県民（既往の森林ボランティア団体会員等を含む）を対象に、森づくり現地活動及び研修講座を実施し、活動基盤の整備及びボランティアの育成強化を図った。

(1) 森づくり現地活動

県内5カ所で、それぞれの森林現況に応じた森づくりボランティア活動に延べ6回取り組んだ。

(2) 研修講座

森づくり活動に必要な基礎的情報や安全のポイントなどについて、現地実習を交えながら6回の研修講座を開催した。

2. 活動の成果

活動基盤の整備とともに、県民参加の森づくりの推進、森づくりボランティアの育成及び森林の役割等に関する普及啓発が図られた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月9日	9月23日	9月30日	10月14日	11月18日	7月～11月
事業量	森づくり現地活動					研修講座(7回)
参加者数	35人	61人	46人	46人	25人	延べ55人
実施場所	小松市吉竹地内	能美市岩本町地内	金沢市高尾町地内	輪島市金蔵地内	羽咋市酒井町地内	金沢市古府他

もりとふれあい推進事業（普及啓発事業）（A-58）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森づくりを通じて次世代の育成を目指した森林教育の推進と、山村地域の活性化・地域づくりの推進を図る。

①森の宝でクラフト作り体験（蔓、木の実、枝など使用）②森の生き物観察（樹木、キノコ、昆虫、野鳥）③森の散策で健康増進（エビデンス計測）④森からSDGsを学ぶ（ネイチャーゲーム）⑤学校林を使った環境教育の推進（木材の活用）

2. 活動の成果

森からの新たな恵みを体感し、リースやアート作りなどを通して親と子が楽しく自然体験ができたこと、森林内でキノコや昆虫、野鳥に接し生物の多様性を感じられたこと、キノコが森からの恵みであることと元気な森づくりに繋がることを理解出来たこと、森林内を歩く事で健康増進が図れることをエビデンスを基に理解できたこと、荒廃したスギ林の現状と木材の新たな活用を学習できたこと、森の働きや間伐の必要性が理解できたことなど、森林の散策等を通じて広く県民に森林づくり運動の大切さや、森と緑・水・きれいな空気などの関係の認識が深められた。

今後も大人から子供まで県民が森の中に入り、森の恵みを体験できるイベントを実施する。

3. 参加者の声

- ・森林内での有酸素運動（ウォーキング）は、癒し効果がいっぱいと感じた。
- ・普段見ることが出来ない昆虫やキノコ、野鳥や植物が沢山あることが分かった。
- ・子どもに自然を学ばせたかった。森を歩いていて色々な発見に興味湧いた。
- ・リース作りを通して子どもと森の中で自然に触れ合えることが出来た。
- ・森は季節や天気によって違った景色があり、色々な想像を湧き立たせてくれる。
- ・荒廃したスギ林の現状と新たな活用方法を学べて良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月17日 9月30日 10月8日	10月22日 11月4日 11月19日	11月23日 11月25日 9月14日	計
事業内容	森のウォーキング 森の生き物観察 (樹木、キノコ) 森の生き物観察 (野鳥、昆虫)	秋の森林観察 各種ネイチャーゲーム体験 森のウォーキング	リース作り体験 冬の森林観察 木材の活用学習	
参加者数				223人
実施場所	福井市真栗町、福井市小羽町、福井市中手町、 鯖江市西山町、越前市別印町、越前市村国町、池田町志津原			

ふくいの森林づくり推進事業（活動基盤の整備）（C-28）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森づくり活動の実践と森林整備の担い手、森林ボランティアリーダーの養成を図る。

- ・ふくいの森づくりを知る研修会
- ・森を元気に育てる体験会

2. 活動の成果

植樹の大切さの体験、低コスト化して伐採する林業技術の講習、余すことのない森林資源の利用講習で、森林の大切さ、地域材・山村資源の活用等について、子どもから大人まで広く県民に啓発ができた。これからも植樹体験会や効率的な森林整備研修会を実施し、森林所有者や一般県民、ボランティア団体に積極的に森林づくりに参加して貰えるよう努めたい。

3. 参加者の声参加者の感想

- ・機械で木を伐るところを初めて見た。林業も機械化が進んでいると思った。
- ・鋤を使わない植樹（コンテナ苗）方法を初めて知った。
- ・豊かな漁場を育む森づくりは容易ではないと思った。
- ・樹木の獣害被害の現状を見た。
- ・自分の植えた木が大きくなるのが楽しみ。また見に来たい。
- ・森林管理の必要性がわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月21日	11月21日	計
事業内容	森林の循環利用を学ぶ 林業の先進技術を学ぶ	育樹体験 森の働きを学ぶ	
参加者数	14名	27名	41名
実施場所	あわら市宮谷・清滝地区、小浜市学園地区		

普及啓発事業 教職員森林・林業研修 (A-59)

1. 活動の概要

森林・林業の基礎知識を学び、間伐体験や木工作の指導方法等について実作業を通じた研修を行うことにより、社会科、理科、生活課、総合的な学習の時間、環境教育等における指導方法の向上を図る。

2. 活動の成果

参加した教員が森林・林業への理解を深め、木材の特徴を学んだ上で木工作を体験することにより、児童生徒に対して教育する際のポイントが身につくなど実践力アップが図れた。

3. 参加者の声

- ・森林・林業について知る機会がなかなか無かったので良い機会になった。
- ・学校に緑の少年少女隊の活動があり、植樹活動を行っているので、改めて森林の大切さや木のすばらしさを伝えたいと思う。
- ・木材のこと、道具のことを丁寧に教えてもらえて良かった。
- ・授業などで、県内の森林の特徴を伝えたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年8月3日	令和5年8月8日	計	備考
事業量	・森林・林業・木材の基礎知識講義 ・木工作入門講義および実技	・森林・林業・木材の基礎知識講義 ・手鋸によるヒノキの間伐 ・間伐体験と樹皮を使ったカゴ作り		
参加者数	10名	15名	25名	
実施場所	山梨南巨摩郡富士川町最勝寺 山梨県森林総合研究所			

普及啓発事業 緑の少年隊活動発表会大会開催事業 (A-60)

1. 活動の概要

県内各団体の情報を共有する中で、各団体における今後の緑化活動が発展することを目的として、緑化活動を積極的に行っている団体として各地区から推薦された4団体が、日ごろの緑の少年隊や学校林活動等の状況を発表した。また、当日の発表の様子をYouTubeにてオンライン配信を行った。

2. 活動の成果

特色ある活動内容や実施方法について、広く共有できたことで、今後の団体活動の広がりや充実が期待できる。

3. 参加者の声

- ・日頃の活動を紹介でき、また他の隊の活動の様子が聞けて参考になった。
- ・審査中に舞鶴城公園の歴史学習を行うのは良いと思う。
- ・YouTube配信により引率の負担がなく、参加しやすくなった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年11月18日	計	備考
事業量	4団体による活動発表 (YouTubeによる配信)		
参加者数	38名 (指導者等を含む)	38名 (指導者等を含む)	
実施場所	山梨県甲府市 丸の内恩賜林記念館 大会議室		

普及啓発事業 緑化ポスターコンクール等開催 (A-61)

1. 活動の概要

県土緑化運動の一環として、植樹及び森林・樹木の保護・保育の助長並びに県民の緑化思想の高揚を図るため、青少年等を対象に、緑化ポスター・標語のコンクールを開催し、優秀作品を選定後、秋に開催した山梨県林業まつり記念式典で表彰を行った。

2. 活動の成果

ポスター、標語の応募を通じて、森林や自然に対する関心を深めてもらい、森林環境教育の充実が図られた。

3. 参加者の声

- ・植樹祭での植樹活動の経験を思い浮かべながら書くことが出来た。
- ・木や森があることで生きられる動物や植物がいることを改めて感じた。
- ・このような活動を機会に緑化や育樹の意義や必要性が広がるとよいと思った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年7月～10月	令和5年7月～10月	計	備考
事業量	緑化・育樹ポスターコンクール	国土緑化運動・育樹運動標語コンクール		
応募者数	463作品	369作品	832作品	
実施場所	山梨県内全小中学校（標語は、高等学校・特別支援校・一般も含む）			

普及啓発事業 子ども樹木博士認定事業 (A-62)

1. 活動の概要

夏休み期間中に県内の2箇所の森林で、小学生とその保護者を対象として、林内を歩きながら講師から樹木の解説を受けた後、樹木の名前テストを実施し、成績に応じて樹木博士の認定書を授与した。
(新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、実施施設の利用可能人数等から募集人数を絞って開催)

2. 活動の成果

森林の中で、親子が共にふれあいながら樹木の名前を識別できるようになり、自然に親しんでもらうきっかけになった。

3. 参加者の声

- ・検定があることから子供たちは真剣に取り組み、大人も知らないことを沢山聞くことができ、とても充実した企画だと思った。
- ・自然の中で親子で歩きながら学べる点が、とても良いと思う。
- ・来年も参加したいので、ぜひ開催して欲しい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年7月17日	令和5年8月6日	計	備考
事業量	小学生8名、中学生1名に認定書を授与	小学生4名に認定書を授与		
参加者数	20名（保護者を含む）	9名（保護者を含む）	29名（保護者を含む）	
実施場所	山梨県甲府市山宮町片山 武田の杜 山梨県南都留郡富士河口湖町船津 河口湖フィールドセンター			

普及啓発事業 親子緑の集い (A-63)

1. 活動の概要

加工を伴う木工や、枝・木の実・樹皮等を組み合わせたクラフト、ロープを使い高木へ登るツリークライミングなど、森林の恵みの豊かさや楽しみ方を体験をとおり、親子でのふれあいながら森林や緑の重要性の理解を深める。

2. 活動の成果

日常生活では体験することができない森林散策や木工体験の場を親子に提供することにより、森林や緑への幅広い意識の醸成が図れた。違う季節に異なるプログラムを行うなど、森林の持つ多彩な魅力を伝えることができた。

3. 参加者の声

- ・木の話聞きながら散策するのは楽しかった。
- ・親子で散策ができ、森の音、鳥の声を聞き改めて自然の中で生かされていると感じた。親子でともに体験できるので大変有意義貴重な体験となった。
- ・工作は普段家ではやらないので良い経験となった。
- ・今後も開催してほしい。また参加したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年7月22日	令和5年10月21日 令和5年10月22日	令和5年11月23日	計	備考
事業量	森の散歩と山梨県の木を使った木工	親子でツリークライミング	クリスマスリース作り		
参加者数	親子14組 32人	親子21組 58人	親子18組 48人	親子53組 138人	
実施場所	山梨県甲府市山宮町 武田の杜サービスセンター				

普及啓発事業 親子森林・林業体験教室開催事業 (A-64)

1. 活動の概要

日頃、森林や林業に触れ合う機会のない親子が、森林の現状や林業の必要性について、関心や理解を深めるため、学習・体験の機会を提供する。

2. 活動の成果

自然の中で親子が森林・林業体験活動を経験することで、より森林・林業への理解が深まるとともに関心も高まり、将来林業の担い手が就業の選択肢になることが期待できる。

3. 参加者の声

- ・林業のことや、伐採について、普段聞くことができない話が聞いてよかった。
- ・間伐を体験して、安全な伐り方があることがわかった。
- ・伐った木の年輪を調べたり、香りをかいでみることは初めてだったので、森のことを知るきっかけになった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年11月3日	計	備考
事業量	バードコール制作、森林・林業の基礎知識についての講座、ネイチャーゲーム体験、間伐体験		
参加者数	親子3組、8名	8名(保護者を含む)	
実施場所	都留市楽山山林		

普及啓発事業 森林環境教育・木育支援事業（A-65）

1. 活動の概要

木の文化を継承し、森づくりに貢献する豊かな感性を高めるため、次代を担う子どもたちが、木に親しみ、森林への理解を深めるための活動の機会を提供する。

2. 活動の成果

様々な年代に応じ、木や森林に親しみ、理解する機会を提供することにより、木の良さ・木の文化への理解や、人々の生活・環境との関係に関心を深めるきっかけとなる意識の醸成が期待できる。

3. 参加者の声

- ・子供には難しいのでは、と思ったが、意外と子供でもできて新しい発見にもなり、貴重な体験ができた。
- ・初めて金槌に触った！楽しかった！
- ・こういう機会があるのはうれしい。
- ・たくさんのおもちゃで遊べる機会は普段ないので、とても楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年9月24日から令和5年11月26日まで	計	備考
事業量	木のおもちゃ・積み木体験、本立て・木箱づくり延べ6日間		
参加者数	130人以上	130人以上	
実施場所	山梨県立森林公園金川の森		

緑・森林の感謝祭等開催事業及び児童啓発事業（A-66）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑豊かな住み良い郷土づくりを進めるため、森林の重要性等について県民の一層の理解と関心を深めるべく、県内各地区の実情に応じた植・育樹祭、講演会・表彰式、苗木の頒布、学校での森林に関する図書購入等の普及啓発活動を実施した。

また、長野県独自に制定している「信州山の日」（7月の第4日曜日）にちなんだ記念事業として、森林教室（自然観察会）を一般参加者を募って開催し、森林インストラクターのガイドにより森林植物園にて植生観察を行ったほか、15年前の県植樹祭で植樹した樹木の育成状況を確認しながら育樹作業を行った。

青少年の森林環境教育としては、郷土の森林と川を題材とした当基金オリジナル絵本（第10作目）の制作に向け現地の取材・調査を行うとともに、既刊の第3作目の在庫がなくなったため、復刻版として再発刊し、題材となった地域の保育園、幼稚園、小学校に寄贈した。

2. 活動の成果

コロナが5類に移行し、森林整備や緑化推進等の活動は計画どおり実施できるようになり、コロナ禍前の状況に戻りつつある中で、再び健全な森林づくりの機運が高まるとともに、緑豊かな住み良い郷土づくりの推進が図れた。

また、当基金のオリジナル絵本を通して、次代を担う青少年育成に効果が期待できると考える。

3. 参加者の声

森林教室参加者へのアンケート結果では、「森林整備のほんの第一歩だが、いい経験ができた」「森林整備に少しでも役に立てたので大変満足」「森の恵みの豊かさをたくさん感じられた」「自然の中で気持ちよく散策できた」との感想をいただいた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年7月1日～令和6年6月30日	計
事業量	植・育樹祭等の開催	3地区（4町村）
	講演会等の開催	3地区（3市）
	環境緑化	1地区（2市町）
	環境教育	1地区（6市町村、47箇所）
	緑化木の頒布	2地区（12市町村2,747本）
	絵本制作の取材調査	1地区（5市町村）
参加者数		2,270人
実施場所	松本市、飯田市など延32市町村	

緑化推進キャンペーンと資材供給事業（A-67）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

樹木を増やすことや守り育てることの理解の深まりと将来の緑化を担うみどりの少年団活動を支援するため、緑化用の苗木の提供やみどりの少年団活動に必要な教材の提供を行い、緑化推進に繋がる活動を行った。

(1) 植木祭り

道の駅をはじめ、生活環境保全林などでのイベントで苗木を配布したほか、地域の植樹祭において、苗木を植栽した。

(2) みどりの少年団活動支援

みどりの少年団の活動を支援するため、活動手帳「スケジュールノートブック」を6,700部作成し、みどりの少年団へ配布した。

2. 活動の成果

(1) 植木祭り

苗木の配布や植栽を契機に緑を大切にす地域住民の意識が高まった。

イベントについては、通常の開催が出来るようになり、苗木の無料配布により、「緑の募金」への協力に繋がった。

(2) みどりの少年団活動支援

少年団活動に必要な冊子や資材を配布し、子どもたちに身近な緑や樹木に対する興味を喚起することができた。

今後もテーマに配慮して作成していきたい。

3. 参加者の声

(1) 植木祭り

夕森公園は、モミジの名所であるので、これからも植樹活動を続けていきたい。

子どもたちが植えた苗木がすくすく育ってほしい。

いただいた苗木を大事に育てたい。

(2) みどりの少年団活動支援

県内には、いろいろな種類の樹木があることがわかり身近にある樹木にも興味を持つようになった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年4月～6月	令和6年4月～6月	計	備考
事業量	植木祭り 苗木本数 1,235本	みどりの少年団用冊子 6,700部		
参加者数	1,336人	6,700人	8,036人	
実施場所	植木祭りは岐阜県大垣市、東白川村、御嵩町、中津川市（2箇所）、下呂市 みどりの少年団は県内全域			

恵みの森づくり事業（C-29）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

恵みの森づくり事業は、人々と森林や樹木とのふれあい機会を創出するとともに、森林や樹木の恵みを得られるよう、地域のシンボルとなる森林や樹木を整備することを目的としている。

山いさの会は、「せせらぎ街道」沿いの伐採跡地を放置することなく、街道を通行する観光客にも景観を楽しめるよう花や紅葉の美しい広葉樹の森を整備するため、地域の住民、小学生、企業の職員とも伐採跡地への植樹活動を通じて子どもたちとともに育む豊かな源流の森づくりに取り組んでいる。

2. 活動の成果

今回の活動では、地域住民、子どもたち及び地域の企業職員が協力し、実施することができた。

今後も観光の主要道路でもある「せせらぎ街道」沿いの森林を整備し、景観を維持していくともに子どもたちの未来につなぐ源流の森林づくりに取り組んでいきたい。

3. 参加者の声

- ・長良川の清流を森林が守り育てていることが実感できた。
- ・植えた木の成長を見ることができ、樹木に対して愛着がわいてきた。
- ・地域の人達と力を合わせて植樹したので、連帯感や達成感が得られた。
- ・街道沿いの景観整備が出来て通行の際に見るのが楽しい。

実績報告とりまとめ表

恵みの森づくり 実施時期	山いさの会 令和6年4月1日～5月21日	計	備考
事業量	里山の広葉樹植栽 155本 面積：0.5ha	広葉樹苗木 155本	
参加者数	20人	20人	
実施場所	岐阜県郡上市八幡町初納地内		

森づくり県民大作戦支援事業（A-68）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林・緑・水に対する理解促進と森林を社会全体で支える県民意識の醸成を図るため、①森づくりグループ、②県との連携により森づくり活動への参加の拡大を推進した。

① 森づくりグループとの連携による参加拡大

「森づくり県民大作戦」の参加者を拡大するため、参加を呼び掛けるチラシを秋と春の2回作成し、森づくりグループなどに送付するとともに、県自然ふれあい施設など56箇所へ配架した。

② 県との連携による参加拡大

県と連携し、県内各地で、森林・林業体験、木工作など森林・里山の大切さを知る「森づくり県民大作戦」を県民の参加を公募して8回開催した。

2. 活動の成果

① 森づくりグループとの連携による参加拡大

森づくりグループとの連携による「森づくり県民大作戦」は、県内各地で537行事が開催され、9,269人の県民が参加した。

② 県との連携による参加拡大

県と連携した「森づくり県民大作」には、公募等とおして306人が参加し、参加した県民は森林に触れ、楽しみながら、森林の大切さを学べた。

今後も、静岡県とともに、県民参加の森づくり活動を推進する。

3. 参加者の声

- ・参加者からは、「森の手入れをする大変さがわかった」「貴重な体験ができた」「親子で自然に触れる体験ができてよかった」「とても楽しかった、またやってほしい」などの感想を聞くことができた。
- ・スタッフからは、「森林整備の必要性や木材のぬくもりを理解していただけて良かった」「子供から大人まで楽しめるプログラムを提供できてよかった」などの感想を聞くことができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月1日～6月30日				県主催	計
	4/1～6/30	9/15～12/25	その他	小計		
事業量	188行事	225行事	124行事	537行事	8行事	545行事
参加者数	3,352人	3,763人	2,154人	9,269人	306人	9,575人
実施場所	静岡県内 各地					

森林ESD推進事業（C-30）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

① 緑の少年団交流集会

次代を担う緑の少年団と団員の育成と交流を図るため、夏、秋、冬の3回実施し、森林や緑の大切さを学んだ。

第1回：富士山二ツ塚トレッキング

第2回：木登りしよう～ツリークライミング体験

第3回：森からのおくりもの「木箱づくりと宝物さがし」

② 森林ESD出前授業

協力の得られた市町の小学校を対象に、改訂された小学校学習要領に対応した森林ESD出前授業を実施した。

推進チームによるプログラムのブラッシュアップと、インタープリターの養成、教材開発等を行った。

2. 活動の成果

① 緑の少年団交流集会

・開催場所を変えることにより東西に長い静岡県の森林を体感するプログラムを実施することができた。

・企画運営団体の特色を生かしたプログラムによる交流集会を継続して実施する。

② 森林ESD出前授業

・12校で、483人が森林ESD出前授業を受けた。

・市町の理解を促すとともに、出前授業を実施できる人材を育成する。

3. 参加者の声

① 緑の少年団交流集会（指導員）

・森の中には、日常生活と繋がりがあるものが次々発見できた。

・「ツリークライミング」は新鮮で、いっそう森林に興味を持てた。

② 森林ESD出前授業

・森林や林業は、遠い存在だったが、身近に感じる事ができた。

・子どもたちから「つぶやき」が出て、自ら学ぼうとしていた。

・「人工林・天然林」等、今後の授業に役立つ内容であった。

・楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8.22	12.1	1.27	9月～1月	年間
事業量	交流集会 (第1回)	交流集会 (第2回)	交流集会 (第3回)	森林ESD出前 授業の実施	推進チーム運営 人材養成 教材開発
参加者数	33人	35人	20人	483人	-
実施場所	御殿場市	浜松市	静岡市	富士宮市ほか	-

普及啓発 みどりのに親しむ集い事業 (A-69)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地域の住民各層が自然とふれあい、みどりに親しむと同時に、森林整備作業や間伐材の木工工作などを体験することを通し、森林や緑の大切さを理解し、緑化意識の高揚を図った。

2. 活動の成果

森林整備を進めていくと、荒れた森林に光と風が入り多様な生物が住みやすい環境に移り変わっていく様子が体感できた。「森で体験しよう」などの体験イベントには517人の参加があり、森林整備・緑化推進の意識が高まった。

また、木工教室には2,600人が参加があり、子どもから大人までが工作を通し木とのふれあい体験を行った。コロナ禍の中、山村交流が出来なかったが復活することができた。

3. 参加者の声

お父さんと楽しく工作ができた。

今年もきました。

山の整備、疲れたがいい体験になった。

お母さんにクリスマスリースをプレゼント。

山での作業の汗、気持ちいい！

毎年、お絵かきに参加している。

実績報告とりまとめ表

・山村交流

実施時期	令和5年7月1日～令和5年10月21日
事業量	・木の体験（積み木） ・三河材のPR ・割りばしづくり
参加者数	500人
実施場所	桜淵公園

・作業体験

実施時期	令和5年7月1日～令和6年2月27日
事業量	・遊歩道整備体験 ・遊び場作り体験 ・木つかい体験 ・森林作り体験 ・みろくの森除伐体験
参加者数	517人
実施場所	瀬戸市上半田川町「遊々の森」、春日井市西尾町（県有林）他

・木工教室

実施時期	令和5年7月1日～令和5年11月12日
事業量	・間伐材でイス作り ・ミニベンチ ・シイタケの菌打ち ・クリスマスリースなど創作 プリンターカバー、 黒板
参加者数	2,600人
実施場所	犬山市民文化会館、豊橋公園、豊富小学校運動場

みどりフェスティバル23秋・24春 事業（A-70）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

自然や緑とふれあい親しむ機会を通じ、森林・木材の大切さを理解していただくため「みどりフェスティバル23秋・24春」を開催した。

身近な自然を感じる缶バッジの作成や、最も身近である家庭での緑化を推進するため、果樹・アジサイの苗木等を秋・春で1,000本配布した。

今回は、晴天に恵まれ多く来場者があった。24春は、気温が上昇する中での開催となり、熱中症対策に留意しながら実施した。また本館講堂では、令和5年度の緑化ポスター原画コンクールの入賞作品の展示も行った。

2. 活動の成果

みどりフェスティバル23秋・24春のイベントに参加された多くの方が、自然や緑と親しむ機会を得て、各々が緑化の大切さを理解する契機となり、地域緑化の推進にも大いに貢献できた。

来場者には家族連れが多く、子供たちが緑とのふれあいを楽しむ声が多く聞かれた。また、春・秋を通じて来場していただいている方からは、フェスティバルの継続を望む声も聞かれた。

今後も、多くの方に自然や緑と親しんでいただけるイベントとして取り組んでいきたい。

3. 参加者の声

緑の募金に協力できてよかった。

緑の募金が大切な緑を守ることに使われていることがよく分かった。

花の写真で作った缶バッジがとても気に入りました。

緑の中で子供と一緒に楽しい時間を過ごすことができました。

緑の募金いただいた苗木を家で大切に育てたいと思います。

毎回このイベントを楽しみにしています。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2023年11月19日・20日 2024年5月3日～5日	計	備考
事業量	みどりフェスティバル 23秋 催し物数 22 24春 催し物数 23		
参加者数	23秋 37,000人 24春 122,500人	159,500人	
実施場所	愛知県豊田市西中山町（愛知県緑化センター）		

苗木の育成と配布事業（愛知県植樹祭）（A-71）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑化に対する意識の高揚を図り、みどり豊かで快適な環境づくりを推進するため昭和23年から愛知県植樹祭を毎年開催している。植樹祭では参加記念として緑化木を配布（ブルーベリー）している。

開催市内の小学校にムクゲの挿し木を行い、学校で育てる苗木のスクールステイを実施し、成果を植樹祭で披露した。

2. 活動の成果

小学生の児童が挿し木を体験することにより、緑の大切さを感じ、知ることができた。また、緑が将来に繋がる活動にもなった。児童にとって挿し木は経験もなく興味を持って取り組んでいた。挿し木苗が大きく成長する話では、みな驚いていた。植樹祭で多くの方が苗木（ブルーベリー）を持ち帰ることにより、身近（家庭）な緑化の推進に繋げることができた。

3. 参加者の声

初めて挿し木をした。

挿し木をしたムクゲが咲くのがたのしみです。

私が挿し木をした。育つことに感動します。

植樹祭に参加ができた。緑の大切さを感じた。

参加体験型を考えてほしい。

子どもから大人まで、多くの方が表彰をうけている。緑の繋がりを感ずることができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年9月～12月	令和5年11月 令和6年5月	令和6年5月18日	計
事業量	挿し木（3小学校）	育成（9小学校）	愛知県植樹祭 （尾張旭市）	
参加者数	68人	185人	500人	753人
実施場所	挿し木（尾張旭市3小学校）・育成（尾張旭市9小学校）・愛知県植樹祭（尾張旭市）			

調査研究 ふるさと樹木診断事業（B-2）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

古くから地域の人達に愛され親しまれてきた巨樹・名木等（ふるさと樹木）を県民の財産として守り育て後世に引き継ぐために、その樹勢等を診断し、保護・保存のための基礎データを収集した。

樹勢診断は、市町村条例等で指定されている樹木、又は地域のシンボリックな樹木のうちから市町村の要望に基づいて42本の診断樹木を選定し、一般社団法人愛知県樹木診断協会に委託し実施した。

診断終了後、報告書を関係市町村、所有者に戻し、今後の樹木の手当に役立てている。

2. 活動の成果

ふるさと樹木を保護・保存する基礎データを収集することにより、後世まで、大切な「ふるさと樹木」を引き継ぐ方法を検討するのが容易になる。また、診断結果から手当に結びつくこともあり、貴重な事業として評価を受けている。

緑化意識の高揚、地域緑化の推進に大いにつながっている。また、地域からの要望も非常に高く、今後も続けて実施する予定でいる。

平成6年からのデータの蓄積（1,516本）もあり、保護・保全に役立っている。

過去のデータをまとめ、情報の共有を計画している。

3. 参加者の声

- ・名木（シンボル）が保存され、地域住民の緑化の高揚にも繋がった。
- ・手当をした際このデータが役に立った。（過去の診断木）
- ・名木を一覧にして本にならないか。
- ・地域のシンボルをいつまでも守っていききたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期 (委託)	委託期間 令和5年8月25日～令和6年2月20日
	委託完了 令和6年2月20日
事業量	樹木診断本数 42本
実施場所	愛知県内 18市町

活動基盤整備 森林ボランティア養成事業（C-31）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

市民の森林・林業に対する理解の促進を図るため、森林の公益的機能等に関する講義や、間伐手法等の習得に繋がる実習等を実施する。

2. 活動の成果

【多様な間伐手法を学ぼう！】

間伐ボランティア及び山林所有者が、目標林型の考え方、多様な間伐理論を学んだことで、森林施策への理解醸成及び主体的な森づくりへの進展へ繋がったことは、大きな成果となった。

【間伐ボランティア初級講座】

受講者によるボランティア団体が設立され、構成員の所有山林にて間伐活動を開始する予定である。このことは、山主の主体的な森づくりへのきっかけ作りに留まらず、団体による継続的な森林整備活動へ繋がっている。

3. 参加者の声

- ・具体例を入れ、説明が分かりやすかった。
- ・理解が追いつかない。
- ・昨年も参加したが、毎回新たな発見、学びができた。
- ・現場と座学が繋がり、理解につながった。
- ・材を搬出し収穫することを前提での話では、現実と合っていない。
- ・森林整備に興味があり、ボランティアをやりたいと考えている。
- ・参加するにつれて、森林についてもっと知りたくなった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年7月～令和6年3月		計	備考
事業量	豊田市		85人	
	多様な間伐理論を学ぼう！	間伐ボランティア初級講座		
参加者数	3回	3回		
	31人	54人		
実施場所	豊田市有林、所有山林			

みどりの少年隊活動推進 (A-72)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内のみどりの少年隊の活動の活性化を図るため、県内の5隊にそれぞれ4万円の活動助成を行い、体験活動の施設利用や必要な装備品や資材の購入などを支援した。

また、みどりの少年隊交流集会については、令和6年2月18日(日)に津市白山町にある三重県林業研究所で開催した。隊員たちは活動発表、施設見学、木のロボット作り体験を元気に行った。

2. 活動の成果

令和5年度は県内6隊のうち1隊が活動休止となったが、残りの5隊に対し施設利用や装備品や活動資材を支援することで、各隊の活動の支援を行うことができた。

また、昨年度半日開催だった交流集会を1日の日程で開催した。隊員たちは、午前中に活動発表を行ったあと、会場となった三重県林業研究所の職員から研究所の話の伺い、その後研究所施設の見学を行った。午後は「森のせんせい」の指導の下、元気に木のロボット作りを体験した。

森林や林業への関心や理解を高めるため、引き続き、みどりの少年隊の活性化に向けて引き続き取り組んでいきたい。

3. 参加者の声

- ・ロボットの紐を通すのが難しかった。
- ・このカスタネットでみんなで合奏したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～2月	2月18日	3月	計
事業量	活動支援5隊	交流集会	体験キット配布5隊	
参加者数	77人	17人	80人	174人
実施場所	三重県内一円 三重県林業研究所(津市白山町)			

森林教室開催 (A-73)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

第1回「私の小さな椅子づくり体験」(令和5年10月28日)

松阪市農業公園ベルファームで開催された「第13回くるくる環境フェスタ」で、木工工作体験教室を実施した。

第2回「竹あかり制作体験」(令和5年11月18日)

伊賀市の青山ハーモニーフォレストで開催された「県民参加の植樹祭」の参加者などを対象に、団体が竹林整備で伐採した竹を材料に、竹あかり制作体験教室を実施した。

第3回「シイタケ菌打ち体験」(令和6年1月21日)

松阪市森林公園で、原木シイタケの試食とシイタケ原木の菌打ち体験教室を実施した。

2. 活動の成果

森林教室では、森林教育指導者「森のせんせい」に体験指導だけでなく、森や木、きのこの話など森への理解や関心を深めるような話をさせていただいており、森林や樹木に対する理解や関心を深めることができた。

3. 参加者の声

- ・作った椅子を家で大切に使いたい。
- ・シイタケができるのが楽しみだ。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月28日	11月18日	1月21日	計
事業量	活動支援5隊	竹あかり制作体験教室	シイタケ原木菌打ち体験教室	
参加者数	親子20組45名	親子など14組23名	親子25組60名	59組128名
実施場所	松阪市森林公園ベルファーム(松阪市)	青山ハーモニーフォレスト(伊賀市)	松阪市森林公園(松阪市)	

森林ボランティア活動促進（A-74）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- (1) 概ね20名以上の県民が参加する森林教育等のイベントを実施する森林ボランティア団体に対する10万円を限度とする助成
- ①手づくり木工房「春と木の風」は、県内各地においてを対象に、森林学習及び間伐材を使った木工工作体験を行った。(延べ12回開催、161名参加)
 - ②竹林整備隊は、小学生等を対象に丸太切り体験や竹ポックリ制作体験教室を実施した。あわせて来場者に対して県産材の利用に関するアンケート調査を実施した。(85名参加)
 - ③特定非営利活動法人こどもサポート鈴鹿は、鈴鹿市内加佐登神社周辺において、親子による森の清掃活動や植樹活動並びに自然観察会を実施した。(2回開催、75名参加)
 - ④輝く瞳Waraひろばは、ショッピングセンター催事場において、小学生等を対象に県産のヒノキを使ったフライングボールづくりを実施した。(4回開催、30名参加)
 - ⑤特定非営利活動法人大杉谷自然学校は、大台町奥伊勢フォレストピア周辺の森林において予め公募した小学生等を対象に、ツリークライミング(木登り体験)を実施した。(3回開催、24名参加)

(2) 森林ボランティア団体研修交流会の開催

令和6年2月6日、津市白山町にある三重県林業研究所において、森林ボランティア団体等8団体、18名の参加を得て開催した。創意工夫を凝らし意欲的な活動を行っている3団体が日頃の活動成果を発表した後、林業研究所研究員を講師に招き、ドローンの操作方法や森林での活用について研修(講演並びに実演)を実施した。

2. 活動の成果

森林ボランティア団体等の活動に支援することで、県内各地で一般参加を得て森林関係イベントが開催され、森林活動の大切さ、森と触れ合うことの楽しさ等の普及啓発を図ることができた。

3. 参加者の声

各団体が実施するイベントの参加者からは好評をいただいているとのことで、活動基盤の弱い団体にとっては、当助成によって活動が広がり子どもたちに森林教育の機会を提供することができるため、事業継続を求める声が寄せられている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	活動支援5隊	2月6日	計	備考
事業量	助成団体5団体	研修交流会		
参加者数	375人	18人	393人	
実施場所	三重県内一円(活動助成) 三重県林業研究所(津市白山町)			

県民参加の森林づくり運動推進(巨樹・古木見学会、クマノザクラ観察会)(A-75)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

一般県民に森や木とのふれあいを通して森林や樹木への理解を深めてもらう目的で、令和5年12月17日(日)に、鈴鹿、亀山、津地域の巨樹・古木をバスで巡る見学会を実施した。

また、令和6年3月17日(日)には、新種の野生サクラとしては約百年ぶりに発見されたクマノザクラの観察会を熊野市紀和町で実施した。

いずれも、日本樹木医会三重県支部に案内を依頼して実施した。

2. 活動の成果

地域にある巨樹・古木や地域固有の樹木を知ってもらうことを通して、森林の良さや樹木保護の大切さを認識してもらうことができた。

いずれも募集人数を大きく上回る多数の応募があり、また参加者からも好評をいただき、引き続き実施していきたい。

3. 参加者の声

- ・有意義な一日をありがとうございました。頂いた資料で県内の多くの巨樹・古木を知ることができ感謝しています。
- ・ソメイヨシノと違ってクマノザクラをはじめて見ることができて感激した。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月5日	3月19日	計	備考
事業量	巨樹・古木見学会 1回	クマノザクラ観察会 1回		
参加者数	28人	30人	58人	
実施場所	鈴鹿、亀山、津地域 熊野市紀和町内			

海・山連携植樹活動実施（A-76）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

山村地域と漁村地域の相互理解を深め、森林づくりについて自発的な協力関係が築くことを目的に三重県漁業協同組合連合会に対して漁業者が行う植樹活動の助成を行った。

植樹活動は令和6年3月16日（土）に地元の森林組合の協力のもと実施され、漁業関係者など74人が参加し伊勢湾に注ぐ雲出川上流にイロハモミジ22本、ヤマザクラ22本を植樹した。

2. 活動の成果

海・山連携で漁業関係者による植樹活動が森林組合の協力を得て実施された。漁業関係者からは引き続き植樹を実施してきたとの声をいただいております。森林が川や海にもさまざまな恩恵をもたらしていることの理解が深まっていることが感じられる。

3. 参加者の声

- ・様々な団体が参加することで、漁業者以外との交流が増えた。
- ・マスコミに取り上げられるなど活動を広く周知することができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	3月16日	計	備考
事業量	植樹活動		
参加者数	74人	74人	
実施場所	津市美杉町八手保（君ヶ野ダム湖周辺）		

苗木配布、緑化相談（A-76-1）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

一般県民に家庭で樹木を育て親しむことを通して、森林や樹木への理解を深めてもらう目的で、令和5年11月25日（土）に津市のメッセウイング・みえで開催された「みえ花フェスタ2023」において、苗木の無償配布と、樹木医による緑化相談を実施した。

2. 活動の成果

配布した苗木を家庭で育てることを通して、樹木への親しみや、森や緑への理解を深めることが期待できる。

緑化相談により樹木の生育や緑化の疑問に答えることで、家庭での緑化活動の推進や樹木への理解を深めることができた。

3. 参加者の声

- ・大切に育てます。
- ・丁寧に説明してくれたのでよくわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月25日	11月25日	計	備考
事業量	苗木配布	緑化相談		
参加者数	120人	23人	143人	
実施場所	メッセウイング・みえ（津市）			

活動基盤整備・緑の少年団育成強化事業（C-32）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内の緑の少年団51団、5,636人の日常の活動を支援するとともに指導者研修会や交流会等を実施し、緑の学習や実践的な活動等の促進を図ることが出来た。

2. 活動の成果

緑の少年団への育成強化活動の支援により、緑を愛する心豊かな人間に育っていくことが期待出来る活動を実施することが出来た。

具体的には、「緑の少年団地区交流会」（県内5地区）、「緑の少年団活動交流会」の開催により、団員間の交流や団結・協力が図られ、互いに緑化意識を高めることが出来た。

また、平成26年度に創設した「緑の少年団サポーター制度」に基づき、滋賀森林インストラクター会の協力のもと、指導者研修会を県内8か所で開催し、またそのフォローアップとして個別指導を7団で実施した。これらによって、各団指導者の緑化に対する意識の高揚と資質の向上を図ることができた。

今後は、さらに当制度の充実を図り、より一層指導者の育成と少年団活動を推進していきたい。

3. 参加者の声

支援活動を通じて、森づくり・緑づくりの重要性を十分に理解することができ、それらを支える緑の募金の啓発活動をより一層積極的に進めていく必要があることを実感する声が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	通年	7月～9月	8月～2月	2月25日	計	備考
事業量	個々の緑の少年団の一年間の様々な活動に対して支援	指導者研修会 8回	緑の少年団地区交流会 5地区	緑の少年団活動交流会		
参加者数	5,636人	70人	134人	76人	5,916人	
実施場所	県下一円	河辺いきものの森 (東近江市) 他7箇所	森の未来館 (栗東市) 他4箇所	休暇村 近江八幡 (近江八幡市)		

京都モデルフォレスト運動連携強化事業（A-77）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

モデルフォレスト運動における多くの「人とのつながり」「地域、企業、団体間をつながり」をさらに強め、活かし、広げることによる運動のさらなる発展を目指して、各種の活動を行った。一般府民を対象とした「府民公開講座」「日帰りツアー」のほか、次世代を担う子ども向け企画として緑の少年団、保育園・幼稚園を対象とした事業を実施した。また、国際モデルフォレストネットワーク加盟団体としてのネットワークを活かし、情報発信を行った。

2. 活動の成果

一般府民向け、次世代向け行事では、多様な参加者層を対象とし、京都の森林に親しみ、学びを深めてもらう場所を提供し、継続しての参加など運動への理解を広げることができた。また、フィールドでの行事開催以外にも、自宅や保育園等で森林や自然への親しみを持っていただくための事業を展開し、その後の行事参加に繋げるなどの効果を得た。

3. 参加者の声

- ・中川八幡宮にある北山杉の母樹の存在感に圧倒され、その長い歴史に感動を覚えた。北山林業の長い歴史に改めて想いを巡らせ、時間をかけて丁寧に生産された北山杉について触れ、もっと学びたい、魅力を知る人を増やしたいと強く感じる一日となった。（府民公開講座—北山杉を知る）
- ・林業の現場見学では、最新の重機による木を倒すスピード、枝を打つ速さ、カットする正確さ、次の動作へ移る重機との連携など、ほんとうに作業が進化していることに衝撃を受けた。林業経営は新たなフェーズに入り、環境保全や森林との好循環を果たすSDGs経営の視点を持つ新たな人材の育成が今後の課題と感じた。（府民公開講座—ふるさとの森と木づかい）
- ・カスタネット用の丸太のスライスを見て、この木は17歳か！と年輪を数えて楽しそうでした（未就学児向け—森のえほんクラブ）
- ・おもちゃを開けた瞬間に木のいい香りが漂いました。児童たちも「いい匂い～」と言いながら嗅いでいました。物語が書かれた絵本だけでなく、写真絵本など多様な種類の絵本をいただけたので、小学部の児童だけでなく、中学部の生徒も本を楽しむ姿が見られました。（園向け環境教育支援事業—絵本と木のおもちゃの提供）

実績報告とりまとめ表

事業量	府民公開講座・日帰りツアー				次世代向け環境教育事業				
	北山杉を知る	片波川源流の伏条台杉群	芦生研究林の自然	京丹波で巡る-ふるさとの森と木づかい	夏休み森の教室2023	木工教室 五感体験	森のえほんクラブ2024 春	緑の少年団向け「京都の木を使った木工キット」提供	園向け環境教育支援
実施時期	R5.10.13	R5.10.27	R6.5.17	R6.6.14	R5 7～8月	R5.11 25、26	R6 4～5月	R6 4～5月	R6 5～6月
参加者数 (人)	22	9	8	29	50	280	30	175	320
実施場所	京都市 北区	京都市 右京区	南丹市	京丹波町	自宅	京都市 南区	自宅	各団	府内各園

自然環境保全団体ネットワーク事業（A-78）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

多くの府民が森林・みどり・水、あるいは、そこに培われる多様な生き物を身近に感じ、森林と生物多様性の重要性について理解を深めるため、情報発信を行うとともにイベントを開催した。

①情報発信・普及啓発

- ・事業報告発行部数：約1,700部
- ・メールマガジン 配信回数：9回（2023年7月～2024年3月・月1回） 配信数：約500件/月
- ・SNS（Facebook・Instagram）記事掲載回数：56回 平均リーチ180（過去3か月平均）
- ・リーフレット 配布数：約1000部

②イベントの開催

- ・7/23 地黄湿地観察会：参加者23名
- ・9/24 タガメの田づくり：参加者27名
- ・10/19 地黄湿地観察会：参加者23名
- ・11/23 三草山山麓ウォーキング：参加者18名
- ・12/3 タガメの田づくり：参加者35名
- ・2/23 北摂エリアの湿地保全活動団体情報交換会：参加者57名
- ・3/24 三草山ゼフィルス森の将来を語る会：参加者19名

③自然環境保全地域支援

府内5か所の社寺林において自然環境保全活動に対して助成。

2. 活動の成果

大阪府内での貴重な自然環境、それを保全管理する必要性について、理解者が増えた。

3. 参加者の声

- ・貴重な体験ができて、良かった。
- ・いろいろな動植物を見ることができ、説明も詳しく面白かった。
- ・湿地にある植物やキノコ、生物を観察できてよかった。
- ・秋の花が見れてよかった。トンボやアオバトとの出会いも楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	通年	計	備考
事業量	ホームページ		
ホームページ閲覧数	9,748回	9,748回	
実施場所	大阪府内		

府民参加の森林づくり事業（A-79）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

多くの府民が森林・みどり・水、あるいは、そこに培われる多様な生き物を身近に感じ、森林と生物多様性の重要性について理解を深めるため、情報発信を行うとともにイベントを開催した。

①情報発信・普及啓発

- ・事業報告発行部数：約1,700部
- ・メールマガジン 配信回数：9回（2023年7月～2024年3月・月1回） 配信数：約500件/月
- ・SNS（Facebook・Instagram）記事掲載回数：56回 平均リーチ180（過去3か月平均）
- ・リーフレット 配布数：約1000部

②イベントの開催

- ・7/23 地黄湿地観察会：参加者23名
- ・9/24 タガメの田づくり：参加者27名
- ・10/19 地黄湿地観察会：参加者23名
- ・11/23 三草山山麓ウォーキング：参加者18名
- ・12/3 タガメの田づくり：参加者35名
- ・2/23 北摂エリアの湿地保全活動団体情報交換会：参加者57名
- ・3/24 三草山ゼフィルス森の将来を語る会：参加者19名

③自然環境保全地域支援

府内5か所の社寺林において自然環境保全活動に対して助成。

2. 活動の成果

大阪府内での貴重な自然環境、それを保全管理する必要性について、理解者が増えた。

3. 参加者の声

- ・貴重な体験ができて、良かった。
- ・いろいろな動植物を見ることができ、説明も詳しく面白かった。
- ・湿地にある植物やキノコ、生物を観察できてよかった。
- ・秋の花が見れてよかった。トンボやアオバトとの出会いも楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	通年	通年	計	備考
事業量	イベント実施	情報発信		
参加者数	のべ202人	のべ約17,000人	のべ約17,200人	
実施場所	大阪府内			

地域緑化イベント開催事業（A-80）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

ゆめさきの森まつりの開催

実施主体：ゆめさきの森運営協議会

日時・場所：令和5年10月29日（日）、ゆめさきの森公園

参加人員：1,751人

内 容

親子を対象にした木の実・木の枝クラフト作りや丸太切り・薪割り体験、森のウォークラリー、森の音楽会等を開催し、森の働きや恵みが体験できる催しを実施した。

2. 活動の成果

- (1) 森のウォークラリーや薪割りや丸太切り、糸のこを使っての木工クラフト体験等を通じて里山の保全と創造の重要性を学ぶことができた。
- (2) 木材を使うことが森林整備の促進につながり、森林の多面的機能の發揮に必要であるとの理解を深める一助となった。
- (3) これらにより、県民総参加の森づくりの一層の促進を図ることにつながった。

3. 参加者の声

- ・丸太切りをして疲れたが、楽しかった。
- ・自然の中で演奏を聞きながら食事ができるのがうれしい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月29日	計	備考
事業量	ゆめさきの森まつり		
参加者数	1,751人	1,751人	
実施場所	兵庫県姫路市		

地域緑化イベント開催事業（A-81）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

第38回ひょうご木材フェアの開催

実施主体：兵庫県木材利用推進協議会

日時・場所：令和5年9月17日（日）、神戸市中央区ハーバーランド内（煉瓦倉庫通）

参加人員：約20,000人

内 容

- ア 木材利用によって森林整備が進み、森林の多面的機能が高度に發揮されることに関する展示
- イ 木製遊具や木製玩具等の展示・販売
- ウ 兵庫県木材青年クラブ会員による親子工作体験の開催
- エ 土石流模型実験装置による治山ダムの意義の説明等
- オ 特に参加者には、木製玩具等の展示・販売、親子工作体験が好評であった

2. 活動の成果

多数の県民に対して、令和3年に改正された「都市の木材化推進法」（通称）の法律改正の趣旨、目的、主な改正点などを周知することができた。

また、木製品、パネル展示、各種パンフの配布、木工作ワークショップ等を通じ木材利用促進につながる情報発信を行うことができた。

3. 参加者の声

- ・木製のサウナやテントを初めて見て、木の利用方法がこんなところにもあるのかと関心した。
- ・いろいろな木製のおもちゃがあるのを見てほしくなった。
- ・土石流の実験装置は視覚的に土石流の怖さがわかるので良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月17日	計	備考
事業量	第38回ひょうご木材フェア		
参加者数	約20,000人	約20,000人	
実施場所	兵庫県神戸市		

森林整備・緑化活動支援事業（C-33）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- (1) 指導者研修会の開催
日頃少年団を指導している者を一堂に会し、指導者の心得を学ぶ機会を提供するとともに、お互いの情報交換を行うことを目的として指導者研修会を開催した。
- (2) 緑の少年団のつどいの開催
県内の緑の少年団が一堂に会し、活動を通じて交流を深め、連携の強化と活動の活性化を踏むことを目的として緑の少年団のつどいを開催した。
- (3) 出前講座の実施
森林活動をサポートするため、少年団に森林インストラクターを派遣し、講義（森林の大切さ）、ネイチャーゲーム等を実施した。
- (4) 緑の少年団地域活動の支援（各少年団活動の支援）
兵庫県内の地区連絡協議会に地区活動費及び少年団活動費を助成した。

2. 活動の成果

- (1) 本県では、少年団の約9割が学校団であり、指導者である教員が学習指導要領の改訂や働き方改革の影響により、少年団活動への対応が難しい。そこで、教員に代わって地域のボランティア団体等が新たな指導者となることが期待されていることから、指導者研修会の開催により、少年団の指導に関心を持つ森林ボランティア団体等が増え、今後に繋がりがつつある。
- (2) 緑の少年団のつどいを全県イベント「ひょうご里山フェスタ2023」で実施することで、少年団の活動を広く県民へ知らせることができたほか、会場の大手前公園周辺で植生観察会やその他森と緑に関するブースを体験してもらい、森や緑に関する理解や関心を深めることができた。
- (3) 出前講座は、少年団と指導者である森林インストラクターとの繋がりができ、来年度以降の活動に繋げる役割を果たせた。
- (4) 各地区協議会・各少年団への活動助成を行い、遠方等で連盟等の開催するイベントに参加できない少年団も森や緑への理解を深めることに繋がった。

3. 参加者の声

- (1) 兵庫県連盟が行う環境体験事業の事例を聞いて、今後の参考としたい。
- (2) 森林ボランティア団体等が緑の少年団にアプローチする方法がわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月22日	11月3日	12月25日	7月～3月	計	備考
事業量	緑の少年団のつどい	出前講座	指導者研修会	各地区での活動		
参加者数	7人	23人	25人	12,709人	12,764人	
実施場所	姫路市	三田市	神戸市	県内各地		

森の文化活動事業（A-82）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・「大和路花と緑のフェスティバル」「奈良技能フェスティバル」出展に出店し、来場者へPR活動をした。出店している他団体へ参加される方が多く、立ち寄ってパンフレットや球根を手にとっていただいた。木工クラフトは評判が良く、大人も子供も「また参加したい」と好評だった。
- ・「緑化啓発PR展」
令和5年緑化啓発の一環として、緑化作品コンクール入賞作品の展示やパネル展示、花苗や球根の配布などを行った。
- ・その他、年間を通じて広報や啓発活動に努めた。

2. 活動の成果

イベントを通して様々な地域や年齢層の県民に、緑化普及啓発を行うことができた。
しばらく中止になっていたイベントが復活し、これまで以上の来場者数があるものも多く、人や自然と触れ合う機会を多く持つとうとする傾向があるように思われる。開放的な雰囲気求めて、家庭で草花を育てることから始めるなど、緑環境への興味も大いに回復していると思われる。もっとたくさんの方々に興味を持ってもらえるよう、広報活動に力を入れていきたい。

3. 参加者の声

- ・野外でのびのびしている子供たちを見られて嬉しいです。
- ・きれいな花をいただけて嬉しい。コロナ禍を経て、ちょっとした緑環境の変化が嬉しく感じる。家の中も外も花を飾りたいです。
- ・災害が多く発生する昨今、森林の整備の大切さを考えさせられています。素人にでもできることはあるでしょうか。そういった事を勉強する機会があればいいと思います。
- ・木工クラフトがとても楽しい。自分で自由に色を塗ったり飾ったりする機会があまりないので、是非毎年開催してほしいです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月日	月日	計	備考
事業量	10月14日	10月15日	2日	
	11月26日		1日	
	12月11日	12月16日	6日	
	12月16日		1日	
	4月16日	4月21日	6日	
	4月24日	5月2日	9日	
参加者数	750人			
実施場所	奈良県奈良市、橿原市、宇陀市			

ボランティア緑化活動事業（C-34）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内各地で活動する森林ボランティアの連携と活動の充実を目的とし、技術向上と事故防止への意識向上を図った。各団体への助成事業等の情報提供など、ボランティア活動の推進につながるものを紹介し、助成事業や物品提供の案内を行った。また、事業の紹介やイベントへの案内、対応など事務的な支援を行った。会報発行の補助をし、運営協力に努めた。

2. 活動の成果

各地で活動するボランティア団体が互いに連携して地域内での情報交換を行い、今後の活動につながる信頼関係を構築した。新型コロナウイルス感染症で規模を縮小した活動を行っていた結果、さらに活動を自粛や縮小した団体が多くあり、一度縮小した活動を正常に戻すのに苦労している団体が多い。

活動が自粛される中、会報等を作成し配付することでボランティアを意識し活動を維持した。会報等では安全を喚起するとともに技術の更なる向上に向け情報発信した。今後も情報発信や事務運用の効率化を図っていききたい。

3. 参加者の声

- ・いろいろな助成事業や苗木提供の情報等いただいて、活動に役立てています。コロナ禍を経て一旦活動が縮小したが、徐々に会員や活動範囲も以前のように回復しつつある。今後の参加者数回復に向けてどう取り組んでいくかが課題です。
- ・活動が年々縮小していく中、他団体の情報や連絡をもらえてありがたかった。今後の参考にさせていただく。

実績報告とりまとめ表

実施時期	通年	計	備考
事業量	イベント・ホームページ		
参加者数	300人	300人	
実施場所	奈良県奈良市、大和郡山市		

普及啓発事業（A-83）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林や緑の公益的機能の重要性や、再生可能な循環資源である木材の需要拡大が地球温暖化防止等に果たす役割等については、継続して広く県民に普及啓発して行くことが重要であり、本会としては特に青少年に対する普及啓発活動を重点的に実施するとともに、県民総参加の森林整備活動、緑化運動を促進した。

今年度はみどりの少年団交流集会を実施するとともに、県内各地の少年団が「緑を愛し、緑を守り・育てる心を養う」ことを目的に行う学校及び周辺の緑化や自然学習活動に対し支援を行った。

2. 活動の成果

- ・みどりの少年団団員に森林・林業に関する普及啓発活動、緑化及び環境貢献活動の重要性を学んでもらうことができた。

3. 参加者の声

- ・みどりの少年団交流集会に参加の子供達からは、「森と海のSDGsの話聞いて勉強になった」、「紀州備長炭の風鈴や木のフォトフレームづくりをして楽しかった」、「名刺交換して新しい友達できて良かった」等の声があった。また、参加団体の引率者からは、子どもたちにとって普段体験できない貴重な経験が出来て、是非継続して実施して欲しいなどの意見があり好評だった。
- ・学校周辺や地域の保全活動に参加し、自然環境を守ることの大切さがわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年7月1日～ 令和6年5月31日	備考
事業量	<主な取組> ・森林や林業に関する研修会の開催 ・校内の緑化活動	
参加者数	36団	
実施場所	・日高郡由良町 ・各みどりの少年団の活動エリア	

活動基盤の整備（C-35）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

和歌山県は「紀州木の国」と呼ばれるように豊かな森林に覆われているが、近年は人と森林との接点が少なくなり、放置された森林が増加し、このまま放置すれば森林の荒廃が広がる可能性があります。これらの問題に対処するためには、行政だけでなく森林ボランティア団体等の活動が重要であり、和歌山県森林インストラクター会と共催で、森林ボランティアリーダーの養成や既存の森林ボランティア団体の連携強化に取り組みました。

具体的には、「森づくり塾」を開催し、1年間を通じて座学と現地実習により、森林の現状と様々な問題点・里山の問題・獣害対策等に関する知識や、人工林間伐作業やチェーンソーの使い方・竹林整備方法・苗木の植栽・照葉樹林監察など、森づくり活動に必要な技術講習を行い、森林ボランティアの中核的担い手を育成し、健全な森林の再生を目指しました。

2. 活動の成果

一年間を通じて座学・現地実習を毎月1回実施し、自然・森林・林業について見解を深めてもらう事が出来ました。また、毎年新規募集を行い確実にボランティアに参加する人数が増えています。今後は、行政等からの支援による森林整備事業などを紹介し、森林ボランティア活動への誘導を促していきます。

3. 参加者の声

講習会では「森林、特用林産物、動植物、森に住む生物など、多方面の講義が聞けてとても勉強になった。」、実習では「実際に山で活動して体験することで、山の知識や林業の現状など、実感をもって学べた」等の意見がありました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年7月～令和6年6月（毎月、座学1回・現地実習1回）	備考
事業内容	1.座学 森林とはどんな空間か・木材の特徴と魅力・竹の種類と性質・竹林の整備・人のくらしと森林の関わり・森林の危険な生き物と怪我への対処・和歌山県の自然植生について・森林の荒廃について・植樹について・和歌山県の特用林産物・昆虫・野鳥・きのこ・哺乳動物・日本の林業・和歌山県の森林について 2.実習 竹林整備（ノコギリ・ナタの使い方）・チェーンソー実習・チェーンソーを用いた竹林整備・人工林間伐作業・苗木の植栽・植栽地整備・竹炭づくり・山菜料理・里山の観察・土壌動物・川の生物・照葉樹林の森林観察（夜：光るキノコ観察）・ブナ林の観察・人工林の観察、林業現場視察・紀州備長炭生産とウバメガシ原木林観察	
参加者数	延べ590人	
実施場所	座学：和歌山市中央コミュニティセンター 実習：和歌山県紀美野町・岩出市・有田川町・日高川町・田辺市・みなべ町・すさみ町	

活動基盤整備事業「樹名板設置事業」(A-84)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地域住民や児童などが樹木に親しみ、樹木を大切にすることを養うことのできる環境を整備するため、公園や学校などの公的な場所の樹木に樹名板を設置する団体等に対し、県産材を活用して製作した樹名板を交付する。

2. 活動の成果

公園などの公的な場所の樹木に、県産材による樹名板を設置することで、地元住民や子どもたちに、県産木材の用途の普及や樹木の名前を覚えてもらうことで、樹木に親しみ自然を大切にすることを養うことができた。

3. 参加者の声

- ・学校等の校地内の樹木に樹名板を設置したことで、子ども達が樹木に興味を持ち始め、学習にも活用しています。
- ・公園や公的施設に設置したことで、利用者に高評価をいただきました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年7月～12月	備考
実施場所	鳥取県内 4市町 7箇所 111枚	

活動基盤整備事業「木工工作キット配布事業」(A-85)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県産材を使用した木工工作キット、杉板を配布し、小・中学校の児童・生徒に木材に触れ親しむ機会を作り、木材の良さの普及と木材需要の拡大を図る。

2. 活動の成果

鳥取県産の杉板、木材キットを使用することで、木に触れることにより、木の持つ独特の柔らかさ、温かさ、加工のしやすさや組立ての難しさ等感じる事ができた。

3. 参加者の声

- ・家にも本立てはあるけれど、自分で作った本立てができてとてもうれしいです。
- ・やすりでパーツが入るまでこするのが大変でした。くぎを打つときに、変なところからくぎが出ないように気を付けながら打ちました。ニスぬりはつやが出るようにがんばってぬりました。
- ・色をぬるとき、木目がうまく残るように工夫しました。完成してから作品鑑賞をして友達の作品の感想も発表できました。
- ・釘を折らないようにまっすぐ打つことをがんばりました。組み立てるのがおもしろかったし、家では本や物を置いて使おうと思います。
- ・あまり上手にできなかったけど、大工さんがどのような感じでやっているのかがわかりました。
- ・杉の木のにおいがとてもよく、気持ちよく作ることができました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年7月～12月	計	備考
事業量		1,046組	
実施場所	鳥取県内 32小・中学校		

活動基盤整備事業「青少年・民間活動グループ育成事業」(C-36)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

木材の良さを多くの子ども達に知ってもらおう活動を通じ、森林整備の重要性を認識してもらおうことを目的とする。

2. 活動の成果

民間の任意団体等が自主的な緑化活動等を実施することにより、森林や環境への認識の度合いがより強くなり、また中核となる森林ボランティア育成にも繋がり、周りへの影響力も大きなものとなった。

木材の良さを子ども達に体験してもらい、木材需要・森林整備・緑化推進の意識が高まった。

3. 参加者の声

- ・道具の使い方から作り方まで丁寧に教えていただきました。
- ・また、参加したいです。
- ・かなづちで釘を打つのが難しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月7日	備考
事業内容	親子木工教室の開催	
	A.机	1
	B.イス	0
	C.小物入れ(何でもBOX)	2
	D.道具箱	1
参加者数	4人	
実施場所	鳥取県大山町	

「森の誕生日」2024事業（A-86）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

ふるさと森林公園の開園日である「4月29日」に、一般県民を対象に森や緑、木などの自然と触れ合う総合イベントを開催することにより、県民の森林に対する興味や関心を深めるとともに「緑の募金」のPRを行った。

新型コロナの5類移行後初の開催となり、コロナ前の規模、内容で開催した。当日は、多くの来場者があり、各ブースにおいて森林について学び、ふれあい、森林に対する関心を深めてもらうことができた。

会場をいくつかの複数のブースに分け、来場者が学び、触れ合い、体験できる場を提供した。

①学びのブース：森づくり活動団体等がパネルや模型展示、体験コーナーを開設

②森とのふれあいブース：森づくり体験会、森とのふれあい講座

③ステージ：小学生による森のダンス、コンサート

④展示・ふれあい：はたらく車展示、移動動物園

⑤森のマーケット：木工品等の展示・販売、野菜等の販売

⑥緑化苗木の配布、緑の募金のPR

2. 活動の成果

家族連れなどを中心に3,200人の来場者があり、体験ブースや展示パネルでの説明などにより、森林について学び、森林に対する関心を深めてもらう機会となった。

また、イベントの様子が地元ケーブルテレビ放映され、視聴者に対して「森林保全の大切さ」や「緑の募金」認知度向上などの効果が期待される。

3. 参加者の声

- ・親子で気軽に参加でき、いろいろなブースがあり楽しく学び、過ごすことができました。
- ・模型やパネルを使ったわかりやすい説明や小物づくりを通じて、森の働きや重要性についても理解ができました。
- ・いただいた苗木が大きくなるのが、楽しみです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月29日	計	備考
事業量	1日		
参加者数	3,200名	3,200名	
実施場所	・島根県ふるさと森林公園（島根県松江市宍道町佐々布3352）		

緑の少年団育成強化事業（C-37）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

緑の少年団の育成や少年団相互の親睦と活動を促進するため、指導者講習会・活動発表大会・交流集会などを通じ、森林環境教育を推進することにより、子どもたちの「生きる力」を育む。

2. 活動の成果

●島根県緑の少年団連盟総会・指導者講習会

今年度は一堂に会しての開催とし、指導者講習会は「森林の循環利用とSDGs」と題し、島根県自然観察指導員連絡協議会佐藤会長に講演いただいた。9団が参加。

●島根県活動発表大会・交流集会

久しぶりにオンラインではなく島根県立少年自然の家で開催し、少年団6団が発表、その後の交流集会でも親交を深めた。発表大会の様子はDVDにまとめ、県内すべての少年団（129団）へ配付し、発表団の活動を広く紹介することができた。

●全国緑の少年団活動発表大会

今年度「吉田中学校緑の少年団」の「みどりの奨励賞（全国緑の少年団連盟会長賞）」受賞と、同少年団の活動を支援している「閑たなべたたら」が少年団育成成功労賞の受賞が決定。「閑たなべたたら」は11月に茨城県で開催された全国緑の少年団活動発表大会において表彰を受け、全国育樹祭にも参加した。

その後、島根県知事へ受賞報告を行い、県民への緑の少年団活動のPRにつながった。

3. 参加者の声

●指導者講習会

- ・林業や森林開発はSDGsとの関わりが大変大きいことが分かり、子どもたちになるべく身近な問題から考えさせるようにしたいと思った。
- ・あと7～8年で達成する目標であるが、あまり意識されていない現状も分かった。少年団として何かできないか考えて実行していきたいと思った。

●島根県活動発表大会

【審査員の感想】

- ・今回発表してくれた少年団の皆様の活動から、豊かな自然は学びの宝庫であり、そんな自然を大切にしながら地域の方々と一緒に活動している姿をととても頼もしく感じた。

【発表少年団の感想】

- ・発表は緊張したけど、他の人の発表を聞いて勉強になった。
- ・キャンプファイヤーが楽しかった。
- ・知らない人と友達になれて良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月28日	8月1日～2日	備考
事業量	島根県緑の少年団連盟 総会・指導者講習会	島根県緑の少年団 活動発表大会	
参加者数	県内少年団9団	審査員4名、発表6団	
実施場所	島根県出雲合同庁舎	島根県立少年自然の家	

第22回森林を考える岡山県民のつどい (A-87)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

環境の世紀にふさわしい森林の保全や美しい森づくりを推進するとともに、林業の振興と地域材の需要拡大を図るため、基調講演、県民参加の森づくりの推進等のPR活動、木工教室、木工製品・地域特産品等の展示販売を行い、広く県民に森林の保全や美しい森づくりの推進と森林・緑・水に対する認識を深めてもらう場を提供する。

2. 活動の成果

基調講演では、国土緑化推進機構沖修司氏を招き、「国土緑化運動と岡山県北の森林づくりへの期待」と題した講話を実施した。森林資源と今後の森林づくりのほか、国土緑化運動の変遷についても学ぶことができ、令和6年度に開催される全国植樹祭について県民の機運醸成につながった。

また、例年と異なり、みどりの大使によるギター弾き語りも開催したため、より若い世代の参加者もあり、森林保全や林業について興味を持ってもらうきっかけとなった。

さらに、木工教室や苗木の無料配布などによって、多くの県民が木に親しみ、木の魅力を知ることができた。

今後も、多くの参加者に地域産材の利用を紹介・推進し、県産材の利用向上につながるよう、取り組みを進めていきたい。

3. 参加者の声

- ・基調講演を聴いて、森林資源や植樹祭について興味がわいてきた。
- ・みどりの大使の弾き語りコンサートが良かった。一緒に写真が撮れて良かった。
- ・毎年参加しています。ブルーベリーの苗木が楽しみ。
- ・木工教室で箸を作りました。親子で参加できるので良いです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月14日	計	備考
事業量	1日		
参加者数	約1,500人	約1,500人	
実施場所	岡山県津山市大田920番地 グリーンヒルズ津山		

岡山県木材組合連合会

県産木材フェア開催事業 (A-88)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

岡山県産木材等の利用の一層の推進及び販路の拡大を図るほか、子供たちに木材や木製品とのふれあいを通じて木材への親しみや木の文化への理解を深めてもらうため、木工教室（県産スギ板をキット化した椅子製作）や木製ストラップ、MY箸づくり、木の玉プール等を開催した。

また、木材利用促進に繋げる取り組みとして、優れた木造建築のポスターを購入配布した。

2. 活動の成果

- ・木材市場の関係者等の指導により、親子でふれあいながら椅子製作を体験してもらった。
- ・端材の無償提供や、森林循環のマグネットシートの配布などを通じて木材は環境に優しい素材であることを来場者にアピールできた。
- ・来場者からは「次回の開催」を期待する声も聞かれ、木育の新しいメニューを考案している。

3. 参加者の声

- ・親子で木に触れながら共同作業をすることができた。（親子で木工教室に参加した父親）
- ・ヒノキの匂いに包まれて、幸せな時間が過ごせた。
（ヒノキのMY箸づくりに参加した女性）
- ・次回も開催してほしい。（木の玉プールや積み木セットで遊んだ保育園児）

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月28日（土）	備考
事業量	1日	木工教室：親子で椅子製作 木育コーナー：①木製ストラップ作り ②MY箸づくり③木の玉プール・積み木 ④端材の無償提供、DIY販売
参加者数	木工教室：親子等27組 木育コーナー：約300名	
実施場所	岡山市北区平井 平井小学校	

第39回くらしき都市緑化フェア（A-89）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

地球温暖化による環境の破壊を止めるためには、今ある森林を保全し、美しい森づくりを推進する必要がある。そのためには、都市に住む人々にも、森林の機能や緑の重要性について、知ってもらう必要があり、来年岡山県で開催する全国植樹祭のPR活動や各種木工教室、身近な木を使った小物づくり等を行い、広く人々に森林の保全や緑の重要性に対する認識を深めてもらう場を提供した。

2. 活動の成果

昨年に引き続き、好評であった樹木医による樹木観察会を実施したところ、幅広い世代に参加していただき、樹木についての関心や知識を深めることができた。

また、全国植樹祭の紹介ブースでは、岡山県産材で木のコースターをつくるなど、小さなお子様に塗料を施さない無垢の木材の手触りの良さや匂いを体感していただいた。

さらに、庭木の剪定教室では、庭師からマツの剪定指導を受けることができることから、難しいとされているマツの剪定方法を熱心に学んでいた。

今後も、参加者に身近な緑の重要性を説明し、県産木材を身近に感じてもらえるような取組みを行っていきたく考えている。

3. 参加者の声

- ・コロナ禍でイベント中止が続く中、秋晴れのもと、樹木に触れ合うことができ、緑の持つやすらぎの効果のようなものを感じることができた。
- ・ちびっこ木工教室で触れた無垢の木の感触は、プラスチックや合板と違い、気持ちが落ち着くように感じました。今度、玩具を買う時は、無垢の積み木を選び、大切に使用していきたいと考えています。
- ・競り市では、お店で買う値段よりかなりお安く購入することができました。花や樹木は好きですが、購入して家で育てる程まででは無かったので、これを機会にお家の緑を増やしたいと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月22日	計	備考
事業量	1日		
参加者数	2,976人	2,976人	
実施場所	岡山県倉敷市寿町12-1 倉敷みらい公園		

岡山県緑化推進協会

緑化普及推進事業（C-38）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

「みどりの少年隊交流集会」は、自然の中で共同生活と学習活動を通じて、緑の持つ重要性や必要性を学んでもらうとともに少年隊相互の交流を図ることを目的に、県内各地のみどりの少年隊が、倉敷市児島由加の倉敷市自然の家に集い、自然探検（オリエンテーリング、プロジェクトアドベンチャー）や木工クラフト（写真立て）づくりに挑戦した。今年度は、4年ぶりに1泊2日で実施することが出来た。

また、「みどりの少年隊指導者研修会」は、指導力の向上を目的に毎年、開催しているが、今年度は、岡山県森林研究所内の研修棟で県研究員や県指導員による森林・林業の現状・課題や研究内容の説明を受け、施設の見学と伐木のVR体験をした。

その他、巨樹老樹名木の樹木診断調査は、令和2年に刊行した書籍「新岡山の巨樹老樹名木」の掲載樹木を大切に次世代へ引き継ぐために、保存事業の参考にするために実施している。

春のみどりの月間を中心に、令和6年5月に開催された全国植樹祭の開催機運を盛り上げるため、PRグッズを作成・配布するとともに、関連植樹イベントの開催に助成した。

2. 活動の成果

交流集会は、4年ぶりに夏休み時期中に1泊2日で開催することが出来たが、参加少年隊数と参加者数ともに減少した。このため、来年度は、その施設でしかできない体験プログラムを積極的に取り入れることにより、参加者の増になるよう計画し、開催に向けて準備したい。

指導者研修会は、例年、交流集会開催に向けての研修施設の確認や子供たちへのプログラムの事前研修等を行っていたが、昨年度から森林・林業の現場体験を取り入れ、今年度は、県森林研究所で開催した。

今後も森林・林業の現状を知ってもらうための研修会を取り入れたい。

巨樹老樹名木の樹木診断調査は、1年間に数本しか実施できないため、樹木の状態や地元地域の要望など、調査の優先順位を勘案し、効果的に実施したい。

3. 参加者の声

- ・交流集会では、子供たちからオリエンテーリングやプロジェクトアドベンチャーが面白く、友達と協力しあうことが出来て、仲良くなれたとの声が多かった。
- ・指導者研修会では、これまでと違った研修で、県研究員や県指導員から森林・林業の現状や課題、研究内容を直接聞けて大変勉強や参考になったとの意見をいただいている。
- ・巨樹老樹名木の診断調査では、市町村から専門家の診断調査と今後の保存に向けての事業の参考になると喜ばれている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月4日～5日	6月4日	8月～2月	計	備考
事業量	みどりの少年隊交流集会の開催 1泊2日	みどりの少年隊指導者 研修会の開催	岡山の巨樹老樹名木樹木 診断調査		
参加者数	54人	19人	6人	79人	
実施場所	倉敷市児島由加	勝田郡勝央町	県内3ヶ所		

みどりの集い開催事業（A-90）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

自然に親しむとともに、その恩恵に感謝し、豊かな心を育むという主旨を踏まえ、身近な緑とのふれあいや郷土の自然を学ぶことを通じて、みどりを「つくり」「守り」「育てる」意識の醸成を図るため、みどりの効用を体験するイベントを開催した。

体験ブースにおいては、①寄植教室、②粘土で遊ぼう、③自由工作塾、④たね団子を作ろう、⑤親子木工教室、⑦空から森林を見よう、⑧森の安全作業を学ぼう等を開催し多くの家族連れで賑わった。

また、販売ブースにおいては、①地元加工品、②草花販売等を開催し、好評を博した。

展示コーナーにおいては、広島県、広島県みどり推進機構、「森林づくり活動・森林の働き」に係るパネル展示及び当該展示に係る質問並びに各種相談会が催された。

感染防止対策として、各ブースに消毒液を設置

2. 活動の成果

森林ボランティア団体・林業関係団体・広島県緑化センター等が、一体となって「みどりの集い」を実施した結果、多くの一般県民の参加があり、森林・緑に対する県民の関心と理解を深めることができた。

当日は、あいにく雨天となったが、約1800人の県民の方々に参加していただいた。本年度第28回の開催となり、多くの県民が家族連れで楽しむイベントとなっている。

3. 参加者の声

粘土細工等の体験ブースについては、大人・子供を問わず一生懸命取り組まれていた。作品が家庭に持ち帰り、使えることがメリットであると喜ばれた。

寄植教室については、直ぐに定員オーバーになるなど、根強い人気を感じられた。

体験ブースでは、テント内で多くの家族連れが作品づくりに熱心に取り組み、今後も継続を求める声が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月29日	計	備考
事業量	10:00 開会式 各種行事を実施 14:00 閉会式		
参加者数	1,800人	1,800人	
実施場所	広島県広島市東区福田町 ひろしま遊学の森「広島県緑化センター」		

ひろもくデザインアワード（A-91）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

広島工業大学の「建築分野における木材利用研究センター」と協働し、産学連携の下で地域材の需要拡大や人材育成のための効果的な手法の実証を目的に「ひろもくデザインアワード」を開催。木製ベンチのデザイン募集、優秀作品の表彰、ベンチの試作、公共施設等への展示活用、デザイン集の発行を通じて、地域材利用に関する人材育成や県民への木材利用促進キャンペーンを総合的に展開した。

2. 活動の成果

デザイン募集では、小学生の部に58点、一般の部に13点（うち10点は10グループ121名）の応募があり、安全性や機能性などに配慮した作品も多く、試作ベンチ13点については、展示活用した施設から感謝の声や感想が多く寄せられるなど、木材利用の機運醸成や県産材に目を向けて利用拡大に取り組む人材の育成に繋がった。

今後の取組としては、木材利用を推進する建築士・木材供給者の資質向上の研修会や将来の木造建築等に携わる担い手確保のための人材育成等を通じて木材利用促進に取り組む。

3. 参加者の声

《デザイン応募者》

○応募したデザインを基に試作されたベンチが表彰式で展示されていた時、自分のデザイン画とそっくりで感激でした。そして、試作ベンチが学校に届いた時、クラス全員で記念撮影をするなどとてもうれしかった。（小学生）

○グループでデザイン画を決定し、グループ員で話し合いながら設計から試作までを体験できて良かった。木材の加工のしやすさなどを実感することができました。（大学生）

《展示活用施設関係者》

○ベンチを寄贈していただき感謝します。子どもたちもベンチにたくさん集まり、交代で座っていました。先生方も生徒のデザイン画とそっくりのベンチができていることに驚いていました。可能であれば、校長室にミニチュアベンチを記念に飾り、来訪者に話しをして試作ベンチを見せたい。（小学校校長先生）

○素敵なベンチを寄贈いただきありがとうございます。現在はロビーに設置していますが、保護塗料後、屋外の花壇付近に設置して来館者に利用していただきます。（施設管理者）

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月7日～9月8日	9月23日	2月17日	3月～	備考
事業量	木製ベンチデザイン募集	審査委員会	表彰式	ベンチ展示活用13点	
参加者数	182人	7人	約100人	約1,000人	
実施場所	デザイン募集範囲 県内23市町				

緑の少年団交流集会開催事業（C-39）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内の緑の少年団が一堂に会し、自然に親しみながら、交流と親睦を図るとともに、自律・友愛・協同・奉仕の心を養うため、活動発表会を開催するとともに、緑の少年団の活動を支援するため、活動の参考となる図書を配布した。

2. 活動の成果

他の少年団の活動内容をまじかに聞いて、これからの活動に活かすことができた。

活動を通じて、他の少年団と交流するとともに、自然を愛し、仲間を愛するなど、心豊かな人間を培うことに寄与する。

活動メニューの充実を図っていききたい。

3. 参加者の声

他の少年団の活動内容を知ることができて、活動の参考になるとの感謝の声を頂いている。

また、他の少年団との交流や、農業体験、クラフト教室など、日頃出来ない体験が出来て面白く、楽しい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月	8月	計	備考
事業量	活動発表会	図書の配布		みどりのおもしろ発見ノート（4年生） みどりの手帳（5年生）
参加者数	28人	1,005人	1,033人	
実施場所	広島県内			

都市と山村ふれあい交流促進事業（A-92）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

林業研究グループ会員が都市住民を対象に森林をフィールドとした自然体験等の交流活動を実施することにより、都市住民に対する森林の重要性や森林整備の重要性の理解促進を図る。

2. 活動の成果

森林林業体験、木工体験、椎茸駒打ち体験、学習会等を通じて、都市と山村の住民が交流を図り、森林の持つ役割や林業の重要性について理解が図られた。今後も事業の継続を望む。

3. 参加者の声

- ・身近な場所で貴重な体験ができ楽しかった。また参加したいので、今後も続けて欲しい。
- ・地域の皆さんと一緒に交流ができ、森林や林業についても理解が深まった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月7日～3月4日		計	備考
作業内容	7林業研究グループが10箇所で開催された森林林業体験等を実施			
参加者数	県内	412人	412人	
	県外	人	人	
	計	412人	412人	
実施場所	山口県柳井市、下松市、山口市、美祿市、長門市、阿武町			

森林体験学習支援事業（C-40）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

山口県が山口県林業研究グループ連絡協議会と連携して実施する森林体験学習に参加した県内小中学校の児童生徒及び指導者に学習教材を配付し、森林環境教育・森林E S Dの促進を図る。

2. 活動の成果

山口県が山口県林業研究グループ連絡協議会と連携して実施する森林体験学習会に参加した県内小中学校、高校40校の児童生徒及び指導者等907人に「みどりの手帳」を配布し森林体験学習会を行った。

自然環境の保全や緑化推進の重要性について理解が深まり森林環境教育・森林E S Dの促進を図ることができた。

3. 参加者の声

- ・児童達はみどりの手帳を手にして熱心に体験学習に取り組んでいた。
- ・森林や自然に関する新しい発見もあり、興味深く学習する児童生徒の姿が見られた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月20日～3月8日		計	備考
作業内容	40小中学校、高校で森林体験学習を実施、学習教材を配布			
参加者数	県内	907人	907人	
	県外	人	人	
	計	907人	907人	
実施場所	山口県 岩国市、柳井市、周防大島町、下松市、光市、周南市、山口市、美祿市、宇部市、山陽小野田市、下関市、長門市、萩市、阿武町			

記念の森造成事業（C-41）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

植樹、保育等の森林整備、地域住民や児童生徒を含めた植樹祭等、記念の森の緑化活動を通じて、緑化思想の高揚と緑化運動の推進を図る。

2. 活動の成果

県内の5箇所において、子どもを含めた地域住民320名が参加し、記念植樹や植樹イベント等を開催し、緑化思想の高揚に成果があった。この事業は地域住民のコミュニケーション、連携を深める機会ともなっている。事業要望も多く継続していきたい。

3. 参加者の声

- ・貴重な体験ができた。今後も続けて欲しい。
- ・夏の草刈り作業が大変ですが、記念植栽した苗木の生長が楽しみです。
- ・自分が植樹した森が、将来どのようなようになるか楽しみです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月1日～3月15日		計	備考
作業内容	県内5箇所にて記念の森を造成、植樹、森林整備等実施			
参加者数	県内	320人	320人	
	県外	人	人	
	計	320人	320人	
実施場所	山口県周防大島町、山口市、萩市			

企業の森づくり普及啓発イベント（C-42）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

豊かな森林を次世代へ引き継ぐため、企業・団体から「緑の募金（使途限定募金）」をご寄附いただき、森林整備を実施している。支援いただいた企業・団体に対し植栽や間伐、木育や森林教室などの体験イベントを開催し、森林の機能や役割そして森林サイクルの重要性を認識いただくことを目的とし実施している。

植栽活動では、指導者から獣害対策の必要性を学び設置方法などの説明を受け実施した。また、地元高校生（環境資源課）が学校林を活用して製作した木製品の販売、林研グループが積み木づくりや竹笛づくりなどを行い、参加者との交流を図った。

別のイベントでは広葉樹の植栽、そして自らが育てたどんぐり苗の生育状況の確認を行った。植栽後は間伐した原木を利用して原木しいたけ作りや木工クラフトを行った。

2. 活動の成果

三好市・美馬市ともに、前年植えた植栽地の近くで植栽活動を行っているので、植えた苗木の成長を確認することができ、成長を家族で見守っているため、この活動が長く続くことを期待されている。また、今年度は制限が無くなり、参加者の増加が見込めたため、緑の募金を活用したSDGsの取組として広くPRすることができた。参加者には森林のサイクルを学んでもらい、森林整備を行うことで森林を未来へと繋ぐ活動として、根付き多くの参加者に理解を得られている。また、日常では経験できない森づくりに参加することで、森づくりの大切さや難しさを体験、企業側は植樹活動を通じて地域の活性化に貢献でき、お互いに意義のある活動となっているため、今後も継続して取り組んでいきたい。

3. 参加者の声

○自然の中での体験活動は、親子ともにのびのびと楽しめ、成長した苗木を見て喜び、そして新たに植栽を行い、成長過程を親子で見守っていききたい。(30代女性)

○しいたけが出てくるのが楽しみ。毎日観察したい。(小学生)

○高校生が作ったベンチの座り心地が良かった。やっぱり木のぬくもりは良いですね。(50代女性)

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月27日	12月2日	計	備考
事業量	植栽・チューブラーの設置スギ 1,305本	植栽 750本 (モミジ・ヤマザクラ・ヤマボウシ・ ケヤキカツラ・エノキ)	植栽 2,005本	
参加者数	125人	122人	247人	
実施場所	徳島県 三好市・美馬市			

緑化普及活動事業（A-93）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

(目的)

森林・緑・水に対する県民の認識を深めるための普及啓発活動を行うとともに、森林ボランティアや緑の少年団の活動を支援した。

(内容)

- ① どんぐり銀行活動を通して県民の森づくりへの関心を深めるために、「どんぐり預金」を実施し、預金高に応じて苗木やグッズ等を預金者に払い戻した。
- ② 香川県の水源である早明浦ダム上流にある高知県大川村で「早明浦交流の森づくりプロジェクト」を実施した。
- ③ 10月に開催した「森とみどりの祭典」において、緑の少年団の活動発表やパネル展示を行うなど、緑の少年団の活動を支援した。また、小中高生を対象に緑化ポスター、書道コンクールを実施した。

2. 活動の成果

熱心な県民（小学生・保護者等）に「どんぐり銀行」や「森とみどりの祭典」に参加していただき、森づくりへの理解と関心を深めてもらうことができた。

今後とも、県民参加の森づくりを推進するため、森（里山）に親しむ体験の場を提供して行きたい。

3. 参加者の声

①（どんぐり銀行）

「森林の大切さを認識したので、苗木が早く大きくなるように大切に育てたい。」

「どんぐり銀行は、森林・里山へいざなういい機会になった。」

②（森とみどりの祭典）

「緑の少年団の発表やパネル展示を通して、少年団の活動や環境、森林の大切さがよく分かった。」

実績報告とりまとめ表

実施時期	年間	10月8日	計	備考
事業量 (内容)	どんぐり銀行活動	「森とみどりの祭典」		
参加者数	2,334人	56人	2,390人	
実施場所	香川県内一円			

木工作品製作キット配布事業（A-94）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

【目的】

木材の利活用を促進するため、次代を担う小中学生を対象に、県産材を使用した木工作品製作キットを提供し、実際に木に触れ加工することで木の良さを知ってもらい、県産木材の利用拡大を図る。

【内容】

県内の木材加工業者が県産スギ材で作製したウッドケースキットを、総合的学習の時間やクラブ活動、図工の時間等で、製作希望のある県内小中学校へ配布した。

2. 活動の成果

木材加工の製品づくりの前段階として、県産材の木製品を活用し、下穴開け、くぎ打ち、やすり掛け、仕上げ作業（ニス塗等）を行ったことで、木材になるまでの過程や林業に携わっている人の思いや苦勞を想像し、実感してもらうことができた。

森林を受け継ぎ、後世に残すことができるように、今、自分たちができることをしていきたいという気持ちを高めることができた。

今後も、子供の頃から木に触れ合うことによって森林や林業に興味を持ち、関わりを持ってもらえるよう、継続して事業を実施していきたい。

3. 参加者の声

- ・木の触感が心地よく、木の良さを実感できた。
- ・くぎ打ちが難しかったが、何度も挑戦して作製できたのが嬉しかった。
- ・苦勞して作ったので、完成したウッドケースを大切に使いたい。
- ・もっと木工をしたくなった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～10月配布 7月～製作	計	備考
事業量	2,967セット	2,967セット	
参加者数	2,967人	2,967人	
実施場所	愛媛県内の小中学校		

愛媛の森林友の会育成及び現地研修会開催事業（A-95）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

【目的】

県民に森林・林業についての知識を向上させ、理解を深める。

【内容】

- ・えひめ森林公園森林散策の実施（令和5年11月11日）
愛媛森林管理署の協力を得るとともに、「えひめ山の日の集い」併催行事と併せての森林散策を行った。

2. 活動の成果

「えひめ山の日」の周知に寄与するとともに、森林を散策することで、森林が生み出す綺麗な空気、川、水を体感し、森林の良さを身体全体で実感してもらうことができた。そして、この森林を保全することの必要性を理解してもらうことができた。

今後も、森林と触れあう活動を通して、森林保全、森林資源の活用について、広く一般県民に普及啓発していきたい。

3. 参加者の声

- ・ガイド付きの森林散策で、美しい紅葉や景色を楽しむことができた。
- ・樹木の解説などをしていただいて、知識を深めることができた。
- ・森林の良さを体感することができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月11日	計	備考
事業量	1回	1回	
参加者数	55人	55人	
実施場所	東温市		

土佐の名所の樹木活性化事業（A-96）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

多くの人が大切にしてきた桜の名所等の樹木の再生を図るため、樹木医の指導の下、県内の桜の名所4カ所でボランティア団体と地元住民等で手入れを行った。

①津野町芳生野の桜並木を元気にしよう！

国道439号沿いの桜約30本の手入れを行った。

②四万十町の桜の保護・育成事業

四万十川沿いの桜並木や農村環境改善センターの桜の巨樹の手入れを行った。

③記念植樹のサクラ補植及び鹿食害防止ネット補強事業

四万十町立十川中学校学校林に記念植樹した桜の保護・育成として、ヤマザクラ30本の補植とこれまでに植樹した50本の食害防止ネットの補強を行った。

2. 活動の成果

樹木医から指導を受け、樹木の手入れの方法を習得できた。ボランティア活動を通して実習でき、知識や技術を生かす実践の場となった。手入れされた桜は地元住民にも喜ばれ、景観整備による地域貢献ができた。また、活動を通じて、樹木の保護・育成の普及啓発となった。

3. 参加者の声

- ・四万十川沿いの桜並木は四万十桜マラソンのコースにもなっている。きれいに手入れされた桜を楽しんでほしい。
- ・作業の様子がケーブルテレビで放送され、番組を見た住民から新たな手入れの依頼があった。この活動が地域に根付いてきていると感じた。
- ・観光名所である天狗高原に続く道沿いの桜並木を手入れできた。観光客に桜を楽しんでほしい。
- ・毎回、活動には緑サポーターの協力があり助かっている。後継者の育成に力を入れてほしい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月11日	11月～3月	3月16日	計
事業量	津野町芳生野の桜並木を元気にしよう！	四万十町の桜の保護・育成事業	記念植樹のサクラ補植及び鹿食害防止ネット補強事業	
参加者数	20人	のべ16人	8人	のべ44人
実施場所	津野町、四万十町			

森のようちえん推進事業（A-97）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内で森のようちえん等の自然体験活動が広まり、より多くの子どもたちが質の高い自然体験の機会を得られるように、高知市「アジロ自然の森」でイベント型の森のようちえんを開催した。実施にあたっては、自然の中で子どもが伸び伸びと遊ぶことで豊かな感性や好奇心が芽生えるように、過保護にならない見守りをボランティアが行った。また、子どもたちの自然体験のみならず親への普及啓発や指導者育成を視野に入れて行った。定期的なフィールド整備を行い、年間を通じて安心して遊べる森の環境整備を行った。

2. 活動の成果

自然に囲まれた高知県でも安心して遊べる森は少なく、自然を活かしつつ少し手を加えることで安心して遊べるフィールドを確保し、継続的な自然体験活動を行うことができています。イベントがない時でも地元の子どもたちや家族連れなどが森に遊びに来ており、気軽に自然体験できる場を提供することができた。スタッフには森林ボランティア活動や里山整備に関心のある大学生も参加し、里山の利活用や森林体験学習に携わった。

3. 参加者の声

- ・不法投棄されたゴミを見て悲しい気持ちになった。人が入らない森の現状を知った。
- ・初めて流しそうめん体験ができて楽しかった。
- ・安全に森が整備されているので安心して子どもを遊ばせることができる。
- ・参加するごとに子どもの変化を感じている。
- ・かつてごみの山だった森の清掃活動から始め、今年で15年。これまで活動が継続できたのもボランティアのおかげだ。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～3月	7月16日	9月3日	3月17日	6月9日	計
事業量	アジロ自然の森のフィールド整備	アジロ山を綺麗にして森で遊ぼう	道づくり体験&森のようちえん	春の息吹を探そう	森のようちえんノコギリ体験とバードカービング	
参加者数	のべ75人	32人	23人	72人	32人	のべ234人
実施場所	高知市					

高知県森林インストラクター養成講座（A-98）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林に関する幅広い知識や技術を持った森林インストラクターの養成を図ることで、体験活動や自然観察、森林づくり等を通して、森林・林業に関する正しい知識を一般県民等に広く普及啓発する人材を育成する。

今年度も県内で活動する団体「高知県森林インストラクター会」が実施主体となり、森林に対する幅広い知識、技術を習得するため、「森林」「林業」「森林内の活動」「安全及び教育」の4分野の講習及び実習を全7回で実施した。講座内容は、全国森林レクリエーション協会の実施する「森林インストラクター」の受験に対応できるものとし、講座修了者には養成講座修了証を発行した。修了証書（写）提出により、森林インストラクター資格試験の二次試験「実技」が免除される。

2. 活動の成果

過去の受講生がスタッフとして参加し、知識と技術の向上を図っている。これまでの受講生のうち4人が令和5年度の森林インストラクター資格試験に合格した。森林・林業分野における指導者の育成となっており、今後の普及啓発の広がりが期待できる。

3. 参加者の声

- ・講座は非常に難しいが、実習を通して講義の必要性を理解することができた。
- ・講座を通して森への視野が広がるとともに、興味の幅も広がった。
- ・多くの知識と経験が役に立つということをみを持って感じる事ができた。
- ・野外活動における救急法については、防災意識を高め、日常生活の中で役立つと感じた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～2月
事業量	森林インストラクター養成講座 (全7回)
参加者数	14人
実施場所	高知県高知市、香美市

地域の森林整備事業（C-43）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内のボランティア団体や地域住民により、緑の募金で植樹等が行われた場所の手入れや山林の整備を行い、憩いの場の維持管理を行った。

2. 活動の成果

緑の募金で植樹した場所は公園として近隣住民の憩いの場となっており、維持管理をすることで地域の活性化に貢献できた。また、アジロ自然の森は定期的に森のようちえんフィールドとして活用されており、樹木が順調に成長している様子を子どもやその保護者に実際に見てもらい、手入れの大切さを伝えることができる。

3. 参加者の声

- ・季節ごとに花がきれいに咲くので、散策しながら楽しんでいる。
- ・下草や樹木の勢いで桜が負けてしまいそうだが、毎年草刈りをしているので植樹した桜も根付き、自力生長している。あと少しでヤマザクラの開花が見れそう。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月17日	7月・9月	計
事業量	約0.4haの草刈り作業 アジロ自然の森	約0.3haの草刈り作業 清水農村公園および周辺緑地	
参加者数	4人	のべ10人	のべ14人
実施場所	高知県高知市、吾川郡いの町		

活動基盤整備推進事業業 (C-44)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

子どもたちが安全に自然体験できる環境を整えるために、定期的に森のようちえんを開催しているアジロ自然の森の基盤整備として、老朽化したツリーハウスの建て替えを行った。

実施にあたっては参加者を募り、アジロ自然の森のフィールド整備等、日頃の活動に関わる森林ボランティアの増加をめざした。丸太を運ぶボランティアには日頃、森のようちえんに参加している親子やボランティア等多くの人が協力し、約100本の丸太をリレー形式で運んだ。暑い中の作業ではあったが全てを運び終え、みんなで協力して活動することの楽しさや達成感を感じることができた。また、高知県産の木材を使用することで、木材の利用促進を図った。

2. 活動の成果

ツリーハウスは子どもたちにも人気の遊び場なので、建て替えができ安心して遊べるようになった。丸太運びの後には流しそめんで交流会を行い、アジロ自然の森の活動についても知ってもらうことができた。ツリーハウス制作をきっかけに森のようちえんのボランティアに参加してくれるようになった人もいる。

3. 参加者の声

- ・初めての経験で楽しかった。知らないところで様々な活動があることを知れた。
- ・大変充実した内容でした。参加者も多様で良かった。
- ・楽しいの一言につきました。ツリーハウス完成まで関わっていきたい。
- ・想像以上に楽しかった。活動内容をネットや文字で見るとより実際に身体を動かす方がずっとこの活動の大切さや継続する意義を感じることができると思いました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月16日・20日・21日	7月23日	8月5日・20日	8月26日～10月14日 (全7回)	計
事業量	丸太運びの準備	みんなで丸太を運ぼう！ &流しそめんで交流会	ツリーハウス解体	ツリーハウス制作	
参加者数	のべ24人	65人	のべ30人	のべ115人	のべ234人
実施場所	高知市				

森林ふれあい交流 (A-99)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- **ワンヘルスの森を整備しよう** ワンヘルスの森の育成体験を通して、森林の機能向上や美しい景観の想像を経験してもらう。
- **四王寺山森林浴ウォーキング** 森林とふれあいながら歴史のロマンを感じ、特別史跡「大野城跡」や森林の大切さへの理解を深めるとともに、森林浴による心身の健康促進を図る。
- **親子木工教室** 木工製品を組み立てることで、木材の良さ、自然の大切さを感じてもらうとともに、共同作業を通じて親子の絆を深める。
- **おすすめの紅葉スポット教えます** おすすめの紅葉スポットを巡って、五感のすべてで秋を体感する森林浴ツアー
- **写真展** 福岡の自然と四王寺山にかかわるものと題して、一般の方々から募集することで、写真を通じてその対象物への認識や愛着を深めてもらうとともに、これらの作品を展示公開することで、見学される方々にも同様な意識を広げていく。
- **森の恵みで作るクリスマスリース** 園内の針葉樹や常緑樹の葉を使ってリースを作り、森の恵みの大切さ、森林の循環環境を感じてもらう。
- **冬の生きもの観察と焚き火体験** 冬の野山の樹木（冬芽）、草花、鳥などを観察して、その生態を学ぶ。

2. 活動の成果

- **ワンヘルスの森を整備しよう** カエデがもっと生育するように除伐を行い、幼木を掘り取り移植した。
- **四王寺山森林浴ウォーキング** 歴史や自然を同時に学び、人の営みと自然を考える端緒になった。
- **親子木工教室** 多くの親子が一緒に笑顔で作業を楽しみ、自然も木材の香りや温もりに触れながら、森林の大切さも感じてくれた。
- **おすすめの紅葉スポット教えます** 紅葉には少し早かったのでトチノキ・カツラ・メタセコイア・ユリノキ等の色づきやキッコウハグマやツツジの花を観察し、なぜ秋になると葉は色づくのかなどを学習した。
- **写真展** 展示を見て、四王寺山の生きものや歴史を身近に感じてくれた。
- **森の恵みで作るクリスマスリース** 針葉樹や常緑樹を使ってリースを作り、森林の二酸化炭素吸収を学んだ。
- **冬のいきもの観察と焚き火体験** 野鳥やカエルの卵のほか、樹木が冬には葉を落とした後、春に命を躍動させるため準備をしている様子を学んだ。

3. 参加者の声

- **ワンヘルスの森を整備しよう** 除伐をするのは初めてだったけど林がスッキリして気持ちよかったです。
- **四王寺山森林浴ウォーキング** 森林浴により心身の安らぎを感じるとともに、知らなかった歴史を知り学習になりました。
- **親子木工教室** 木工キットを組み立てるのが楽しく、木の香りや木材の心地よさを感じました。
- **おすすめの紅葉スポット教えます** たくさんの種類の樹木の色づきを観察できました、意味もして良かったです。
- **写真展** 四王寺山の野鳥や歴史、昆虫の営みを大きく見れて良かった。
- **森の恵みで作るクリスマスリース** 針葉樹や木の実など自然の豊かさを感じながらとても素敵なリースが出来ました。
- **冬の生きもの観察と焚き火体験** 雨天だったけどスライドと鳴き声タッチペンで鳥の鳴き声や植物を学べて、雨が止んだので、カエルの卵や冬の森を歩くことが出来て楽しかったです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月23日	10月21日	11月3日	11月11日	11月12日～ 12月10日	12月9日	1月20日	計
事業量	ワンヘルスの森を整備しよう	四王寺山森林浴ウォーキング	親子木工教室	おすすめの紅葉スポット教えます	写真展	森のめぐみで作るクリスマスリース	冬のいきもの観察と焚き火体験	
参加者数	21人	92人	87人	23人	1,000人	38人	27人	1,288人
実施場所	福岡県 宇美町							

グリーンフェスティバル2024 (A-100)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

多くの県民が直に緑に接し、樹木や森林の機能を体感し学習することによって緑が果たす役割及び保全の重要性について認識を深め、緑と水の豊かな郷土への意識を醸成することやSDGs「全ての人々の健康な生活」「陸の豊かさを守ろう」の普及啓発を推進することを目的として、令和6年(2024年)5月19日(第3日曜日)に、「グリーンフェスティバル2024」を開催した。緑や木材および樹木に身近に触れる機会を増やすため、緑化センター内でロープアスレチック、ツリークライミング、軽トラ植木市、寄せ植え作り、ハンギングバスケット作り、樹木探偵団、木工体験、竹工作などに重点的に取り組んだ。

2. 活動の成果

晴天に恵まれ日中は30℃以上の真夏日となったが、昨年を上回る参加者があった。参加者は様々な緑に関するイベントを体験・体感することで、緑への関心や大切にすることを醸成することができた。

緑のワークショップとして、子どもや親子を対象とした間伐材を利用した親子丸太切り競争、木工体験、木製自動車作りや竹を使った工作では非常に盛況で、参加者は木材や竹の利用について体感できた。樹木を利用したロープアスレチック、ツリークライミングでは参加希望者も多く大変好評で樹木と親しむ場を提供できた。ハンギングバスケット展示では華やかで多くの鑑賞者が見られた。ハンギングバスケット作りや寄せ植え作りは参加希望者も多く、緑を手にとって体感する場を提供できた。花苗・花木配布では、用意した花苗・花木は全て配布でき緑への関心を高めることができた。

軽トラ植木市では、生産者と購入者が樹木医も交えて、木の特徴、育て方などについて直接対話する機会となり、購入者に好評であった。また、香りのワークショップでも、新たな緑の効用を体感し、さらなる緑への関心をアピールできた。

このイベントは、多くの参加者に森林・緑・水の大切さを伝え、体感してもらい理解してもらえることが出来る好適な機会であるため、今後も、活動目的に沿って続けていく必要がある。

3. 参加者の声

- ・ビンゴゲームを楽しみに来ました。(小学生低学年参加者)
- ・子どもに木工体験をさせたくてきました。よかったです。(大人女性参加者)
- ・花苗のプレゼントを楽しみに来ました。(緑の募金者)
- ・ロープアスレチックなどのイベントがあって楽しかった。(小学生高学年参加者)
- ・自然がたくさんあって楽しかった。(大人女性参加者)

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年5月19日(日)	備考
事業量	グリーンフェスティバル2024	
参加者数	6,500人	
実施場所	久留米市田主丸町益生田(福岡県緑化センター)	

第33回世界子ども愛樹祭コンクール (A-101)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

かつて八女市矢部村は、豊かな水が地域の人々に恵みをもたらしていた。

今では豪雨での被害の拡大により人々のいのち、生きる場を奪っているのが現状である。

人は被害者でもあり、加害者でもある。人の手による自然破壊が温暖化・異常気象をおこしているのも事実である。愛樹祭事業は32年前よりこの事態を予期し、樹木・森との共生を行う事で自然環境だけでなく、心豊かな人間性を育むことを目的に「世界子ども愛樹祭コンクール」を企画・実施してきた。

今回、33回までに世界24ヶ国、国内46都道府県より絵画55,277点、詩・作文19,510点、木はがき9,653点と多大な成果を上げてきた。特に、今回の授賞式では、森林講話として地元の林業家による子ども達へ樹木の大切さや役割などの講話を取り入れ、小さな子どもにも分かりやすい内容で、盛会裏に終えることが出来た。

2. 活動の成果

今回、香川県をはじめ、県内の入賞者に出席していただいた。

授賞者を歓迎する民謡などは、特に初めて聞いたという声が多くあり、矢部村を知っていただくうえで、なくてはならない演出となったようだ。

記念植樹は数日前からの大雨により、受賞者の安全を考慮したうえで予定の場所で行えなかったのは残念であったが、簡易的でも、記念の植樹を行うことで、皆さんに理解を得られ、式典の中の森林講話で樹木の大切さを学び、植樹が初めての経験の方もありよかったと思う。

実績報告とりまとめ表

実施時期	12月9日	1月17日	3月24日	3月24日	計
事業内容	一次選考会	最終選考会	授賞式	記念植樹	
参加者数	33名	8名	220人	36名	297名
実施場所	福岡県八女市	東京都台東区	福岡県八女市	福岡県八女市	

第11回もりもりひろがる森林づくり (A-102)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

糸島市二丈福井のこの地は、昭和30年代に植栽され現在伐採適期を迎え、このままの状態では、山林の有する多面的機能の低下が懸念される。

この地を糸島市民・環境ボランティア団体の協力を得て広葉樹の苗を植え、将来子供たちが自然を感じ、また近くの真名子キャンプ場利用客の森林浴及び自然観察会等の場として利用するとともに、水源涵養機能を発揮する森づくりを目指している。

また、今回の植樹イベントが糸島市民の自然環境学習の場となるとともに、市内の自然環境団体間の交流の場となることを願い、開催した。

2. 活動の成果

スギ林の伐採後、生物の多様性に富む森になるよう期待して落葉広葉樹を中心に植栽した。市の木であるイロハモミジを始め、子供たちに森に興味を持ってもらえるようクスギ・クリを加えた。

クスギ・クリ林としたのは将来カブトムシの森として、また、椎茸原木としての利用を目指す。

ボランティア団体と森林組合との合同の作業は、相互理解、技術の習得など、森林ボランティア活動の参考になった。

また、糸島の産業の1つであるカキ養殖の漁業協同組合との作業も、「森の恵み」に関しての理解を深めてもらった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2月14・16日	2月17日	計	備考
事業量	イベント準備作業 (資機材搬入・搬入・配置)	第11回もりもり広がる 森林づくり本番		
参加者数	13人	スタッフ含め93人	106人	
実施場所	福岡県糸島市二丈福井355-1の一部			

花立山の里山保全作業 (A-103)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

花立山(標高130.5m)は市内で唯一の里山であり、この山が持つ自然、歴史、景観などを地元住民をはじめとする市民に山のすばらしさを再確認してもらうため、下草刈り作業及び除伐、植栽作業及び里山の散策、木工教室等を実施した。今回新たな取組みは、アンビネット小郡市地域連携協議会が主催の「アンビシャスフェスタ」のイベントの中で巣箱づくりを実施した。この催しは、こどもたちの居場所づくりの取組みを行っており、当日の参加者は、多くのこどもたちが巣箱づくりを体験した。

2. 活動の成果

下草刈り作業、除伐作業及び植栽作業は、山麓を中心に行っていたが、今回も昨年に引き継ぎ山頂付近の作業江尾実施し、ヤマザクラの植栽を行うことができた。この作業において、地元立石校区の住民の方に参加していただいた。今後は山頂付近の保全作業にも力を入れ、下草刈り作業を含めた保全作業を進めていきたい。

3. 参加者の声

初めてみんなで歩こう花立山の散策に参加された方からは、散策道以外のルートでの散策で、荒廃した山林、歴史的に貴重な山であることを再認識されました。

ヤマザクラの植栽ができたことは、これからは、桜が大きくなり花が咲くまで山頂への散策の楽しみが増えた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月日	計	備考	
事業量 又は 事業内容	里山保全 作業	令和5年7月15日 令和5年10月28日 令和6年2月3日 令和6年3月16日 令和6年4月27日	参加者15名 参加者13名 参加者14名 参加者14名(植栽含む) 参加者11名	計5回
	環境教育	令和5年10月15日 令和5年11月3日 令和5年11月26日 令和6年5月3日	参加者15名 参加者24名 参加者25名 参加者50名	計4回
参加者数	県内 県外 計	181人 0人 181人	181人 0人 181人	
実施場所	福岡県小郡市干潟(通称:花立山)			

里まちサイクルプロジェクト（A-104）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

未来の子ども達に豊かな自然環境を引き継ぐために、森林資源の整備を行う。また、青少年が森林を身近なものに感じるためには、参加して楽しく学習できる体験型の環境教育を行い、次世代のリーダー育成のための普及啓発事業を行う。多くの方々に森林の現状を理解し森林資源の整備等の必要性を理解してもらうためにも活動を行なっている。

「内容」

- ①里山の保全活動を行う・・・竹林の整備により発生した竹林の有効利用（循環・再生）を行う。
- ②竹を活用した環境教育を通して、守り育てる学習・・・竹細工・竹でパンを焼く、竹筒ご飯・筍掘体験。迷惑物のカズラと木の実を取って、クリスマスリース作り等
- ③竹の再利用と活用・・・「ミニ門松作り」

2. 活動の成果

○里山の保全活動を通して、自然環境学習の開催を行い、多くの方々に里山の現状を見てもらい、森林の役割と大切さをご理解いただけた。自然環境教育を待ち望んでいる人々が多く、体験を通して子供達に森林の果たす役割の大きさと、守り育てていくことの大切さを理解してもらえた。また、竹の再利用では、「ミニ門松作り」等は、日本文化の良さを青少年から高齢者までが、体験でき、大変好評をいただいています。多くの方々に森林の良さを体験していただくことができました。今後も、森林の良さ、大切さを多くの方々に知らしめていきたいと思えます。

3. 参加者の声

- 森林や自然環境について考える機会があまりなかったのですが、参加して、身近に感じ、もっと自然環境に関心を持ちたいと思いました。
- 日頃体験できないことばかりで、いい体験になりました。
- 機会があればまた、参加したいです。
- 自然の物ばかりでリースをつくる体験ができて最高でした、また、知らない木の実を初めてみました。
- 初めて筍掘りに参加しました。初めての参加でしたが、楽しいやら掘るのが大変やら、竹林の状況を見ることができて、良かったです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2023年7月13日～2024年4月6日	2023/9/9～2024/4/6	計	備考
事業量	緑化維持活動	自然環境教育・竹の再利用/ 里山維持活動	23回	
参加者数	整備 59人	環境教育 414人	計 493名	
実施場所	福岡県 福岡市・早良区・西区			

森を五感で感じよう（森林体験活動）（A-105）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

自然を五感で感じながら森林内で活動する。森林内で体感する驚きや発見を通じて森林に親しみ、その働きや仕組みについて学ぶ。

2. 活動の成果

- ・遊歩道の整備を通じて少しの整備でも気持ちの良い森づくりができることを体感し小枝を使って火起こし体験などをして整備の大切さを学びました。
- ・普段気づかないツルを除去して森の植生とツルの特性について学びました。樹木の学習では冬の樹木の姿を観察して、森を散策する人たちに見てもらえるのを願いながら樹名板を取り付けました。
- ・シイタケの駒打ちでは初体験の方も多くキノコについていろいろ学びました。
- ・バードウォッチングではいろいろな鳥が寒い冬でも飛び回り生態系豊かな森について学びました。
- ・野草の学習では食べられる野草を採集して試食し森の豊かさについて学びました。
- ・森林内での活動は普段の生活では味わえないものがあり、自然の素晴らしさや楽しさを五感で体感し、驚きや発見に感動することで森林の働きや大切さ学ぶきっかけになります。これからも健全で豊かな森林を次世代へ引き継いでいく未来につながる森林活動を行っていきます。

3. 参加者の声

- ・山の整備で木をのこぎりで切るのが楽しかった。
- ・野イチゴがおいしかった、大きいミズや沢ガニを見つけた。
- ・ツルをみんなで協力して採ってツルの感触を感じながら工作をして楽しかった。
- ・森の空気がとても気持ちよかった。
- ・樹名板をみんなで取り付けながら去年取り付けた巣箱を掃除したがとても楽しい森歩きでした。
- ・シイタケの植菌作業が大変手間のかかることを学びました。ホダ木に穴をあけて種駒打ちをしたが貴重な体験ができてよかった。
- ・野鳥探しは難しいが双眼鏡でシジュウカラが見られてうれしかった。いろいろな鳥が何なのか分かるようになりたい。
- ・雑草にしか見えなかった植物が食べられることに驚いた。野草のてんぶらは初めて食べたがおいしかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月5日	12月2日	1月6日	2月3日	3月3日	3月30日	備考
事業量 又は 事業内容	6回 遊歩道整備 と森の学習	ツルの除去 と利用	樹木の学習	シイタケ 駒打ちと キノコの学習	初春の森で バード ウォッチング	野草の学習	
参加者数	県内 28人 県外 0人 計 28人	11人 0人 11人	10人 0人 10人	14人 0人 14人	28人 0人 28人	22人 0人 22人	合計 113名
実施場所	福岡県糟屋郡宇美町 太宰府市観世音寺						

森川海人っフェス！（A-106）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林・緑を県民みんなの財産として社会全体で守り育て、次の世代に引き継いでいくという意識の醸成を図るため、国土緑化運動・育樹運動標語等の表彰、木工工作コンクール及び高校生建築設計競技の表彰並びに作品の展示を行うとともに、併催イベントや木材関係団体等のPRコーナーを設けて緑化や木材普及の推進を図った。

〔事業の実施内容〕

- ①式典：国土緑化運動・育樹運動標語及びポスターコンクールの知事賞表彰、県内児童・生徒木工工作コンクール、県下工業高校建築設計競技会の表彰式を行うとともに、木工工作コンクールと建築設計競技入賞者の作品展示を行った。
- ②併催イベント：木工工作、木の実工作、かんなくず工作などの体験イベント及びさがの樹プレゼント、県産木材PR・林業就業相談コーナー、住宅・耐震相談コーナー、親子で学ぶゲーム、もりかわうみバーガー作り、チェンソーアートやビーグルクルートーク&ミニライブなど多彩な催しを行った。

2. 活動の成果

緑化や木材に関する表彰を実施することにより緑化の大切さを認識してもらうとともに、木や木の実を使った工作などにより木のぬくもり、すばらしさ、楽しさを実感してもらった。

3. 参加者の声

アンケートの結果では、「森林を大切にしたい」、「木の良さが分かった」、「チェンソーアートが良かった」、「いろんなイベントがあって良かった」などたくさんの感想を頂きました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月19日（日）	備考
事業量	・標語、ポスターコンクール、木工工作コンクール等の表彰 ・木工工作体験など各種イベント実施	
参加者数	約2,500人	
実施場所	佐賀市日の出 SAGA サンライズパーク（SAGA アリーナ周辺）	

緑の探検学習会（C-45）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県内の緑の少年団員と指導者を対象に、野外の体験学習を通じて自然や緑の大切さを実感してもらい、少年団活動発表会や団員の交流会を盛り込むなどして、緑化活動や環境美化に積極的に参加する心を育てることを目的として、探検学習会を開催した。

〔活動の実施内容〕

午前

- ① 5団による活動発表
- ② 活動発表大会の表彰式及び閉会式

午後

- ① 公園樹木の高さ調べ

グループに分かれて、会場内の公園の樹木をマップをたよりに探して、測定器を使って木の高さを調査・記録。そのデータを電子樹木図鑑に掲載していつでも見られるようにして、身近な樹木への関心を高めた。

2. 活動の成果

地区代表による活動発表を通じて、緑の少年団の活動の活性化が図られた。

また、専用の器具を使った樹木の高さ測定などにより、身近にある様々な樹木の種類や特徴を調査・記録することにより、樹木への関心を高めるとともに、活動を通じ少年団相互の交流が図られた。

3. 参加者の声

子供たちは、大変元氣よく、最後まで熱心に学習会に取り組んだ。「体験等を通じて、多くのことを学べた。」「友達と協力して楽しむことができた。」などの前向きな感想が多かった。

また、大人からは、少年団活動への理解が深まったことなどの声があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月26日	備考
事業量	・5団による少年団活動発表大会 ・公園樹木の高さ調べ	
参加者数	87人（少年団員50人、指導者24人、スタッフ13人）	
実施場所	白石町総合センター	

森林のつどい事業（A-107）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・県民が森林と親しみ、ふれあい、楽しむ場の提供を通じて、森林を守り育てていくことの大切さを広く理解してもらうため、長崎県民の森で「ふるさとの森フェスタ」を実施した。
県民の森のテントサイトを活用して、各コーナーで高性能林業機械体験、木工クラフト、竹細工、薪割り、ネイチャーゲーム等様々な体験を実施した。また、県民の森の林内を散策する「森林ウォーキング」や「自然観察ウォーキング」を実施した。
- ・長崎市日吉自然の家、西海市西彼青年の家、国立諫早青少年自然の家で、小学校4年生～6年生を対象に、木育キャンプ（森のつどい）を開催し、スツール作り、家具工房見学、森林散策観察、のご挽き、薪割り体験、木工クラフト、木登り、空中回廊体験、木材加工工場端材利用のネームプレート作りを通じて、森林、木材加工、資源の有効活用の大切さを学んだ。

2. 活動の成果

- ・「ふるさとの森フェスタ」では、家族で参加された皆さんが森林に親しみ、県民の森で1日楽しく過ごす姿が見られた。また、親子で木材や竹細工で楽しく工作する姿が見られた。森林ウォーキングは毎回多くの参加希望者があるが、IPなど案内人、バスのキャパシティーなどで、現状以上参加者が増やせない。時期や有料化も検討したい。
- ・木育キャンプ（森のつどい）では、次代を担う子供たちが森林の働きなどを学び、各所で木材加工工場や家具工房などと連携し貴重な体験ができた。児童・生徒の森林に対する関心を高めるためにも、今後も継続して実施していきたい。

3. 参加者の声

- ①植物の名前をたくさん知ることが出来てよかった。②植物観察により、私たちの周りにも素晴らしい樹木があるのだと感じました③家族で色々な体験ができて楽しかった。④森を守っていかないと地球温暖化が進んでしまうということを学んだ⑤植物も生きているんだなあと思いました⑥リスが隠したどんぐりが木になることが一番心に残った

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年 10月14～15日	令和5年 11月3日	令和5年 11月18～19日	令和5年 10月29日	計
事業量	木育キャンプ ～森のつどい～	ふるさとの森 フェスタ	木育キャンプ ～森林を学び、木から 創り、木と遊ぶ～	木育キャンプ ～端材を使ってネーム プレートを作ろう～	
参加者数	40人	684人	16人	575人	1,315人
実施場所	長崎市	長崎市	西海市	諫早市	

緑の少年団活動活性化事業（C-46）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・緑や自然と接することにより、緑を守り・育てる心、協調性豊かな心等を養成するとともに、「緑の少年団」活動の一層の活性化を図るために、6月の環境月間及び秋期における地域の公共施設等への花苗植栽活動を実施した。
また、緑の少年団地域交流集会在3地区（五島地区、県央・県北地区、壱岐地区）で開催された。

2. 活動の成果

- ・地域での花苗の植栽活動を集団で体験することにより、自然の大切さや地域の環境を守ることの大切さを学んでもらった。
- ・秋期花苗植栽で14団、団員302人、指導者等82人の参加があった。また、6月（環境月間）花苗植栽では、17団、団員375人、指導者91人等の参加があった。
- ・地域交流集会在3地区（五島地区、県央・県北地区、壱岐地区）で開催された。
- ・参加者は、13団団員136人、指導者等109人合計245人で、活動発表、ネイチャーゲーム、木工体験等、新型コロナウイルス感染症の流行で、緑の少年団活動が従来どおりできない中で、学校や家庭で木製の本立て作成を体験してもらい、木材の大切さや木材の利用についての再認識が図られた。

3. 参加者の声

- ・花苗の植栽活動を集団で体験することにより、緑を愛する豊かな心身が養われた。
- ・公共施設等での植栽活動により奉仕の精神が養われた。
- ・花苗の植栽活動では、花壇等に植栽する際、花の配置や植え方について勉強になった。
- ・みんなで花苗を楽しくきれいに植えることで、緑の少年団としてのつながりが強くなった。
- ・木製の本立てなど作ったことがなかったが、初めてなのによく作れて楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年 8月～11月	令和5年 10月～11月	令和6年 6月1日～6月30日	計
事業量	地域交流集会（五島、県央・県北、壱岐地区） 指導者 42名 団員 136名 その他 67名	秋期花苗植栽活動 3,520本	6月環境月間花苗植栽 6,170本	
参加者数	13団 245人	14団 384人	17団 466人	1,095人
実施場所	佐世保市、福江市、壱岐市	県下一円	県下一円	

森のめぐみいきいき活用促進事業（C-47）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・林業に関する地域の中核的担い手である林業研究グループが、林産物の展示・販売や木工体験を実施し、都市の人々との交流を図ることで、山村の現状や森林資源の有効活用について理解を深めてもらうとともに、木材の多様な利用やその他の林産物の活用を促進するため、「森林のめぐみ展示会」を開催した。

2. 活動の成果

- ・燻製チップや木製のちゃぶ台、ツバキの木工品、苗木、しいたけ等の林産物の展示・販売並びに木工製品の製作を通じて、間伐材の有効利用、木製品の良さ、森林の恵みの豊かさを都市住民へアピールすることができた。

3. 参加者の声

- ・普段は山の中で活動しているが、都市部の方と交流できて刺激になった。
- ・木工製品や林産物の展示・販売では多くの市民が立ち寄っていた。
- ・間伐材の木工品や椿の木工品では、製品の説明に興味深く聞く姿が見られ、多くの方に購入してもらった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	3月13日	計	備考
事業量	林研グループ7団体及び諫早農業高校他2団体		
参加者数	37人	37人	
実施場所	長崎市		

くまもと森づくり普及・啓発事業（A-108）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

事業実施主体：(公社) 熊本県緑化推進委員会

共催：(株) 熊本放送

目的：くまもとの豊かな緑を守り育てる「緑の財産づくり」を推進するため企業とともに緑化推進キャンペーンを展開している。募金期間に森林とのふれあいイベントを開催し、県民参加の森づくりの一層の推進を図る。

内容：公募による参加者（家族等）が熊本市立立田山の自然とふれあう「立田山グリーンウォーク」を開催し、熊本県インストラクター協会会員の指導のもと、秋になりつつある森林の様子を観察したり、森林の話聞きながら森を散策した。

また、散策後竹トンボ協会の協力で竹クラフト教室を開催し、家族で楽しく木竹とふれあう時間を過ごした。（当日の状況は別添写真のとおり）

2. 活動の成果

森林にふれあうことで森林の大切さに対する理解者が増え、県民参加による「緑の財産づくり」の推進が図れた。

3. 参加者の声

自然観察会では森林インストラクターの方々から秋の時期に特徴的な木や草花の話が聞けて勉強になった。

また、竹トンボ協会の方々からの指導により作った竹トンボが非常に良く飛んで楽しかった。

今年はマスクもはずしての開催となったが、感染防止対策を徹底しつつ、家族が楽しめてとても良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月16日	計	備考
参加者数	115人	115人	
実施場所	熊本市黒髪 立田山いこいの森（多目的広場）		

緑の少年団活動育成事業（C-48）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

自然の中で緑を愛し守り育てる活動をはじめ、地域社会での奉仕活動や交流等の野外活動を通して心豊かな人に育つことを目的とした緑の少年団の交流集會を支援する。

2. 活動の成果

7月28日に五木村五木源パークで開催。マスクを外しながらも感染対策はし、十分に注意を払って楽しく少年団間の交流ができた。

また、くまモンTシャツは希望の少年団に配付した。

3. 参加者の声

久しぶりに声を出しながらほかの少年団のみんなと交流ができてとてもうれしかった。

来年も交流集會もたのしみにしています。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月28日	計	備考
参加数	100名	100名	スタッフ含
実施場所	五木村五木源パーク		

シンボル森林の活用促進事業 (C-49)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

目的：県指定の「熊本ふるさとの森林」森林や市町村が設定したふれあいの森林等地域を代表する森林の利用促進を図るため、森林の内容や散策路等施設の情報を記した総合案内板の設置や補修を行う。

内容：案内板の表示内容の改訂・補修

熊本県八代市にある八竜山自然公園は、標高約500メートルの八竜山の山頂に位置し、八代市街地や八代平野、八代海、天草、宇土半島など、360度の大パノラマを望むことができ、公園内には、展望台、遊歩道、宿泊施設、バーベキュー場などがある。展望台からは、天気の良い日には、熊本城や長崎県の雲仙まで見渡すことができる。また、夕日や夜景も美しく、ロマンチックな雰囲気を楽しめる。

今般、案内板が劣化していたため、より多くの方に散策が楽しめるよう改修した。

- ・森林総合案内板 1基
- ・表示板 W = 1,855mm H = 920mm

2. 活動の成果

森林にふれあうことで、森林の大切さに対する理解者が増え、県民参加による「緑の財産づくり」の推進が図られる。

3. 参加者の声

当該公園は令和2年7月豪雨で甚大な被害を受けた旧八代郡坂本村にある。熊本県八代地域振興局林務課の職員によると、今回の案内板の改修により、豪雨被害により途絶えていた交流人口の増がはかられ、地元の復旧復興に資するものとして重要であるとの感想が寄せられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月～12月	計	備考
事業量	案内板1基補修	案内板1基	
実施場所	熊本県八代市坂本町中谷は335-2		

施工前



施工後



シンボル森林の活用促進事業（C-49）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

目的：県指定の「熊本ふるさとの森林」森林や市町村が設定したふれあいの森林等地域を代表する森林の利用促進を図るため、森林の内容や散策路等施設の情報を書いた総合案内板の設置や補修を行う。

内容：案内板の表示内容の改訂・補修

熊本県水俣市の中尾山公園は水俣市の市街地近郊の標高333mに位置し、駐車場の展望台からは市内を、頂上の展望台からは不知火海を一望でき、天気よければ長島の風車や雲仙も眺めることが可能。駐車場と展望台をつなぐ通路として中尾山スカイロードも設置されている。また中尾山は市民のウォーキングコースやハイキングコースとして利用されており、春には菜の花・桜、秋にはコスモスなど四季折々の花で来園者を楽しませてくれている。

今般、案内板が劣化していたため、より多くの方に散策が楽しめるよう改修した。

- ・森林総合案内板 1基
- ・表示板 W = 2,910mm H = 1,910mm

2. 活動の成果

森林にふれあうことで、森林の大切さに対する理解者が増え、県民参加による「緑の財産づくり」の推進が図られる。

3. 参加者の声

水俣市は環境未来都市づくりを推進しており、市民の森づくり事業などを通じて、市民が主体的に緑化活動に参加している。水俣市役所の職員によると、中尾山公園は環境緑化を進める上で市のシンボルともいえるべき存在であり、今回の改修がその取組の一助になるものとの声があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月～12月	計	備考
事業量	案内板1基補修	案内板1基	
実施場所	熊本県水俣市長野字龍平855		

施工前



施工後



ふれあい森林教室（A-109）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

キャンプ生活や自然観察会等を通じ、自然とふれあい、森林の持つ多様な機能を学ぶと共に、家族や友達の絆を深めることを目的として、ふれあい森林教室を開催した。

22日（土）木工クラフト教室（木の枝を使ったスプーン・フォーク作り、木製お箸作り）、野外での食事、キャンプファイヤー、レクリエーション

23日（日）森林ネイチャーゲーム（カモフラージュ）、森の自然観察会、竹馬遊び体験

2. 活動の成果

木工クラフト教室のスプーン・フォーク作りでは、木の枝の皮を剥いたり削ったり切ったりし、直接手で触ることで、木の材質を肌で感じて貰った。キットを使ったお箸作りでは、使い慣れない道具を使い、試行錯誤しながら木を削りお箸を作成した。食器を自分にあったサイズに仕上げる事で、それぞれ違った形の物が出来上がり、個性豊かな感性を養う事ができた。夕食づくりでは、薪を燃やし火を使った飯ごう炊飯を行ったり、日常では経験出来ない事を体験して、より自然とのふれあいを感じて貰う事ができた。キャンプファイヤーでは、参加者の中から選出した、火の神・火の子が協力し力を合わせ点火の儀式を行った。その後指導者のもと、参加者同士一体となってレクリエーションを行い、楽しさを共有することが出来た。

森林ネイチャーゲームでは、「カモフラージュ」を体験。自然とはミスマッチな物の数を1人1人に答えを聞く事で、個人の注意力を養った。自然観察会では、人と森との関わりを交えながら、自然の中で生きる生物や、植物の特性についての学習を行った。最後は竹馬乗りに挑戦した。昔の遊びを通じ、親子や友達同士がお互いに補助し協力し合う、楽しいふれあいの場を提供することが出来た。

全体を通して、自然と人との関わりを理解し、自然に対する親しみや関心が深まった事を感じる事が出来た。今後も自然とふれあえるキャンプを継続すると共に、新たな活動を取り入れながら実施して行きたい。

3. 参加者の声

- ・カモフラージュのさがしゲームが面白かったです。
- ・いろんな物や知らない物を見てとても楽しかったです。
- ・いろいろな知識が得られて良かったです。
- ・子供たちの興味のあることを、ゆるーい感じに教えていただきとても楽しめました。
- ・毎回いろんな催し物を企画されていて、とても子供たちが喜んで満足しています。
- ・毎回大自然いっぱいでの催し、ありがとうございます。
- ・親しみやすく、子供も気軽に話しかけられました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月22日	7月23日	計	備考
事業量	・木工クラフト教室 ・野外炊飯 ・キャンプファイヤー ・レクリエーション	・森林ネイチャーゲーム ・森の自然観察会 ・竹馬遊び体験		
参加者数	40人	40人	40人	
実施場所	大分県大分市大字高原	平成森林公園キャンプ場		

大分県農林水産祭林業部門（木と暮らしのフェア）（A-110）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森林は、木材・竹材・椎茸など林産物の生産を通じて、水源のかん養や災害の防止、大気の浄化など、健康で快適な生活環境を形成するうえで大きな役割を果たしている。これら森林の持つ多面的な機能の発揮には、森林林業・木材産業が健全で活力ある状態であることが必要であり、そのためには木材利用の推進が不可欠である。

上記のことから、木材とのふれあいの場を広く県民に提供し、木材に対する理解を深め、さらに、県産材を中心とした需要を喚起し、県内の森林・林業・木材産業の活力を高めていくため、令和5年度農林水産祭林業部門を開催する。

2. 活動の成果

木とのふれあい、体験・学習・PRコーナーや、木製品・林産物等の販売コーナーを通じて森林・林業・木材に対する理解を深めてもらうことにより、木材の利用や森林の大切さについて普及啓発を図ることができた。

これからもイベント・出店内容、駐車場を含めたアクセス、雨天対策、休憩場所等への要望をできるだけ反映し、秋の大分県の大規模なイベントとして定着している当フェアをさらに充実させていきたい。

3. 参加者の声

- 子どもとできる体験がいっぱいでよかった。
- 自然に触れたり学べたりしたのがよかったです。
- 毎年楽しみにしています。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月21日	10月22日	計	備考
事業量	木製品・林産物・緑化木等の販売、ジビエ「森のレストラン」、木工教室の開催、木箱、コースターづくり等、林業体験・学習コーナー、木育コーナー（2万枚の積み木広場、ジャンボジエンガ、木の卵釣りゲーム等）、木造ユニットハウスの展示、新世代の森林づくり展示コーナー（早生樹苗等の展示、森林クラウドシステムの体験）			
参加者数	-人	-人	75,000人	
実施場所	大分県別府市（別府公園）			

大分県みどりの少年団のつどい（A-111）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

大分県下のみどりの少年団が一堂に会し、自然とのふれあいを通じ、森に遊び、森に学ぶことを目的に実施を行った。当初は1泊2日の森林宿泊研修を計画していたが、県内の新型コロナウイルス感染症の拡大を受け急遽、日帰り研修に変更した。今回は大分県樹木医会の指導により子どもの樹木診断体験「木のお医者さんになってみよう」を行い樹木を教材に森林の学習を行った。

2. 活動の成果

「木のお医者さんになってみよう」では参加者を10班に分け、グループごとに樹木医が講師となり活動を行った。樹木のこと以外でも、樹高の回り方などを子供たちがみんなで考え、いろんな手法を試し、実践することで深い学びに繋がっていることが、グループごとのまとめの発表を聞いて解りました。森林が学びのフィールドになることを改めて実感しました。

3. 参加者の声

- ・森林の持つ様々な機能を学ぶことが出来た。
- ・直角二等辺三角形と巻尺で樹高を図ることが出来た。
- ・葉っぱの色や大きさで樹木の健康が判断出来ることがわかった。
- ・森林内はとても涼しく、樹木や森が大切なことがわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月29日	備考
事業量	・活動紹介 ・木のお医者さんになってみよう	
参加者数	みどりの少年団9団 138名	
実施場所	大分市立のつはる少年自然の家、全国植樹祭会場周辺	

名木保全事業（B－3）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

目的：県内の名木について現地調査を行ったデータに基づき、診断結果が不良な樹木について、保育・保全を行いさらに文化的な活用を図るものとする。

- 内容①実施主体 公益財団法人森林ネットおおいた
 ②実施時期 令和6年2月～令和6年3月
 ③実施場所 大分県全域（今回は別府市）
 ④事業内容 樹勢等の健康度などを基に治療を行った。

2. 活動の成果

調査・治療木

①バクチノキ（別府市朝見2丁目）

市指定木である巨木のバクチノキをアラカシ、ムクノキ等が被圧し生育状況が悪くなっている。枯れ枝も多く見られ倒木等の危険性があるための被圧木の除去と枯れ枝除去等の保全治療を行った。

3. 考察

①バクチノキ

手入れ不足であったため、樹木の生育状況が悪くなっていたが、今回の被圧木の除去、枯れ枝除去により、樹勢が回復していくことが期待される。また、枯れ枝を除去したことで落下による建物や人への危険は防止された。

森林ボランティアリーダー養成研修（C－50）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

大学の森林ボランティアサークルを対象とした森林整備の研修を行い高度な知識、技能を有する森林ボランティアリーダーを養成する。

山林所有者と協定を交わしたフィールドを使い現況調査から森林整備の事業計画を作成し、実際に施業しながら、林業従事者の専門知識を活用し研修を行う。

2. 活動の成果

昨年度に引き続き山林所有者と協定を交わしたフィールドを使い、今年度は森林内歩道整備、竹等の除伐、日本の森林についての講義、里山の特性についての現地研修を行った。森林内の整備では主に除伐した竹などを集積し歩道の補強をした。日本の森林についての講義は動画をもとに学習し、里山の特性については実際に現地の森林に触れながら研修を行った。

3. 考察

- ・年々整備していくことで、きれいになっていくのがわかり、森林に対する意識がより高なった。
- ・講義で学んだ事を実践することが出来、とても勉強になった。
- ・天然のヤマイモを初めて食べる事ができた。
- ・原木シイタケなど、山の中のとれる山菜に興味をもった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月9日	12月9日	1月19日	2月9日	計	備考
事業量	森林内歩道整備除伐	里山の特性について（研修）	日本の森林について（講義）	里山の恵み（研修）		
参加者数	7名	7名	8名	7名	29名	
実施場所	大分市久土（NBUの森）					

緑と花のふれあい推進事業（A-112）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

県民に身近な緑とふれあう機会を提供し、緑の大切さを認識させるとともに、緑を愛する心を育むため、県民から公募した受講生を対象に、専門講師の指導の下、年間スケジュールに基づく「緑と花のふれあい教室」を開催し、土づくり・播種・挿し木・取り木・接ぎ木・病虫害防除等の技術・知識を習得させるとともに、受講生が実習で生産した緑化木等を広く県民に配布して、県民緑化運動推進の一助に資する。

2. 活動の成果

- ① 受講者は、緑化用苗木や花の養成技術の習得を通じて、緑への関心や理解をさらに深めることができた。
- ② 生産された緑化木を街頭やイベント等で配布することによって、緑に関する普及啓発活動や県民緑化運動の推進に寄与することができた。
- ③ 「緑と花のふれあい教室」を継続的に開催することで「緑の募金」の推進につながっている。

3. 参加者の声

参加の動機は、樹木や草花への興味、緑化木養成技術の習得、ボランティア活動への興味等が主である。参加者からは、①緑化木の種類を覚えるとともに苗木づくりの知識や技術が深まり、最新情報の交換ができる。②多くの方々と交流ができて楽しい。③家庭において緑化木を管理する上で、講義の中での質疑応答等、実践的な内容であり役立っている。④自分たちの育てた緑化木がいろいろな場所の緑化に役立っていることが嬉しい。⑤月々のボランティア活動が生き甲斐になっている等、多くの意見が寄せられている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和5年4月～令和6年3月	計	備考
事業量	月1回のペースで当初の計画どおり実施	12回	
参加者数	受講生 77名	延べ 755名	
実施場所	宮崎県小林市野尻町（宮崎県緑化木養成圃場）		

森林浴癒しの集い事業（A-113）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

広く県民から参加者を募集し、日之影町森林セラピー基地において、森林セラピーに関する学習や散策を行うことにより、森林の持つ癒し効果と森林や緑への理解と認識を深めさせ、県民参加による森林・緑づくりを推進する「森林浴癒しの集い」を開催した。

2. 活動の成果

宮崎県内にある森林セラピー基地を散策することにより、参加者が自然に親しみ、森林の持つ「癒しの効果」を五感で満喫することによって、自然の大切さや環境、森林づくりなどの理解を深めることができた。この集いは、参加者からの評判も良く、また、日常生活では味わうことの少ない自然体験を通じて、森林の素晴らしさを広く県民に再認識していただくことのできる重要な活動であると考えられる。

3. 参加者の声

- ・川のせせらぎや山道脇の木々、植物に癒された。
- ・森林浴、トロッコ道、水の音、風の音、5感で心身ともリラックスできた。
- ・案内人が博識で、説明がよく理解できた。
- ・川沿いでの瞑想は、癖になりそうです。
- ・個人ではなかなか行けそうでないので、大変良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月28日（火）	計	備考
事業量	森林セラピーの講義 トロッコ道の散策		
参加者数	31名 (参加者24名+講師4名+スタッフ3名)	31名	
実施場所	宮崎県日之影町 (森林セラピー基地 トロッコ道)		

かごしまの緑・元気な森林体験事業（A-114）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・県や関係機関団体との共催で、「みどりの感謝祭」や「九州森林の日活動」「かごしま木材まつり」などの全県的なイベントを開催し、森林ボランティア団体の協力のもと、森林・林業体験として、木工クラフト教室や、緑の教室、森林内の散策などの体験教室を実施した。
- ・県内の各支部では、地区植樹祭や木材まつりを開催し、地球温暖化防止をはじめとする森林の多面的な役割を理解させるとともに、木材に触れて親しむ機会の創出に努めた。

2. 活動の成果

- ・「共生協働」の理念のもと、県や各市町村、森林管理署、林業関係団体、森林ボランティア団体と連携して、さまざまな普及啓発イベントを円滑に開催できた。
- ・それぞれのイベントでは、森林ボランティア団体が周到な準備のもと、体験学習や環境教育に積極的に取り組んでいただき、初期の目的を十分に果たすことができた。
- ・今後ともさらに連携・協力体制を充実させ、積極的な普及啓発や情報発信に努めることとしたい。

3. 参加者の声

- ・ようやく新型コロナウイルスが収束し、多くのイベントが通常開催ベースに戻り、参加者数も増えてきた。来場者それぞれが、様々な森林・林業体験を楽しむ姿をとっても嬉しく思った。
- ・降雨の後のぬかるんだ急斜面で木を植える活動は、なかなか困難であったが、子供たちと連携しながら、楽しく植えることができた。
- ・苦労した分達成感も大きく、子供たちも喜んでいて、この貴重な体験は、大切な思い出として、いつまでも記憶に残ることだろう。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R5.10月～R6.2月	R6.4月	計	備考
事業量	・かごしま木材まつり木製品展(9000人) ・九州森林の日植樹祭(289人) ・支部植樹祭(6地区)(709人)	みどりの感謝祭		
参加者数	9,998人	1,000人	10,998人	
実施場所	鹿児島市、薩摩川内市他	始良市(県民の森)		

かごしまの名木古木樹勢診断事業（B-4）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・県や市町村、教育委員会を通じて事業要望を募ったところ、2市町から、3ヶ所3本の樹勢診断要望があった。(内訳：神社1ヶ所、その他2ヶ所)
- ・日本樹木医会鹿児島県支部に調査業務を委託し診断を行い、全ての調査が終了したあと、その診断結果については各申請者に通知した。
- ・今後の診断向上のため、同樹木医会と共催で、被害状況の把握及び保全処置の手法等について研修を4月に計画していたが、雨のため、やむなく中止とした。

2. 活動の成果

- ・保全作業については、現場担当の樹木医と地元関係者が調整を図りながら、円滑に進めることができた。
- 【鹿児島市】・クロガネモチ：1本
・イチイガシ：1本
- 【徳之島町】・リュウキュウマツ：1本
- ・当初4～5本程度の申請があるものと想定していたが、3ヶ所(3本)の要望があった。今後も更なるPRに努め、事業の掘り起こしに努めたい。

3. 参加者の声

- ・昔から自治会のシンボルとして見守ってきた、イチイガシの樹勢に元気がなく、心配していたが、樹木医の方々に診ていただく機会が得られて良かった。土壌改良や大枝の枯枝も伐採してもらい、安心した。
- ・これからも地域のシンボルとして、末永く見守っていききたい。
- ・地域に伝わる樹齢300年を超える有名なマツの木が、シロアリ被害などにより弱ってきていた。離島であるため、本島の樹木医による診断・処置等を受けられることは難しいだろうと半分諦めかけていたが、今回、無事に適切な処置をしてもらうことができた。
- ・地域の人々とともに長い歴史を生きてきた貴重な木を守ることができて、本当に良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R5年11月～12月	R6年3月～5月	R6年4月	計
事業量	・樹勢診断 3ヶ所3本 ・樹勢診断書作成 3件	保全工事(2箇所)	・樹勢診断にかかる現地研修会(雨のため中止)	
参加者数	1団体 (日本樹木医会鹿児島県支部)	1団体 (日本樹木医会鹿児島県支部)	-	1団体
実施場所	樹勢診断・保全処置：鹿児島市、徳之島町/研修会：中止			

活力のある緑の少年団活動促進事業（C-51）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- ・緑を守り育てる活動を通じて、豊かな心を育成するため、県内で45団の緑の少年団が育成会や森林ボランティアの方々の指導のもと活動している。
その活動のより一層の活性化を図るため、緑の少年団活動発表大会を開催するとともに、交流集会等開催した。また遠隔地からも参加できるよう交通費助成等を行った。
また各地域単位で開催されていた交流集会も、新型コロナウイルスの終息により、久しぶりに4地区で開催することができた。

2. 活動の成果

- ・例年開催している活動発表大会や緑化イベントを通じて、団相互の親睦が図られるとともに、情報が共有され、活動内容も多岐にわたってきている。
近年は、児童数の減少により小・中学校の統廃合が進み、緑の少年団数も減少傾向であるが、緑化活動を通じた情操教育は、郷土や自然を慈しむ心を育てるとともに自然界における人間の役割を理解させる大切な環境教育である。
今後とも、関係団体と連携を図りながら、側面から支援を継続していきたい。

3. 参加者の声

- ・コロナが明けて、また多くの森林体験や木工体験を楽しむことができてうれしかった。交流会では、色んなゲームを通して他の少年団の子とも友達になって、一緒に楽しく参加できた。
久しぶりの自然体験に夢中になった。やっぱりとても楽しい体験だ。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R5.11月	R5.7～R6.2月	R6.4月	計	備考
事業量	九州森林の日 植樹体験	地区交流集会 (4地区)	全県交流集会		
参加者数	31人	123人	62人	216人	
実施場所	薩摩川内市 (市有林)	南さつま市ほか	始良市 (県民の森)		

森林ボランティア活動促進事業（C-52）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

- 一般公募による森林ボランティア養成講座（かごしま森林の学校）を開催し、新規育成に努めたほか、森林ボランティア活動の定着を図るため、実践活動や研修会を実施し、相互交流とスキルアップを図った。
また、県森林ボランティア連絡会加盟団体22団体の自主活動を促進するため、年間活動費を助成し、組織の活性化を支援するなど、県民総参加による森林づくりの気運を醸成した。

2. 活動の成果

- ・森林ボランティア養成講座（かごしま森林の学校）は、地元鹿児島大学等から外部講師を招き、計7回の講座を実施、6人に修了証を交付した。
- ・森林ボランティア団体のリーダーを対象とした研修会（リスクアセスメント研修・森づくり現地研修）への参加も定着しており、四半期毎に開催する森林ボランティア連絡会議と相まって、情報共有および相互交流が促進され、資質の向上が図られた。
また、団体運営の年間活動費の助成により、森林ボランティア団体の自主活動が促進され、公募事業などに積極的に取り組む団体も増加した。

3. 参加者の声

- ・かごしま森林の学校に参加して、これまで何となく知っていた知識が深まり、とても勉強になった。室内の講話だけでなく、現場での実践活動もあって、さらに森林・林業に、興味が湧いてきた。
- ・森林に係わる人たちの日々の努力の積み重ねが、豊かな森林を守り育てることにつながっている。私たち森林ボランティアもささやかな協力者として、安全な基本作業に努めながら、多くの森づくり活動に貢献していくことで、ボランティアの輪を広げていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	R5年10月～R6年5月	R5.10月13日	R5.10月24,25日	計	備考
事業量	森林インストラクター 養成講座 7回 修了者 6人	森林整備活動安全指導 研修会 (救命救急処置研修)	森林ボランティアリー ダースキルアップ研修会 (森づくり研修)		
参加者数	42人	21人	27人	90人	
実施場所	県内各地	鹿児島市	大分県、熊本県		

令和5年度 緑の育樹祭開催事業（A-115）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

事業実施日 令和6年1月20日（土）

主 催 公益社団法人沖縄県緑化推進委員会、八重瀬町

大会テーマ 「育てよう 緑豊かな 八重瀬町」

森林が地球温暖化防止に重要な役割を果たしている事について、理解を深め県民参加の森づくりを進めるため育樹祭を開催した。式典において、主催者、来賓のあいさつ、緑化コンクールの表彰、緑の少年団による大会決議を行い、式典終了後、参加者全員による施肥作業、補植作業を実施。

2. 活動の成果

潤いと安らぎのある緑豊かな美ら島に育てるには多くの人手と時間が必要であることに理解を深め、保育の重要性を認識し実践した。

八重瀬公園は、八重瀬町の八重瀬岳の中腹、八重瀬按司（あじ：領主的豪族）の居城跡として知られる八重瀬城跡にある公園である。南部随一の桜の名所としても知られており、公園内の両脇の階段には約500本程の寒緋桜（カンヒザクラ）が並ぶ。本育樹祭により、ますます自然豊かな場所となり県民の憩いの場として活用されることを期待する。

今後、適切な保育管理を実施することにより観光立県を目指す本県において、緑の美ら島沖縄を目指し今後も緑化活動を取り組んでいく気運を高めた。

3. 参加者の声

今後、適切に保育作業をすることによりさらに緑豊かな憩いの場となるようにしていきたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	令和6年1月20日	計	備考
事業量	緑の育樹祭の開催		
参加者数	150人	150人	
実施場所	沖縄県八重瀬町		

令和4年度・ 事業期間延長分

木になるフェスティバル (A-14)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

1) 活動の目的

北海道の森林・木材関連の展示施設情報を提供するとともに、道産材を用いた木工作を通じ、北海道の森林や樹木に対する親しみと理解を深める。

2) 活動の内容

道産木製品の展示施設である「木と暮らしの情報館」および広報誌で道内の展示施設情報を広く提供した。また、森林・木材に関心を持つインターンシップ高校生を対象に、関連情報を提供するとともに、道産材を使った木工作体験を実施した。

2. 活動の成果

道内17か所の森林・木材関連展示施設情報を整理し、広く公開（資料名「北海道にある森林・林業・木材・木製品の展示施設」）したことで、それら展示施設に関する情報を得る機会を提供でき、さらに今後継続的に広報することによってそれら施設への訪問者増への寄与が期待される。また、将来の就業に向けた情報収集・体験を希望する高校生に対して、6回にわたり森林・木材の魅力を知る機会を提供したことで、この分野に対する関心を高めることができたものと思われる。

3. 参加者の声

- ・北海道の森林資源の豊かさ、その木材の特徴（本州との違い）が印象的だった。
- ・旭川地域が木材関連産業の盛んな地であることを知った。
- ・樹種による性質（色彩、重さ）の違いを感じた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月12日	9月20日	10月14日	10月19日	11月1日	11月16日	合計
事業量	木になるフェスティバル						
参加者数	9名	10名	10名	10名	9名	10名	58名
実施場所	木と暮らしの情報館						

京都モデルフォレスト協会

京都モデルフォレスト運動連携強化事業 (A-80)

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

モデルフォレスト運動における多くの「人とのつながり」「地域、企業、団体」をさらに強め、活かし、広げることによる運動のさらなる発展を目指して、運動のPRを行った。次世代を担う青少年や親子向け企画の充実のほか、一般府民を対象とした「府民公開講座」、企業の森林づくり担当者ら森林づくりリーダー等を対象とした体験講座等、また新たに保育園・幼稚園を対象とした環境教育事業等を実施し、多数のご参加をいただいた。また、国際モデルフォレストネットワーク加盟団体としてのネットワークを活かし、情報発信を行った。

2. 活動の成果

フィールドでの行事再開やコロナ禍に導入した自宅で森と親しめる親子向け企画に加え、新たに保育園・幼稚園企画向けに森林や自然への親しみ機会を提供するなど、より幅広い層に働きかけることができた。

3. 参加者の声

- ・他社の森林保全活動の様子が実際に見学できてよかった。（オープンフォレスト）
- ・森林保全の意義のお話や、実際の作業体験など貴重な体験となった。（トライアルフォレスト）
- ・普段立ち入ることのできない地域の、貴重な自然を見ることができた良かった。伏条台杉の姿は迫力があつた。（府民公開講座 一片波川の伏条台杉）
- ・木材市場は、広大な敷地に大きな丸太が山積みされている光景が印象的だった。自然との共生は山に暮らす人達の努力と根気によって成り立つもので、その精神の尊さを改めて感じる機会となった。（府民公開講座—木材利用）
- ・絵本を読んで、公園へ落ち葉を拾いに行き、自然のものを使って工作する時間は、贅沢なものでした。絵本をきっかけに自然となかよくなれる企画で、良かった。（森のえほんクラブ）
- ・イラストを見ながら、「これは〇〇」「お散歩でもみたよ」と普段散歩などで触れるたり目にする樹木について、子ども同士でも話を楽しむ姿がみられた。
- ・木のおもちゃの手触りと匂いが良く、保育者も安心して楽しませることができた。（園向け環境教育支援事業—絵本と木のおもちゃの提供）

実績報告とりまとめ表

事業量	企業参加の森林づくり オープンフォレスト・トライアルフォレスト	活動ボランティア等向け講座	府民公開講座			次世代向け環境教育事業		
			伏条台杉 (片波川)	ふるさとの森 (府民の森)	木材利用(合併記念の森)	森のえほんくらぶ (秋、冬)		園向け環境教育支援
実施時期	R4.12.10 R5.3.16	R5.2.1	R4.11.1	R5.3.1	R5.6.9	R 5 9~10月	R5.12 ~R6.1月	R6.3月
参加者数 (人)	71、6	7	19	18	19	30	500	910
実施場所	和東町 南丹市	京都市 右京区	京都市 右京区	南丹市	京都市 右京区	自宅		府内各園

森の魅力普及啓発事業（A-101）

ファンド事業の概要

1. 活動の概要

森の魅力や森林の持つ機能、木の良さ等を広く伝え、森林を守り育てることの必要性を普及啓発するためのイベントや学習会を実施した。

- ①森林ボランティア養成講座現地研修「春の春分峠を歩こう」
- ②カードゲーム「moritomirai（モリトミライ）」体験会 in 高知
- ③樹木剪定技術研修会
- ④米奥小三代目ツリーハウス改修プロジェクト
- ⑤農林漁業の学習と植樹体験事業
- ⑥みどりの週間行事

2. 活動の成果

一般を対象とした研修や児童生徒を対象とした学習会を行い、幅広い層に対して森林保全等の普及啓発ができた。研修会で得た知識や技術等が今後のボランティア活動に生かされることが期待できる。

3. 参加者の声

- ・ガイドのお話しもわかりやすく、素敵な山歩きができました。次の世代のためにも森や山を守っていくことは大切だなと思った。
- ・ゲームの目的や狙いを体験を通して理解することができた。単純に林業について学ぶだけでなく、自らの行動がどのような影響をもたらすか意識できるのが良かった。
- ・こまめな手入れがないと荒れ果てた状態になるのがよくわかった。各地でのボランティア活動のための技術向上となった。
- ・しばらく使用禁止となっていたツリーハウスを、地域の支援者や関係者により卒業式前に修繕することができて良かった。
- ・天候不良で山での植樹が中止となったが、山川海のつながりを学習することができて良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月14日	12月23日	12月10日	2月21日、 23日、24日	2月22日	4月20日、 21日	計
事業量	森林ボランティア養成講座現地研修「春の春分峠を歩こう」	カードゲーム「moritomirai（モリトミライ）」体験会 in 高知	樹木剪定技術研修会	米奥小三代目ツリーハウス改修プロジェクト	農林漁業の学習と植樹体験事業	みどりの週間行事	
参加者数	19人	24人	18人	のべ20人	29人	68人	のべ178人
実施場所	梶原町	高知市	高知市	四万十町	宿毛市		

令和5年度 緑と水の森林ファンド都道府県事業一覧

(単位：円)

都道府県	区分	番号	事業名	助成額	実施額	備考
北海道	普	A1	「美遊の森」体験学習事業	100,000	78,870	
	普	A2	青少年育成事業	200,000	142,537	
	普	A3	野幌自然休養林再生事業	110,000	81,000	
	普	A4	お魚を増やす植樹運動促進事業	300,000	300,000	
	普	A5	イベント家族きこの観察会事業	130,000	130,000	
	普	A6	北海道指導林家社会貢献緑化推進事業	50,000	50,000	
	普	A7	次世代に引き継ぐ森林づくり事業	250,000	250,000	
	普	A8	「羊蹄里山の森」における森づくり・森林空間利用事業	200,000	200,000	
	普	A9	森林ボランティア活動推進事業	400,000	400,000	
	普	A10	旭山希少種調査・保護 生物多様性保全事業	200,000	200,000	
	普	A11	野幌森林公園観察会	174,000	174,000	
	普	A12	札幌市定山溪自然の村 定山溪遊々の森を活用したプログラム	300,000	300,000	
	普	A13	木になるフェスティバル	170,000	170,000	
	普	A14	普及啓発事業「森林（もり）の市」	350,000	350,000	
	普	A15	☆日曜大工事業	200,000	200,000	
	普	A16	枝幸町民植樹祭	200,000	200,000	
	普	A17	生物多様性の保全を目指したオホーツクの森づくり事業	200,000	200,000	
	普	A18	森林及び木製遊具体験事業	150,000	150,000	
	普	A19	小学校の森林体験学習（総合学習）支援事業	500,000	442,507	
	普	A20	木育ひろば in チ・カ・ホ	500,000	500,000	
	普	A21	北海道木育フェスタ推進事業	1,565,873	1,565,873	
基	C1	馬追自然の森整備事業	50,000	50,000		
基	C2	コンサ百年の森づくり事業	145,550	145,550		
基	C3	野幌の森林再生事業と親子による育樹祭	200,000	200,000		
基	C4	☆旧豊平川河岸に原始の森を創る 150年プロジェクト	300,000	300,000		
基	C5	森林整備で地球環境の一助となる！	100,000	100,000		
基	C6	☆札幌市連携：さっぽろふるさとの森づくり事業	80,000	80,000		
基	C7	恵庭かわまちづくり植栽事業	204,707	204,707		
基	C8	令和5年度見緑地内植樹・環境整備保全事業	100,000	100,000		
基	C9	☆こころねの森 整備・活用事業	300,000	300,000		
基	C10	五稜郭保安林清掃事業	100,000	100,000		
基	C11	「おさかなの森づくり運動」事業	200,000	200,000		
基	C12	第29回サケの上る森づくり植樹祭	200,000	200,000		
基	C13	「ユネスコの森づくり」兼「旭川ユネスコ協会設立50周年記念植樹会」	50,000	50,000		
基	C14	帯広の森第7および第8ブロック森づくり事業	150,000	150,000		
基	C15	森は海の恋人植樹事業	170,000	170,000		
基	C16	野付湾の流域河川の河畔林づくり事業	300,000	300,000		
青森	普	A22	☆「未来の青い森県民植樹祭」実施事業	1,000,000	1,000,000	
	普	A23	木と森と人のふれあい事業	960,000	960,000	
岩手	普	A24	令和6年度遠野市緑化祭	250,000	250,000	
	普	A25	一関地方育樹祭	200,000	200,000	
	普	A26	緑の少年団育成事業	200,000	200,000	
	普	A27	木工工作キット配布事業	200,000	200,000	
	普	A28	ふるさとの巨樹・名木観察会	200,000	200,000	
	普	A29	第54回岩手県緑の少年団大会	1,600,000	1,600,000	
宮城	基	C17	宮城県みどりの少年団大会開催事業	2,040,000	2,040,000	
秋田	普	A30	緑と水のキャンペーン事業	1,250,000	1,250,000	
	普	A31	市民グループ森林づくり事業	700,000	700,000	
	基	C18	緑の少年団育成事業	450,000	450,000	
	基	C19	森林活動指導者支援事業	250,000	250,000	
山形	普	A32	山形県林業まつり開催事業	400,000	400,000	
	普	A33	庄内森とみどりのフェスティバル開催事業	200,000	200,000	
	普	A34	緑の環境づくり啓発事業	600,000	600,000	
	普	A35	山形県緑の少年団交流研修支援事業	760,000	760,000	
	普	A36	緑化普及啓発事業（第32回緑の提言作文コンクール）	900,000	900,000	
福島	普	A37	普及啓発事業（第48回福島県林業祭）	700,000	700,000	
	普	A38	ファミリー緑の教室の開催事業	300,000	300,000	
	普	A39	ふくしま緑の醸成事業	300,000	300,000	
	普	A40	青少年に対する林業普及啓発資材の配布事業	150,000	150,000	
茨城	普	A41	緑の体験教室開催事業	350,000	350,000	
	普	A42	グリーンフェスティバル開催事業	600,000	600,000	
	基	C21	森林ボランティア育成事業	300,000	300,000	
	基	C22	山村地域づくり活動助成事業	550,000	550,000	
	基	C23	緑化樹木等苗木無償配布事業	410,000	410,000	
	普	A43	森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発事業	1,840,000	1,840,000	
栃木	基	C24	青少年の教育の場としての森林の活用促進事業	200,000	200,000	
	普	A44	群馬県植樹祭開催事業	850,000	850,000	
群馬	普	A45	「木育」活動促進事業	500,000	500,000	
	普	A46	巨樹・古木巡りツアー事業	700,000	700,000	
	普	A47	森と木のまつり事業	480,000	480,000	

(単位：円)

埼玉	普	A48	さいたま森林フォトコンテスト事業	1,550,000	1,550,000
	普	A49	緑の少年団育成事業	170,000	170,000
	普	A50	緑化普及啓発事業	690,000	690,000
千葉	普	A51	令和5年度国土緑化運動ポスター原画コンクール	1,660,000	1,660,000
東京	調	B1	ふるさとの杜活力調査事業	2,250,000	2,250,000
神奈川			該当無し	0	
新潟	普	A52	卒寿の森づくり事業	673,000	673,000
	普	A53	にいがた緑の百年物語普及啓発事業(秋期)	1,903,000	1,903,000
	普	A54	にいがた緑の百年物語普及啓発事業(春期)	1,161,000	1,161,000
	普	A55	スガ池ビオトープ整備設計・調査委託事業	423,000	418,000
富山	普	A56	森林・木材等普及啓発事業	1,140,000	1,140,000
	基	C25	花とみどりの少年団活動支援事業	590,000	590,000
石川	普	A57	緑化思想の普及啓発事業	120,000	120,000
	基	C26	県内産緑化苗木無償配布事業	190,000	190,000
	基	C27	森づくりボランティア・キャンペーン事業	1,450,000	1,450,000
福井	普	A58	もりとふれあい推進事業	1,370,000	1,370,000
	基	C28	ふくいの森林づくり推進事業	500,000	500,000
山梨	普	A59	教職員森林・林業研修事業	150,000	150,000
	普	A60	緑の少年隊活動発表会大会開催事業	180,000	180,000
	普	A61	緑化ポスターコンクール等開催事業	400,000	400,000
	普	A62	子ども樹木博士認定事業	400,000	400,000
	普	A63	親子緑の集い開催事業	500,000	500,000
	普	A64	親子森林・林業体験教室開催事業	400,000	400,000
	普	A65	森林環境教育・木育支援事業	300,000	300,000
長野	普	A66	緑・森林の感謝祭等開催事業及び児童啓発事業	4,160,000	4,160,000
岐阜	普	A67	緑化推進キャンペーンと活動資材供給事業	2,380,000	2,380,000
	基	C29	恵みの森づくり事業	800,000	800,000
静岡	普	A68	森づくり県民大作戦支援事業	740,000	740,000
	基	C30	森林E S D推進事業	2,600,000	2,600,000
愛知	普	A69	みどりに親しむ集い事業	1,050,000	1,050,000
	普	A70	みどりフェスティバル23秋・24春事業	600,000	600,000
	普	A71	苗木の育成と配布事業	600,000	600,000
	調	B2	ふるさと樹木診断事業	980,000	980,000
	基	C31	森林環境教育事業	600,000	600,000
三重	普	A72	緑の少年隊活動推進	469,000	469,000
	普	A73	森林教室開催	293,000	293,000
	普	A74	森林ボランティア活動促進	515,000	515,000
	普	A75	県民参加の植樹祭開催事業	478,000	478,000
	普	A76	海・山連携植樹事業	501,000	501,000
	普	A76.1	苗木配布、緑化相談	154,000	154,000
	基	C32	緑の少年団育成事業	2,250,000	2,250,000
滋賀	普	A77	京都モデルフォレスト運動連携強化事業	2,000,000	2,000,000
京都	普	A78	自然環境保全団体ネットワーク事業	200,000	200,000
	普	A79	府民参加の森林づくり	2,650,000	2,650,000
兵庫	普	A80	ゆめさきの森公園活動支援	200,000	200,000
	普	A81	ひょうご木材フェアの開催	200,000	200,000
	基	C33	森林整備・緑化活動支援事業緑の少年団活動支援事業	2,540,000	2,540,000
奈良	普	A82	森の文化活動事業	1,510,000	1,510,000
	基	C34	ボランティア活動推進事業	200,000	200,000
和歌山	普	A83	普及啓発事業	1,690,000	1,690,000
	基	C35	活動基盤の整備	640,000	640,000
鳥取	普	A84	樹名板設置事業	244,200	244,200
	普	A85	木工工作キット配布事業	1,546,400	1,546,400
	基	C36	青少年・民間活動グループの育成支援事業	49,400	49,400
島根	普	A86	「森の誕生日」2024事業	400,000	400,000
	基	C37	緑の少年団育成強化事業	1,470,000	1,470,000
岡山	普	A87	森林を考える岡山県民のつどい	400,000	400,000
	普	A88	県産木材フェア開催事業	400,000	400,000
	普	A89	くらしき都市緑化フェア	550,000	550,000
	基	C38	緑化普及推進事業	1,140,000	1,140,000
広島	普	A90	「みどりの集い」開催事業	1,820,000	1,820,000
	普	A91	「ひろもくデザインワード」開催事業	500,000	500,000
	基	C39	「緑の少年団交流集会」開催事業	700,000	700,000
山口	普	A92	森林体験学習支援事業	640,000	640,000
	基	C40	都市と山村ふれあい交流促進事業	360,000	360,000
	基	C41	記念の森造成事業	1,000,000	1,000,000
徳島	基	C42	企業の森づくり普及啓発イベント	1,960,000	1,960,000
香川	普	A93	緑化普及活動事業	1,410,000	1,410,000
愛媛	普	A94	木工作品製作キット配布事業	1,880,000	1,880,000
	普	A95	愛媛の森林友の会の育成及び研修活動	200,000	200,000
高知	普	A96	土佐の名所の樹木活性化事業	600,000	600,000
	普	A97	森のようちえん推進事業	450,000	450,000

(単位：円)

	普	A98	高知県森林インストラクター養成講座	400,000	400,000	
	基	C43	地域の森林整備事業	60,000	60,000	
	基	C44	活動基盤整備推進事業	820,000	820,000	
福岡	普	A99	森林ふれあい交流	510,000	510,000	
	普	A100	グリーンフェスティバル 202 4	570,000	570,000	
	普	A101	第3 3 回世界子ども愛樹祭コンクール	300,000	300,000	
	普	A102	第1 1 回もりもり広がる森林づくり	350,000	350,000	
	普	A103	花立山の里山保全作業	300,000	300,000	
	普	A104	里まちサイクルプロジェクト	450,000	450,000	
	普	A105	森を五感で感じよう（森林体験活動）	210,000	210,000	
佐賀	普	A106	森川海人フェス！開催事業	1,400,000	1,304,298	
	基	C45	緑の探検学習会開催事業	485,702	487,702	
長崎	普	A107	森林のつどい事業	1,220,000	1,220,000	
	基	C46	緑の少年団活動活性化事業	1,050,000	1,050,000	
	基	C47	森のめぐみいきいき活用促進事業	500,000	500,000	
熊本	普	A108	くまもと森づくり普及啓発事業	1,000,000	1,000,000	
	基	C48	緑の少年団活動育成事業	1,090,000	1,090,000	
	基	C49	シンボル森林の活用促進事業	600,000	600,000	
大分	普	A109	ふれあい森林教室	550,000	550,000	
	普	A110	木と暮らしのフェア	80,000	80,000	
	普	A111	大分県みどりの少年団のつどい	250,000	250,000	
	調	B3	名木保全事業	1,010,000	1,010,000	
	基	C50	森林ボランティアリーダー養成研修	150,000	150,000	
宮崎	基	C112	緑と花のふれあい推進事業	2,350,000	2,350,000	
	普	A113	森林浴癒しの集い事業	300,000	300,000	
鹿児島	普	A114	かごしまの緑・元気な森林体験事業	1,830,000	1,830,000	
	調	B4	かごしまの名木古木樹勢診断事業	200,000	200,000	
	基	C51	活力ある緑の少年団活動促進事業	700,000	700,000	
	基	C52	森林ボランティア活動促進事業	900,000	900,000	
沖縄	普	A115	令和5年度 緑の育樹祭開催事業	1,470,000	1,470,000	
合 計				118,185,832		

令和4年度 緑と水の森林ファンド都道府県事業一覧

(単位：円)

都道府県	区分	番号	事業名	助成額	実施額	備考
北海道	普	A14	木になるフェスティバル	170,000	170,000	
京都	普	A80	京都モデルフォレスト運動連携強化事業	2,000,000	2,000,000	

国 緑 5 第 2 5 号
令 和 5 年 2 月 1 日

各都道府県緑化推進委員会 様

公益社団法人 国土緑化推進機構
理事長 濱田 純一

令和5年度「緑と水の森林ファンド」都道府県事業の助成申請について

令和5年度「緑と水の森林ファンド」都道府県事業の助成につきましては、別添「令和5年度緑と水の森林ファンド都道府県事業実施要領」（以下、「要領」という。）を踏まえ、〔様式1〕により令和5年4月7日（金）までに申請してください。

なお、最近の厳しい経済情勢から森林ファンド運用収入が減少傾向で推移しております。事業の助成申請に当たっては、必要性・効率性等に十分留意されますようお願いいたします。

また、具体的事業内容につきましては、地域の実態・特性を十分考慮するとともに重点課題（別添「要領」のⅡ）の趣旨を踏まえて申請するよう併せてお願いいたします。

（提出は、メール（ファイル添付、印略）でも受け付けます。）

担当：基金業務 大沼
03（3262）8457
E-mail: ohnumak2241@green.or.jp

令和5年度「緑と水の森林ファンド」都道府県事業実施要領

I 基本方針

社会環境の変化に伴い、国民の森林・みどりに対する関心はますます高まっており、具体的な「国民参加の森林づくり運動」を一層推進することが課題となっています。

平成24年12月「国際森林デー」の制定、平成25年11月「国連持続可能な開発のための教育10年（ESD）」世界会議等の意義、平成27年9月の国連サミットで採択された17の国際目標（SDGs：持続可能な開発目標）、人生100年時代におけるライフステージに応じた健康・教育・観光等への森林利用の促進を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森のようちえんなど新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け、森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中、公益社団法人国土緑化推進機構では、「緑と水の森林ファンド」の基本課題である森林資源の整備及びこれらを通じた水資源のかん養や森林の利用等に関する総合的な調査研究、普及啓発、基盤整備等の推進を図るため、民間団体の主体的・多様な参加による「国民参加の森林づくり」運動を展開することとし、以下により「緑と水の森林ファンド」都道府県事業を実施します。

II 重点課題の設定

令和5年度においては、以下の重点課題を設け、これらのテーマに沿った事業を重点的に実施することとします。

- ① 人生100年時代におけるライフステージに応じた健康・教育・観光等への森林利用の促進
- ② 「緑や水」「森林と木材の利用」「震災復興支援」など森林に関する総合的・効果的な普及啓発
- ③ 地域材の利用推進等山村資源の有効活用等による山村地域の活性化
- ④ 森づくり活動における安全確保、リーダーの養成、ネットワーク形成支援等による森林ボランティア活動支援
- ⑤ 学校林活動など森林ESD（森林環境教育）の促進や緑の少年団活動支援、中高等教育との連携等による次世代の育成
- ⑥ 森林の公益的機能、持続的な森林づくりの循環等に関する研究

Ⅲ 具体的な事業の展開

普及啓発、調査研究、活動基盤の整備、国際交流の4分野において、以下の事業を重点的に実施します。

1 普及啓発事業

- (1) 人生100年時代におけるライフステージに応じた健康・教育・観光等への森林利用の促進を図るための普及啓発活動
- (2) 「緑や水」「森林と木材の利用」など森林の総合的利用の促進
- (3) 青少年を対象とする森林ESDの推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育の促進
- (4) 地域材の利用・木材需要の拡大等の山村地域の活性化・地域づくり運動の推進

2 調査研究

- (1) 森林の保全・公益的機能の増進等に関する調査研究
- (2) 青少年を対象とする森林ESDの推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育に関する調査研究
- (3) 学校林や学校周辺森林の教育的活用のための調査研究
- (4) 山村資源の有効活用・地場産業の振興等山村地域活性化に関する調査研究

3 活動基盤の整備

- (1) 森林ESDの推進（森のようちえんを含む）や緑の少年団活動など森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等の活動支援
- (2) 森林づくり活動を通じた農山村と都市住民等との交流促進
- (3) 青少年の教育、中高等教育との連携の場としての森林の活用促進
- (4) 地域のシンボリック森林の利用促進

4 国際交流

- (1) 国内で開催される森林・環境に関する国際会議への支援
- (2) 森林・林業に関する海外との情報交換

Ⅳ 事業の適切な実施

令和5年度も厳しい予算事情にあることから、事業の必要性、緊急性、効率性、独自性や地域の特性等を十分考慮し、適切な実施に努めるものとします。

緑と水の森林ファンド都道府県事業 報告集 Vol. 13

令和 7 年 3 月発行

発行 公益社団法人 国土緑化推進機構

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館

TEL.03-6362-8457 FAX.03-3264-3974

電子メールアドレス : info@green.or.jp

URL : <https://www.green.or.jp>